

男女平等に関する意識調査
報 告 書

2017年（平成29年）3月
高 石 市

はじめに

本市では、すべての人々が性別に関係なく対等な一員として認め合い、仕事、家庭、地域など、あらゆる分野において平等に参画する機会を有し、喜びも責任もわかちあう男女共同参画社会の実現をめざして、2007年(平成19年)に「高石市男女共同参画計画」を策定し、様々な施策に取り組んできました。この計画は本市の男女共同参画政策の指針を示すものであり、計画の期間を10年間としています。

このたび、「第2次高石市男女共同参画計画」の策定にあたり、社会情勢に対応した適切な施策を推進していくための基礎資料を得ることを目的として市民意識調査を実施いたしました。

今回の調査から見えてきた市民意識や実態、新たな課題等を考慮して、より実効的な計画となるよう努めてまいります。

最後に、本調査にご協力していただきました市民の皆様に厚くお礼申し上げますとともに、今後とも男女共同参画社会の実現に向け、より一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

2017年(平成29年)3月

高石市長 阪口 伸六

～ 目 次 ～

第1章 調査の概要	1
第2章 回答者の属性	3
1. 性別	3
2. 年齢	3
3. 配偶関係	4
4. 就業状態	5
5. 同居する子どもの有無	8
6. 同居する末子の年齢	9
7. 家族構成	10
第3章 調査結果のまとめ	11
第4章 調査結果	15
1. 男女平等について	15
(1) 各分野の男女の地位の平等感	15
(2) 性別役割分担意識	23
(3) 「男は仕事、女は家庭」と思う理由	26
(4) 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由	28
2. 子育てや暮らしについて	30
(1) 子どもに受けさせたい教育の程度	30
(2) 子どもに身につけてほしい力	32
(3) 学校で男女平等を推進するために必要なこと	36
(4) 自身が介護を必要とするようになった場合の担い手	38
(5) 家族が介護を必要とするようになった場合の担い手	39
(6) 家庭の仕事の役割分担	40
(7) 家事等の時間	44
(8) 避難所において快適に過ごすための取組	47
3. 生き方や仕事について	49
(1) 女性が職業をもつことに対する意識	49
(2) 就労意向	52
(3) 現在、仕事をしていない理由	53
(4) 仕事に要する時間	55
(5) 働くうえでの悩みや不満	57
(6) 職場において男女格差を感じること	59
(7) 生活の中で優先すること	64
(8) 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと	66

4. 女性の人権と男女間の暴力について	68
(1) 女性の人権が侵害されていると思うこと	68
(2) 暴力だと思う事柄	70
(3) 配偶者や恋人からの暴力(DV)を受けた経験	72
(4) ドメスティック・バイオレンス(DV)の相談先	74
(5) ドメスティック・バイオレンス(DV)を相談しなかった理由	76
5. 社会的活動について	78
(1) 参加している・参加したい社会活動	78
(2) 社会的な活動に参加するうえでの支障	81
6. 男女共同参画社会について	83
(1) 男女共同参画に関する言葉の認知度	83
(2) 男女共同参画社会を実現するために必要な取組	86
(3) 男女共同参画の進展	88
7. 自由意見	91
資料 調査票	94

第1章 調査の概要

1. 調査目的

高石市では、平成19年に「高石市男女共同参画計画」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けた様々な取り組みを行ってきた。

平成28年度にこの「高石市男女共同参画計画」の計画期間が終了することから、社会情勢の変化や国や府の施策の動向を踏まえた新たな「高石市男女共同参画計画」を策定する。

本調査は、市民の男女平等意識や現状ニーズ等を把握することを通じて、「高石市男女共同参画計画」策定及び今後の男女共同参画施策推進のための基礎資料を得ることを目的として、調査を実施したものである。

2. 調査対象

20歳以上の市民2,000人（男女各1,000人）

3. 標本抽出方法

住民基本台帳から無作為抽出

4. 調査方法

郵送による調査票発送と回収

5. 調査期間

平成28年7月1日～7月20日

6. 調査内容

- ・男女平等について
- ・子育てや暮らしについて
- ・生き方や仕事について
- ・女性の人権と男女間の暴力について
- ・社会的活動について
- ・男女共同参画社会について

7. 回収状況

標本数	回収数（回収率）		
	女性	男性	無回答
2,000票	531票	433票	14票
	978票 (48.9%)		

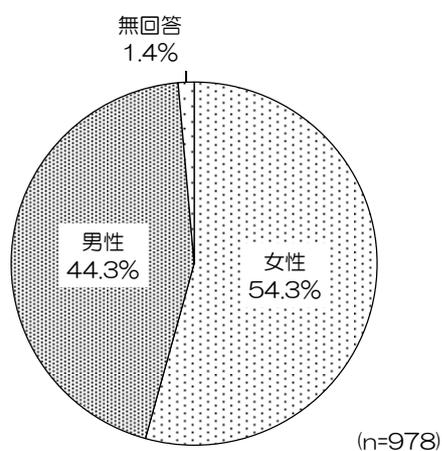
8. 報告書の見方について

- (1) 比率は、原則として各設問の無回答を含む集計対象総数(副設問では設問該当対象数)に対する百分率(%)を表している。1人の対象者に2つ以上の回答を求める設問では、百分率(%)の合計は100.0%を超える。
- (2) 百分率(%)は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表示した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体の示す数値とが一致しないことがある。
- (3) 図中にある「n」は、集計対象票数(あるいは、分類別の該当対象数)を示し、比率は「n」を100.0%として表した。
- (4) クロス集計の結果を示す図表においては、該当者の少ない分類項目、及び「その他」「不明(無回答)」は省略しているものがあり、各分類項目の該当対象数の合計と集計対象総数は一致しないことがある。
- (5) 本市における過去の調査や「男女共同参画社会に関する世論調査」(平成24年、内閣府)(以後、「全国調査」(平成24年)と表記)、「女性の活躍推進に関する世論調査」(平成26年、内閣府)(以後、「全国調査」(平成26年)と表記)、「男女共同参画にかかる府民意識調査」(平成26年、大阪府)(以後、「大阪府調査」(平成26年)と表記)との比較においては、設問や選択肢等が一致していない場合があり、図表等に完全な比較を表せない設問もある。
- (6) 就業状態別のクロス集計の結果は分類項目の表現を以下の通り集約・簡略化して表記している。
 - 正社員等 …… 「勤め人(正規社員・職員)」
 - パート等 …… 「勤め人(臨時・パートアルバイト等非正規社員・職員)」
 - 自営業等 …… 「自営業主・自由業」「家族従業員」
 - 無業 …… 「家事専業(専業主婦・主夫)」「無職(家事専業をのぞく)」

第2章 回答者の属性

1. 性別

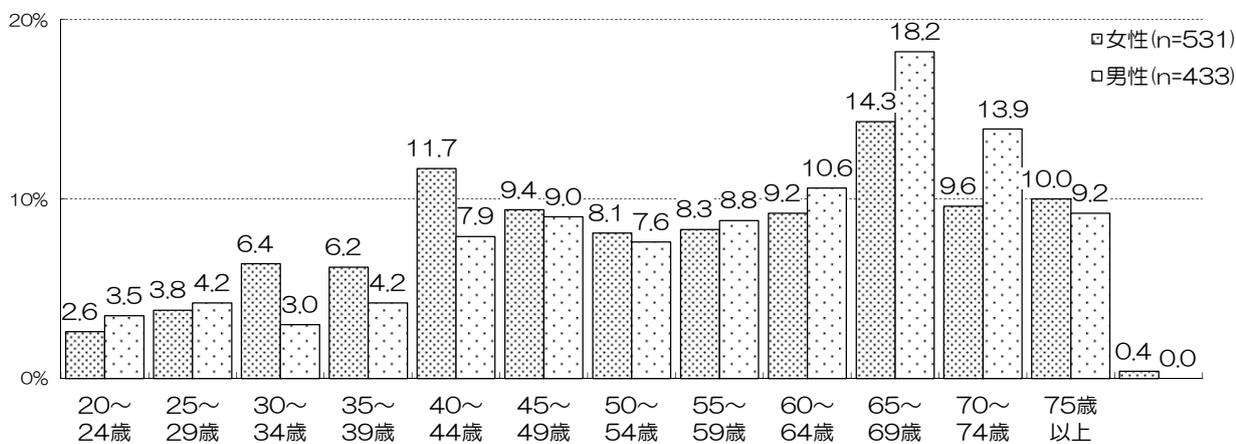
図 性別



回答者の性別は、「女性」が54.3%、「男性」が44.3%となっており、「女性」の割合が高くなっている。

2. 年齢

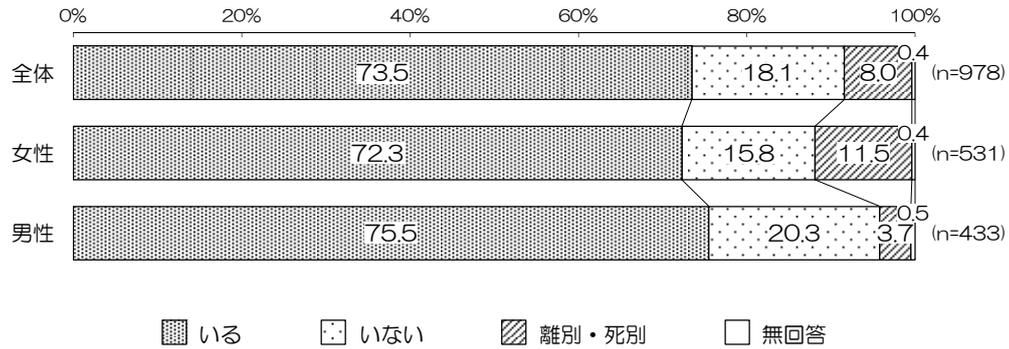
図 性別 年齢



回答者の年齢構成は、65歳以上の回答者が女性の約3割、男性の約4割を占めている。

3. 配偶関係

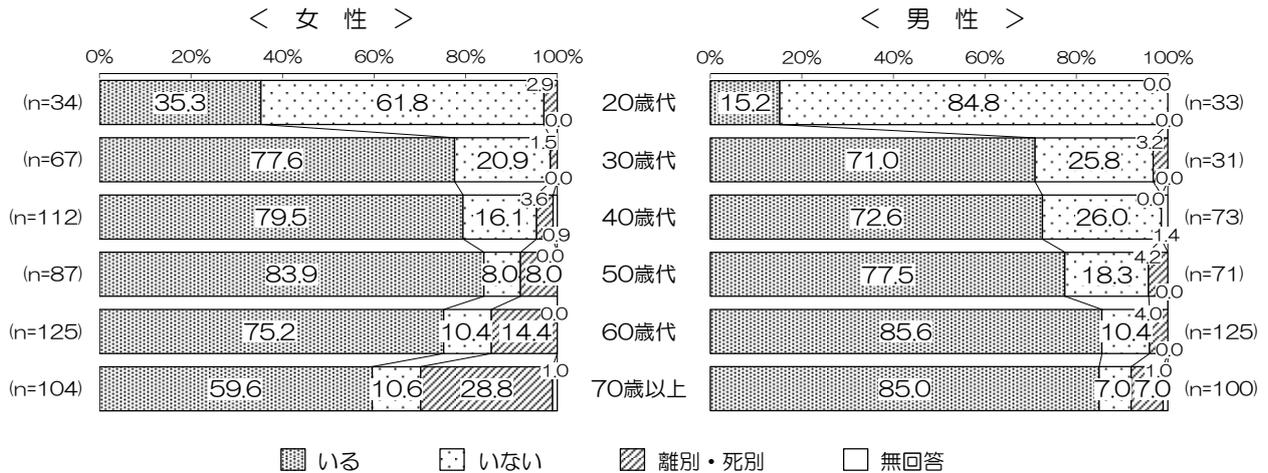
図 性別 配偶関係



配偶者の有無については、「いる」が73.5%、「いない」が18.1%、「離別・死別」が8.0%となっている。

性別にみると、女性は男性よりも「離別・死別」、男性は女性よりも「いない」の割合が高くなっている。

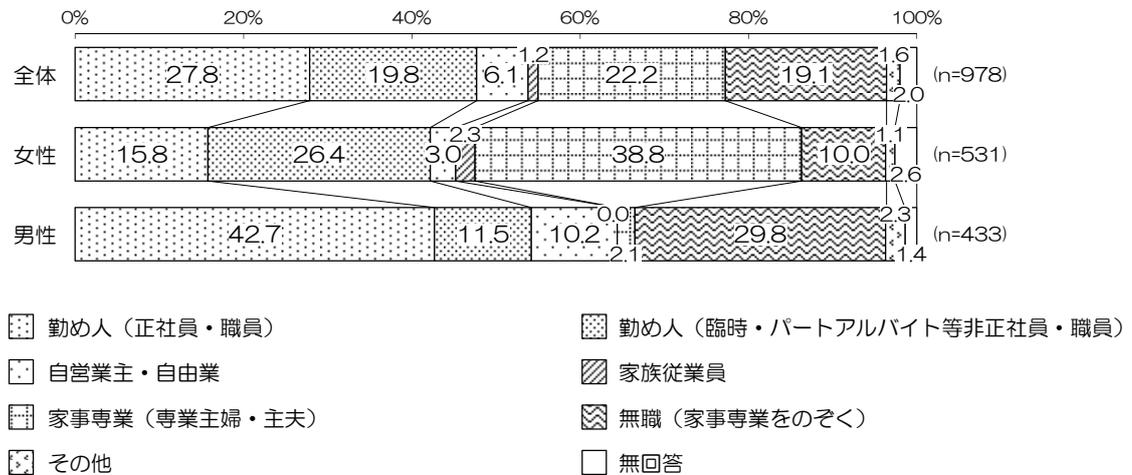
図 性・年齢別 配偶関係



年齢別にみると、20歳代は「いない」の割合が高く女性で61.8%、男性で84.8%となっている。30歳以上の年齢層では「いる」が多数を占めているが、60歳以上の女性では「離別・死別」が1割を超えている。

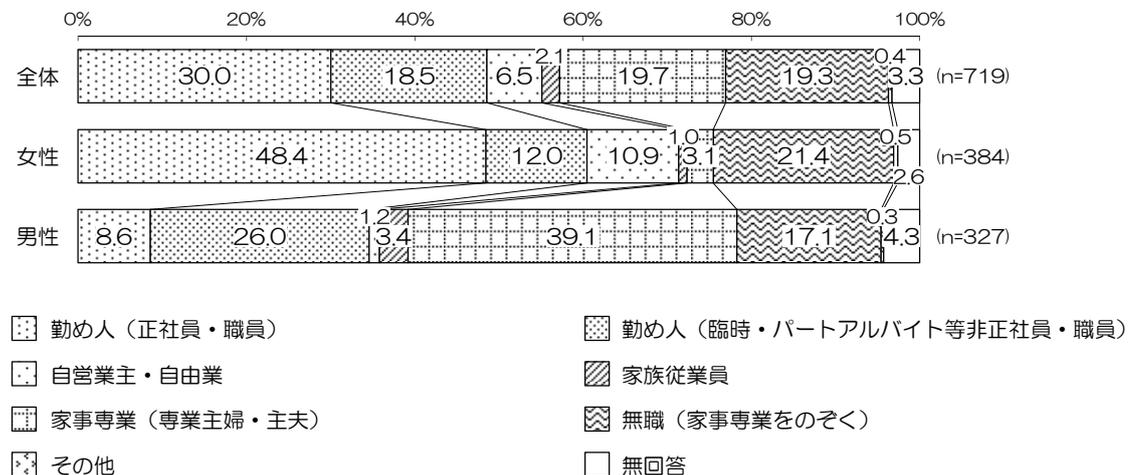
4. 就業状態

図 性別 就業状態



回答者の職業は、女性では「家事専業（専業主婦・主夫）」が 38.8%で最も高く、次いで「勤め人（臨時・パートアルバイト等非正社員・職員）」が 26.4%、「勤め人（正社員・職員）」が 15.8%となっており、仕事をしている人が約 4 割となっている。男性は、「勤め人（正社員・職員）」が 42.7%で最も高く、次いで「無職（家事専業をのぞく）」が 29.8%となっており、仕事をしている人が 6 割以上となっている。

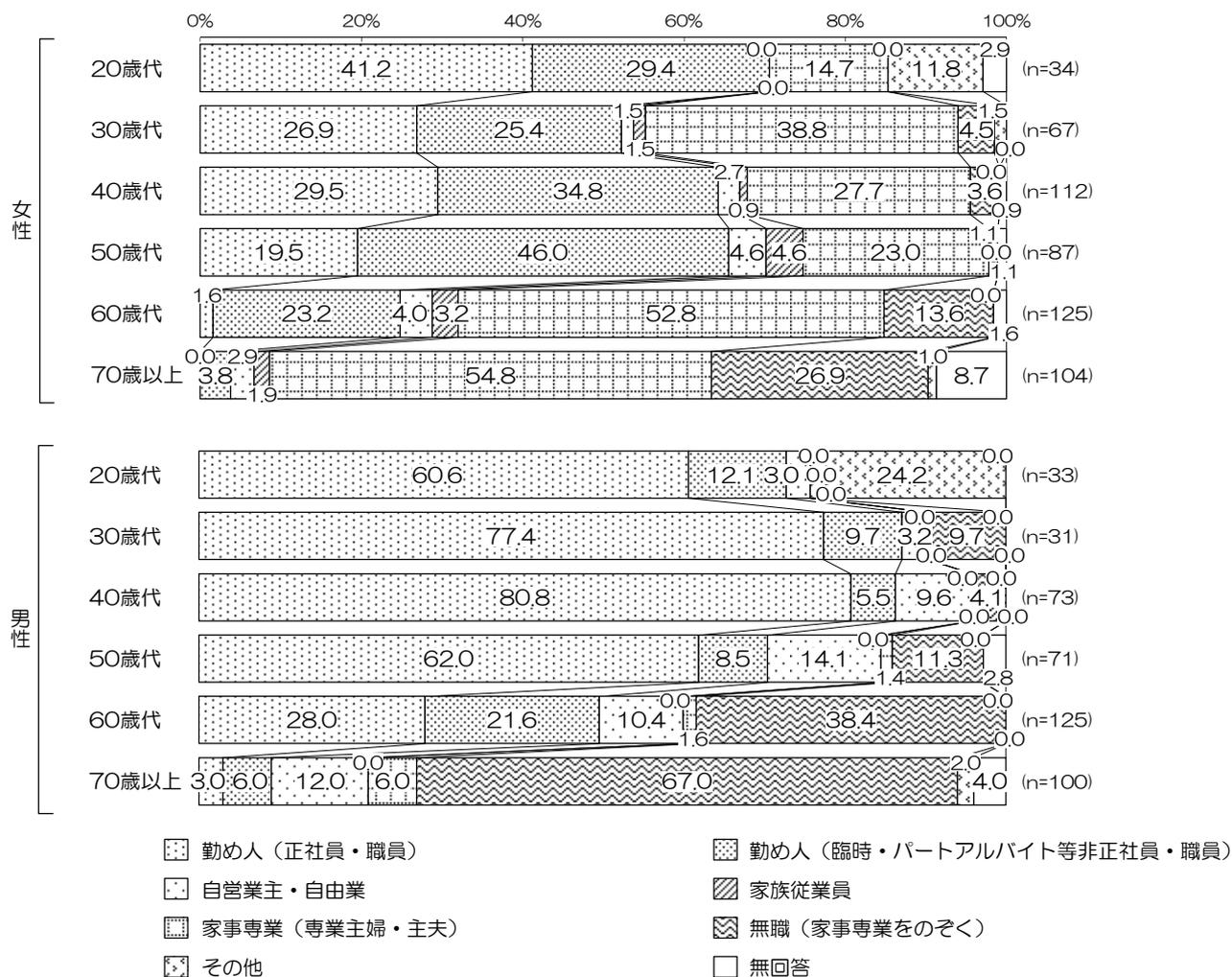
図 性別 配偶者・パートナーの就業状態



回答者の配偶者（パートナーを含む）の職業は、女性回答者の配偶者は「勤め人（正社員・職員）」が 48.4%を占め、次いで「無職（家事専業をのぞく）」が 21.4%となっている。

男性回答者の配偶者は、「家事専業（専業主婦・主夫）」が 39.1%、「勤め人（臨時・パートアルバイト等非正社員・職員）」が 26.0%となっている。

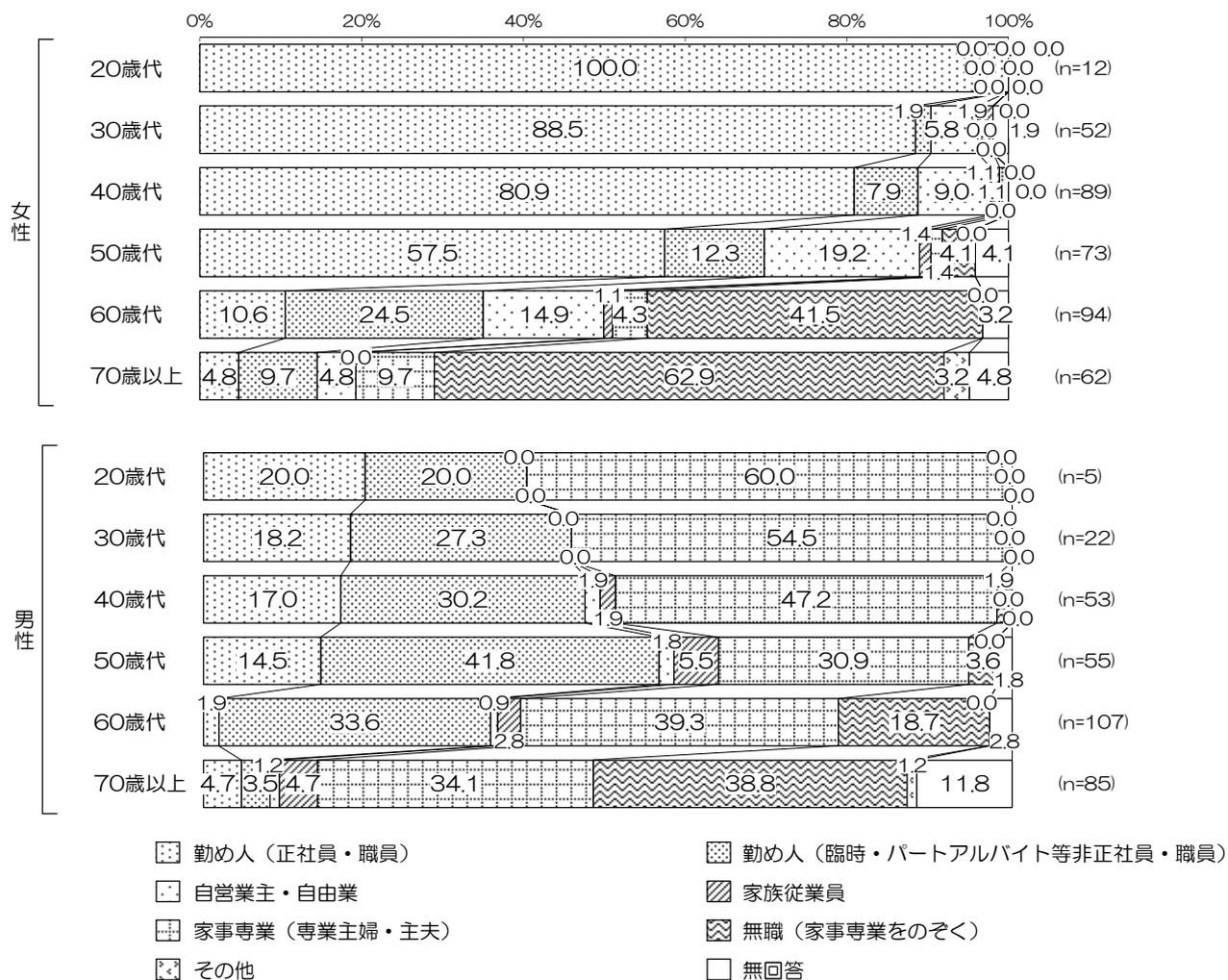
図 性・年齢別 就業状態



回答者本人の職業を年齢別にみると、女性では、20歳代は「勤め人（正社員・職員）」が41.2%で最も高いが、30歳代は「家事専業（専業主婦・主夫）」（38.8%）、40・50歳代は「勤め人（臨時・パートアルバイト等非正社員・職員）」（40歳代34.8%・50歳代46.0%）が最も高くなっている。ライフステージによって就労状況が変化していることがうかがわれる。

男性では、60歳未満の年齢層は「勤め人（正社員・職員）」が6~8割前後を占めている。

図 性・年齢別 配偶者・パートナーの就業状態

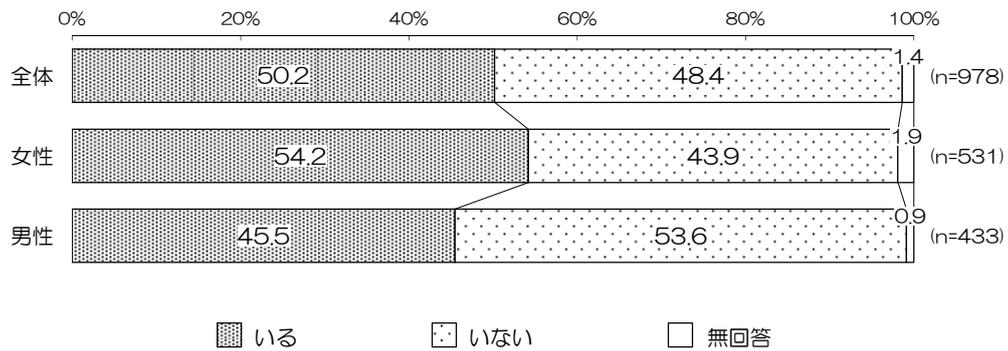


配偶者の職業を年齢別にみると、女性回答者の配偶者は50歳未満の年齢層では「勤め人（正社員・職員）」が多くを占め、とりわけ20歳代は100.0%、30歳代でも88.5%と高くなっている。

男性回答者の配偶者は、20歳代から50歳代にかけて年齢が高くなるにつれて、「勤め人（正社員・職員）」と「家事専業（専業主婦・主夫）」の割合が低くなり、「勤め人（臨時・パートアルバイト等非正社員・職員）」の割合が高くなっている。

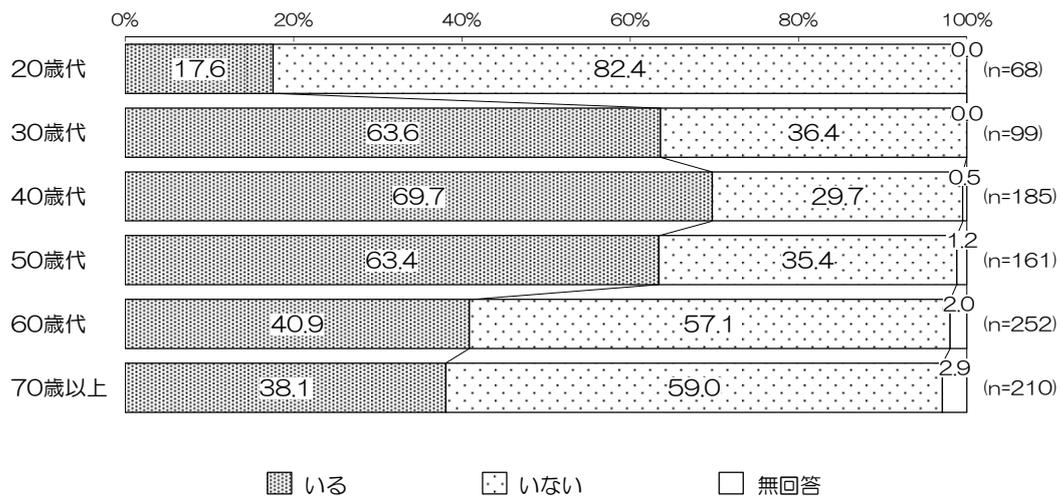
5. 同居する子どもの有無

図 性別 同居する子どもの有無



同居する子どもの有無は、「いる」が50.2%、「いない」が48.4%となっている。性別にみると、女性の方が同居する子どもがいる割合は高くなっている。

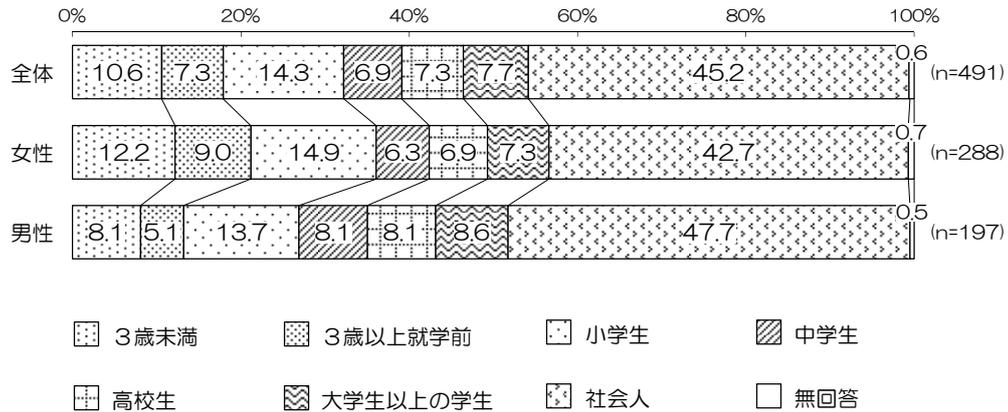
図 年齢別 同居する子どもの有無



年齢別にみると、30～50歳代では「いる」が6割を超えている。

6. 同居する末子の年齢

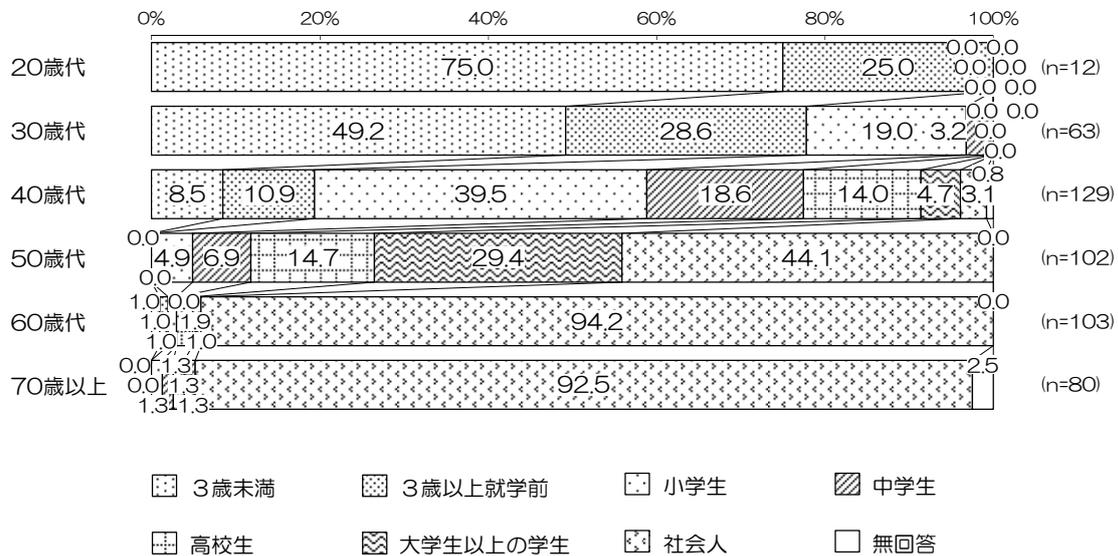
図 性別 同居する末子の年齢



同居する末子の年齢は、「社会人」が45.2%、次いで「小学生」が14.3%、「3歳未満」が10.6%となっている。

性別にみると、小学生以下を合計した割合は女性36.1%・男性26.9%となっており、女性の方が9.2ポイント高くなっている。

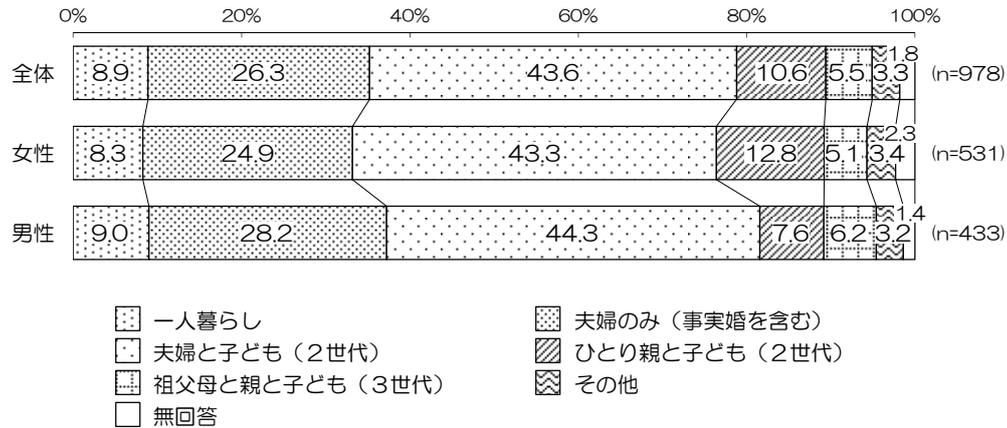
図 年齢別 同居する末子の年齢



年齢別にみると、20・30歳代は「3歳未満」、40歳代は「小学生」、50歳以上の年齢層は「社会人」の割合が最も高くなっている。

7. 家族構成

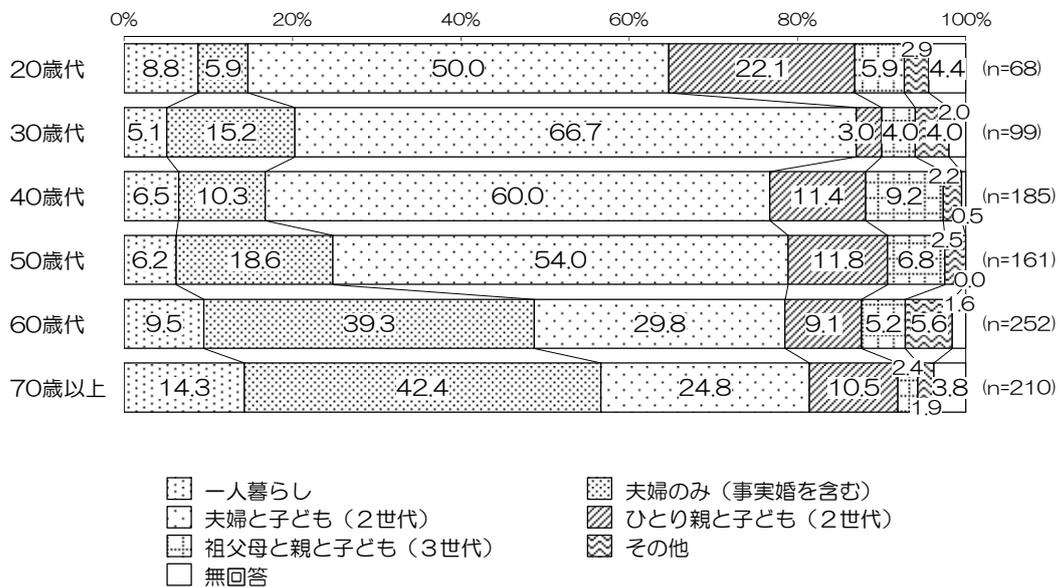
図 性別 家族構成



家族構成は、「夫婦と子ども (2世代)」が43.6%、「夫婦のみ (事実婚を含む)」が26.3%、「ひとり親と子ども (2世代)」が10.6%となっている。

性別にみると、女性は男性と比べて「ひとり親と子ども (2世代)」の割合がやや高くなっている。

図 年齢別 家族構成



年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「夫婦と子ども (2世代)」の割合は低く、「夫婦のみ (事実婚を含む)」の割合は高くなる傾向がみられる。

第3章 調査結果のまとめ

1. 男女平等について

■ 各分野の男女の地位の平等感（問7）

各分野における男女の地位の平等感をみると、「平等である」の割合が5割を超えているのは、「④ 学校教育では」（70.1%）のみとなっており、その他の分野はいずれも『男性優遇』が「平等である」を上回っている。『男性優遇』は「⑥ 政治・経済界では」（72.6%）、「③ 社会通念・慣習・しきたりでは」（68.0%）などの分野で特に割合が高く、回答者の性別では、男性よりも女性でその割合が高くなっている。

前回調査と比較すると、「③社会通念・慣習・しきたりでは」と「⑤職場では」では前回調査よりも「平等である」の割合がやや高くなっているが、「⑥ 政治・経済界では」「⑦ 法律・制度では」では前回調査よりも『男性優遇』の割合が高くなっている。「① 家庭では」では男性の『男性優遇』の割合が前回調査よりも10ポイント以上低くなっている。

■ 性別役割分担意識（問8）

「男は仕事、女は家庭」という考え方には女性の61.2%、男性の50.4%が『同感しない』と回答しており、男女とも『同感しない』が『同感する』を上回っている。

過去の調査と比較すると、男女とも約5ポイント平成17年調査より『同感しない』の割合が高くなっており、意識の変化がみられる。

同感する理由についてみると、女性では「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」（女性63.4%・男性43.8%）、男性では「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから」（女性57.6%・男性67.0%）の割合が最も高くなっている。

同感しない理由としては「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」（65.3%）の割合が高くなっている。

2. 子育てや暮らしについて

■ 子どもに受けさせたい教育の程度（問9）

子どもに受けさせたい教育の程度は、男の子・女の子ともに「大学」の割合が高いが、その割合は女の子61.6%・男の子69.9%と男の子の方が8.3ポイント高くなっている。また、「大学」に次いで高い項目は女の子では「短期大学・高等専門学校」（14.1%）、男の子では「大学院」（10.8%）となっており、男の子に対してより高い学歴を望む傾向がみてとれる。

■ 子どもに身につけてほしい力（問10）

「① 自立できる経済力」を「必ず身につけるべきだ」とする割合は、女の子に対しては43.4%、男の子に対しては84.9%となっており、男の子に対し強く期待されている。一方、「② 家事・育児の能力」を「必ず身につけるべきだ」の割合は、女の子58.3%・男の子26.1%となっており、女の子に対して期待が大きくなっている。

■ 学校で男女平等を推進するために必要なこと（問11）

学校で男女平等を推進するために必要なことは、「性別によってかたよることなく、個性や希望を重視した進路指導をする」が67.7%で最も高く、これに「男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」（49.9%）、「男女平等の意識を育てる授業をする」（44.8%）、「自分の心と体を大切に思うよう自尊感情を育む」（44.1%）の順に高くなっている。

■ 介護を必要とするようになった場合の担い手（問 12、問 13）

自分自身の介護が必要になった場合の担い手は、女性では「介護職員（ヘルパー等）」（39.2%）、男性では「配偶者（夫・妻）」（52.2%）の割合が高くなっている。また、家族の介護が必要になった場合の担い手については、女性では「自分」（61.2%）、男性では「配偶者（夫・妻）」（35.6%）の割合が高くなっており、「介護は女性の役割」という意識があることがうかがえる。

■ 家庭の仕事の役割分担（問 14）

理想の家庭の仕事の役割分担は、家事や子育てについては「男女同じ程度の役割」の割合が高いが、「① 生活費を得ること」については、「主に男性の役割」とする割合が5割を超えている。

実際の役割分担は、理想よりも「① 生活費を得ることでは」は『夫中心』、それ以外の家事や子育てについては『妻中心』の割合が高くなっており、理想と現実との間でギャップが垣間みられる。

■ 家事等の時間（問 15）

家事・育児・介護等の時間は、平日・休日ともに女性では「5時間以上」、男性では「ほとんどない」の割合が最も高くなっている。

■ 避難所において快適に過ごすための取組（問 16）

避難所において快適に過ごすための取組は、「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」（81.8%）、「性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え」（67.2%）、「避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する」（64.2%）などの割合が高くなっている。性・年齢別にみると、20～40歳代の女性では「性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え」の割合が8割を超えている。

3. 生き方や仕事について

■ 女性が職業をもつことに対する意識（問 17）

女性が職業をもつことに対する意識については、子育ての時期だけ一時辞める『再就職型』が37.2%、結婚や出産にかかわらず仕事を続ける『就業継続型』が30.7%、結婚後または子どもができたなら家事や子育てに専念する『結婚・出産退職型』が17.2%となっている。

■ 就労意向（問 18）

現在働いていない女性の就労意向については、20歳代の60.0%、30歳代の75.9%、40歳代の48.6%が「働きたい」と回答している。

働きたいと考えていながらも現在働いていない理由は、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため」が43.5%、「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないため」が27.4%などとなっている。

■ 仕事に要する時間（問 19）

仕事に要する時間（通勤時間を含む）は、女性では「8～10時間未満」が30.6%で最も高くなっている。男性は「12時間以上」が25.4%で最も高く、8時間以上の人が合わせて約7割となっている。

■ 働くうえでの悩みや不満（問 20）

働くうえでの悩みや不満は、「賃金・諸手当が少ない」（35.1%）、「人間関係がむずかしい」（20.8%）、「仕事量が多すぎる」（17.8%）といった項目が挙げられている。

■ 職場において男女格差を感じる（問 21）

現在働いている人に、今の職場に性別による差があるかたずねたところ、「⑤ 管理職への登用」や「④ 昇進・昇格」といった分野で「男性の方が優遇されている」の割合が高くなっている。

■ 生活の中で優先すること（問 22）

生活の中で優先することは、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」、「『家庭生活』を優先」、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」の割合が高く、仕事と家庭生活などのバランスがとれた生活を希望する人が多くなっている。

実際の生活は、女性では「『家庭生活』を優先」が 40.9%、男性では「『仕事』を優先したい」が 37.0%と高くなっており、理想と現実にはギャップがみられる。

■ 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと（問 23）

男性が家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なことは、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が 44.1%、「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」が 38.2%、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」37.5%となっている。

4. 女性の人権と男女間の暴力について

■ 女性の人権が侵害されていると思うこと（問 24）

女性の人権が侵害されていると思うことは「夫や恋人からの暴力（DV：ドメスティック・バイオレンス）」「職場や教育現場におけるセクシュアル・ハラスメント（性的いやがらせ）」「ストーカー、痴漢行為など」の 3 項目が男女ともに 5 割を超えている。

上位 3 項目に続く、「男女の固定的な役割分担意識（『男は仕事、女は家庭』という考え方）の押しつけ」「職場での男女の待遇の格差」「買春、援助交際」「女性のヌード写真等を掲載した雑誌、新聞、ビデオ、DVD、ゲームなど」「内容に関係なく女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を使用した広告など」の割合はいずれも女性の方が 10 ポイント程度高く、性別による意識の違いがみられる。

■ 暴力だと思ふ事柄（問 25）

暴力だと思ふ事柄については、「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合は、「③ 身体を傷つける可能性のある物でなぐる」（90.4%）、「⑤ 刃物などを突きつけて、おどす」（89.4%）などの身体的暴力で高く、「⑥ 大声でどなる」（40.4%）、「⑦ 他の異性との会話を許さない」（40.7%）などの精神的・社会的暴力などで低くなっている。

■ 配偶者や恋人からの暴力（DV）を受けた経験（問 26）

配偶者・パートナーからの暴力（DV）の経験は、「② 精神的な暴力」に女性の 23.1%・男性の 15.3%が『あった』（「何度もあった」または「1・2度あった」の合計）と回答している。また、「① 身体的な暴力」には女性の 19.4%・男性の 11.8%、「③ 性的な暴力」には女性の 11.7%が『あった』と回答している。

■ ドメスティック・バイオレンス（DV）の相談状況（問 26-1、問 26-2）

配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人から暴力などの行為を受けた経験がある人に相談の状況をたずねたところ、「どこにも相談しなかった」が 54.2%と高く、特に男性では 64.9%を占めている。具体的な相談先としては「友人・知人」が女性 30.0%・男性 15.3%、「家族・親戚」が女性 25.8%・男性 12.6%となっている。

相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思った」が女性 50.0%・男性 70.8%、「自分にも悪いところがあると思った」が女性 30.2%・男性 37.5%などとなっており、いずれの割合も男性の方が高い。

5. 社会的活動について

■ 参加している・参加したい社会活動（問 27）

参加している社会的活動は「自治会・婦人会などの地域活動」（11.1%）、参加したい社会的活動は「自然保護、環境美化など地域環境に関する活動」（21.2%）、「スポーツ・文化・芸術の振興を図る活動」（16.8%）、「高齢者や障がい者の介助など、社会福祉に関する活動」（13.1%）の割合が高くなっている。

■ 社会的な活動に参加するうえでの支障（問 28）

社会的な活動に参加するうえで支障となることは、「仕事」が 30.9%で最も高く、次いで「健康や体力に自信がない」（22.2%）、「人間関係がわずらわしい」（20.1%）となっている。

性・年齢別にみると、「仕事」は 20～50 歳代の男性、「健康や体力に自信がない」は 60 歳以上の男女でその割合が高くなっている。また、30～40 歳代の女性では「家事・育児」の割合が比較的高くなっている。

6. 男女共同参画社会について

■ 男女共同参画に関する言葉の認知度（問 29）

「⑤ 男女雇用機会均等法」「⑧ DV防止法」については 7 割以上の人が『聞いたことがある』と答えているが、「③ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」や「⑩ 高石市男女共同参画計画」などの認知度は低くなっている。

年齢別にみると、60 歳以上の男女で各用語の認知度が低い傾向にある。

■ 男女共同参画社会を実現するために必要な取組（問 30）

男女共同参画社会を実現するために必要な取組は、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」（40.0%）、「男性の意識改革」（39.6%）、「女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術の向上を図ること」（33.7%）といった項目の割合が高くなっている。

■ 男女共同参画の進展（問 31）

この 10 年間の社会について、「① 社会で女性が活躍しやすくなっている」には約 6 割、「③ 子育てする男性が増えている」には約 5 割が『そう思う』と回答しているが、「④ 介護をする男性が増えている」「⑤ 様々な相談場所が身近に増えている」に対しての『そう思う』は約 3 割にとどまり、『そう思わない』が 2 割強となっている。

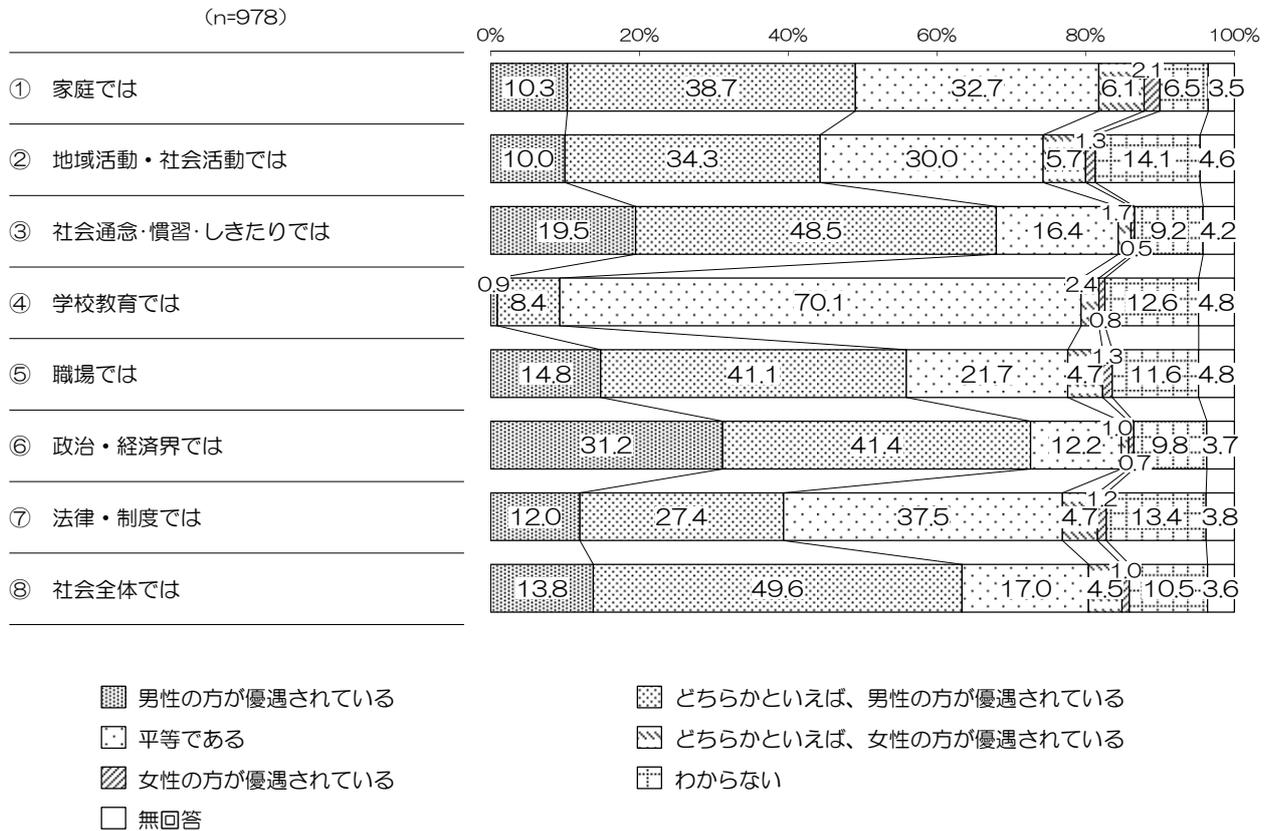
第4章 調査結果

1. 男女平等について

(1) 各分野の男女の地位の平等感

問7. 現在の社会において、男女はどの程度平等であると思いますか。(分野ごとに○は1つ)

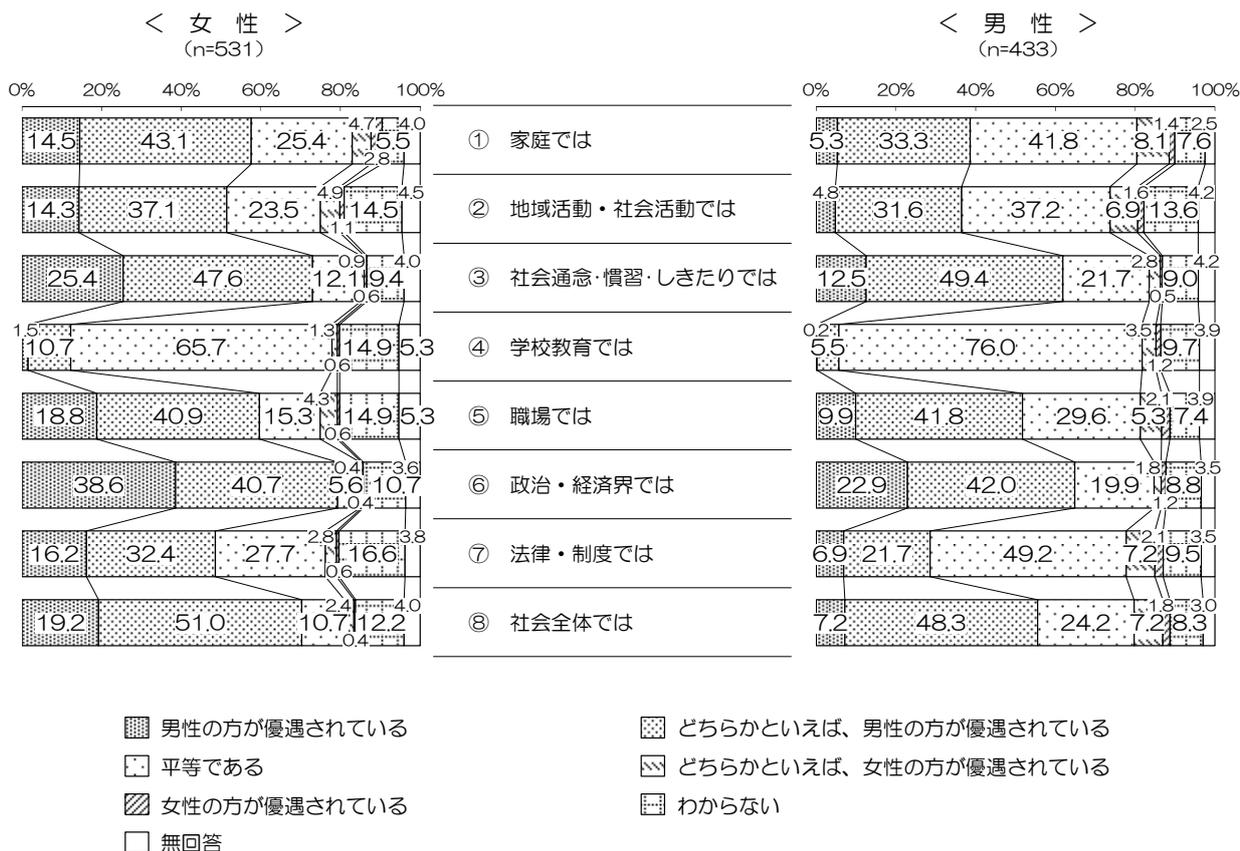
図 各分野の男女の地位の平等感



社会の各分野の男女の地位の平等感についてたずねたところ、多くの分野では『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」の合計）の割合が高くなっており、「平等である」の割合が高い分野は「④ 学校教育では」（70.1%）のみとなっている。「③ 社会通念・慣習・しきたりでは」と「⑥ 政治・経済界では」では特に『男性優遇』の割合が高く、約7割を占めている。

「⑧ 社会全体では」についてみると、『男性優遇』が63.4%を占め「平等である」は17.0%にとどまる。

図 性別 各分野の男女の地位の平等感

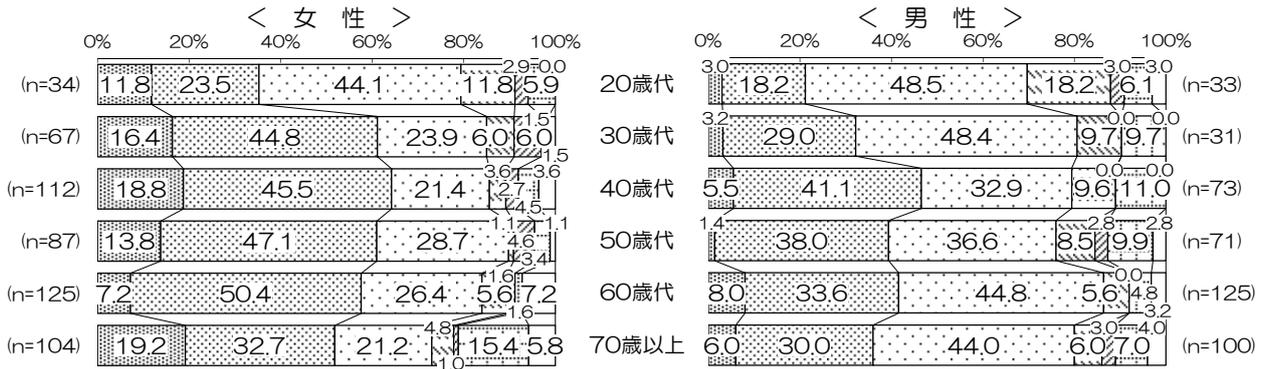


性別にみると、すべての項目で女性は男性よりも『男性優遇』の割合が高くなっており、「⑥ 政治・経済界では」(79.3%)、「③ 社会通念・慣習・しきたりでは」(73.1%)、「⑧ 社会全体では」(70.2%)では、女性の『男性優遇』が7割を超えている。

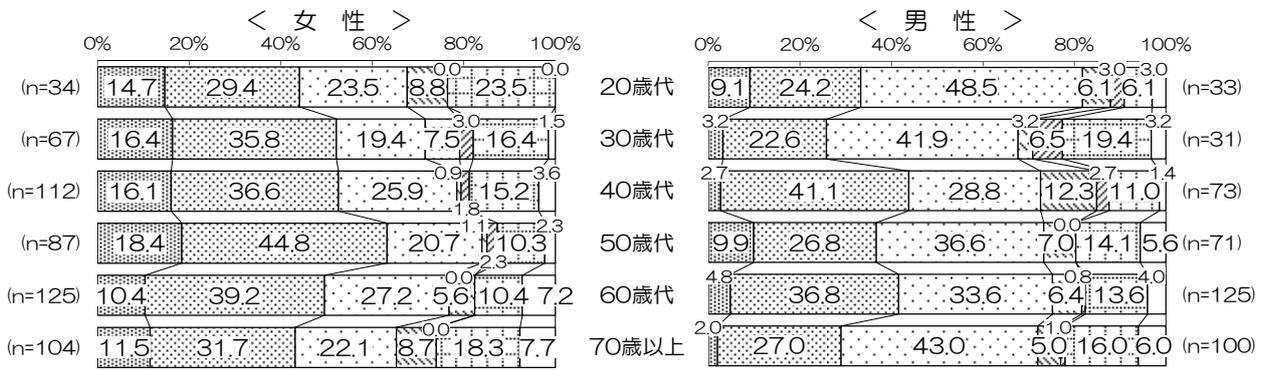
「① 家庭では」と「⑦ 法律・制度では」は男性では「平等である」が4割を超えているが、女性では「平等である」は3割未満にとどまり、性別による意識の違いが特に大きい。

図 性・年齢別 各分野の男女の地位の平等感

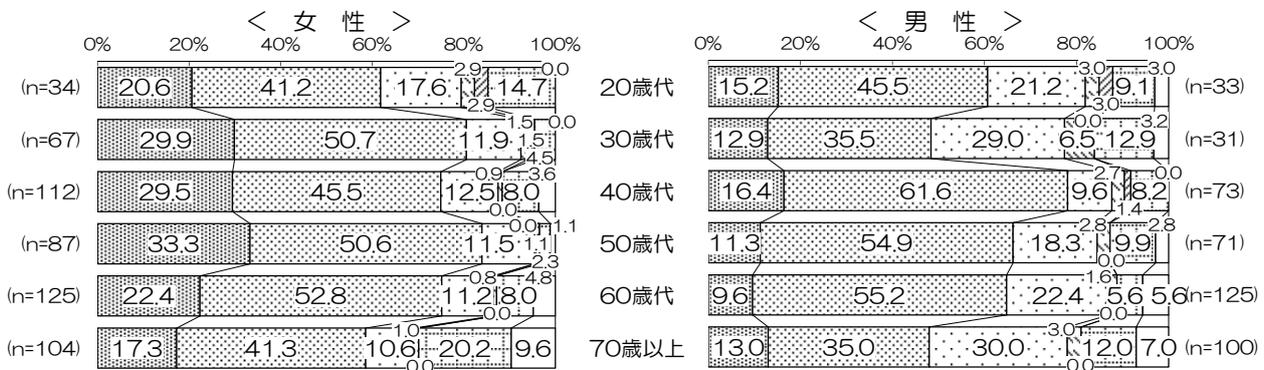
① 家庭では



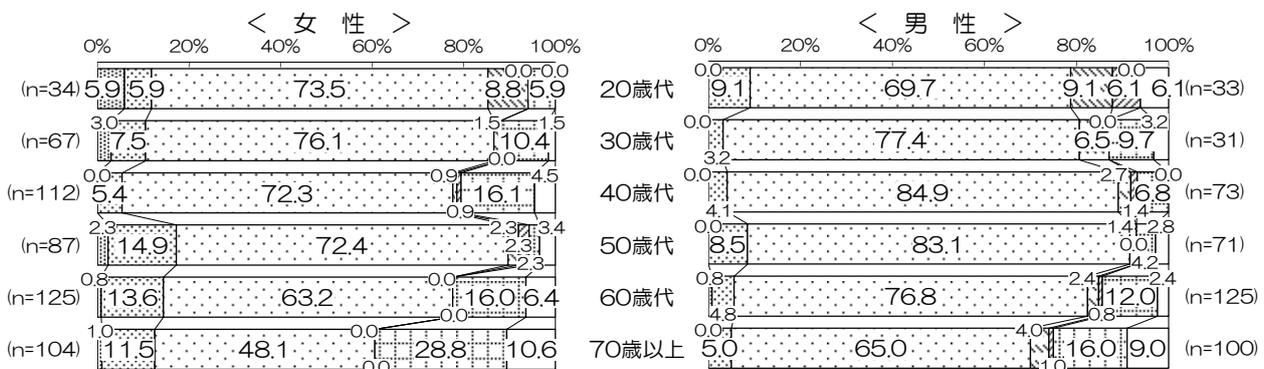
② 地域活動・社会活動では



③ 社会通念・慣習・しきたりでは



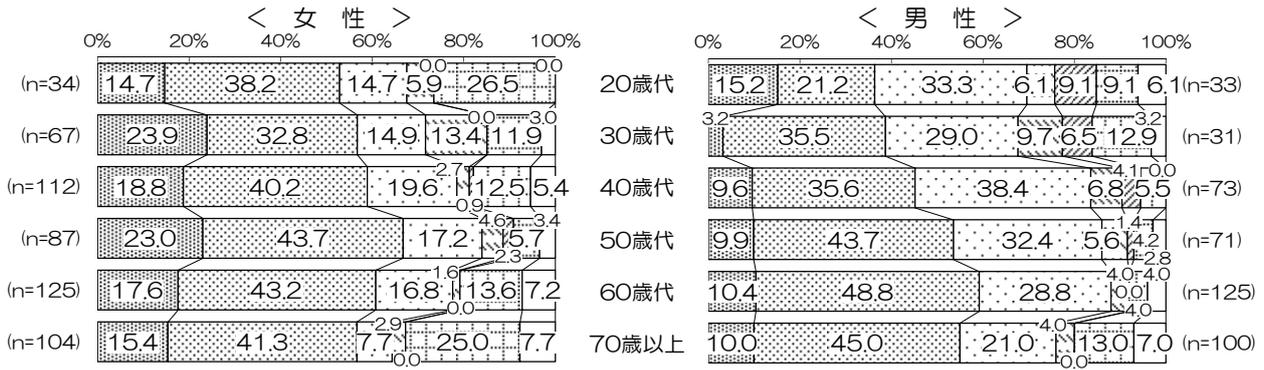
④ 学校教育では



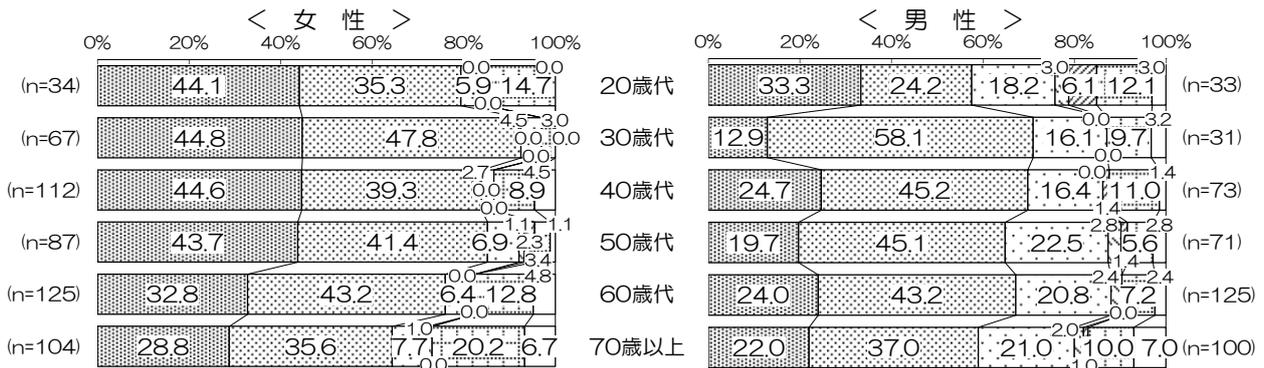
男性の方が優遇されている
 平等である
 女性の方が優遇されている
 無回答

どちらかといえば、男性の方が優遇されている
 どちらかといえば、女性の方が優遇されている
 わからない

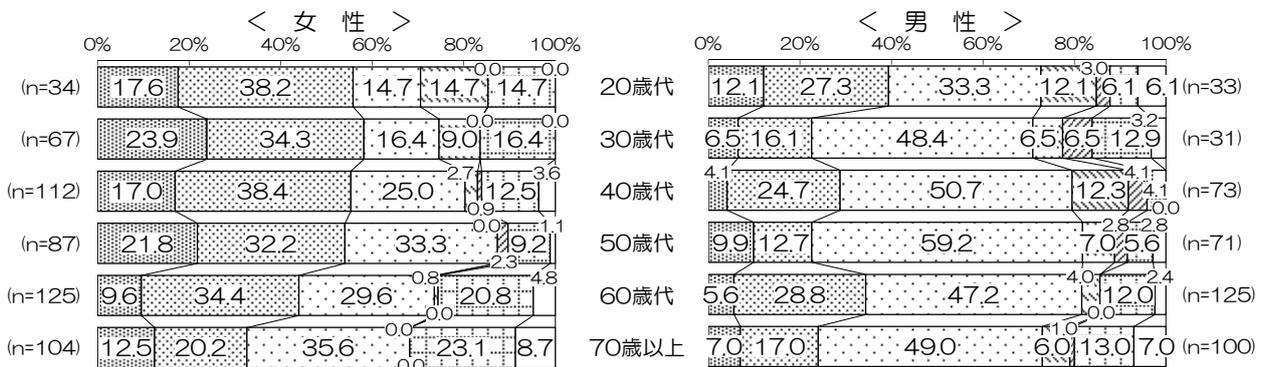
⑤ 職場では



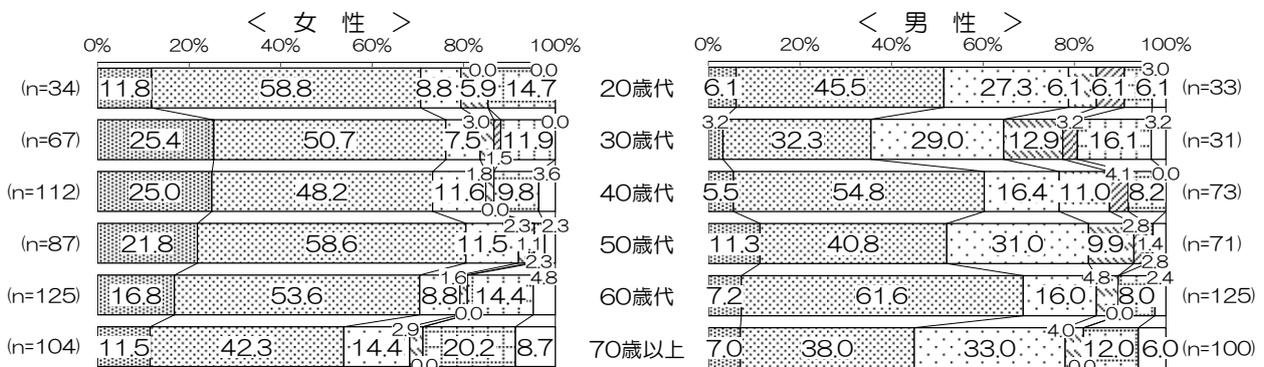
⑥ 政治・経済界では



⑦ 法律・制度では



⑧ 社会全体では



- 男性の方が優遇されている
- 平等である
- 女性の方が優遇されている
- わからない
- 無回答

① 家庭では

女性では20歳代は「平等である」が4割を超えているが、30歳以上の年齢層では『男性優遇』が5～6割前後を占めている。

男性は、40・50歳代では、『男性優遇』の割合が「平等である」よりも高くなっている。

② 地域活動・社会活動では

女性はいずれの年齢層でも『男性優遇』が「平等である」よりも高くなっており、特に50歳代では63.2%と高い。

男性では、20・30歳代と70歳以上の年齢層では「平等である」が4割を超えている。

③ 社会通念・慣習・しきたりでは

女性の30～60歳代では、いずれも『男性優遇』が7～8割前後を占めている。

男性では、40歳代で『男性優遇』の割合が78.0%と高い。

④ 学校教育では

いずれの年齢層でも「平等である」の割合が高く、女性の20～50歳代と男性の30～60歳代では7割を超えている。

⑤ 職場では

女性では、いずれの年齢層でも『男性優遇』が5割を超えている。

男性では、年齢が低い層で『男性優遇』の割合が低くなる傾向がみられ、20・30歳代の『男性優遇』は4割未満となっている。

⑥ 政治・経済界では

いずれの年齢層でも、『男性優遇』の割合が高くなっているが、その中でも女性の30歳代は92.6%と特に高くなっている。

⑦ 法律・制度では

『男性優遇』の割合は、30～50歳代の女性では5割を超えているが、30～50歳代の男性では2割台にとどまっており、30～50歳代は性別による意識の違いが大きくなっている。

⑧ 社会全体では

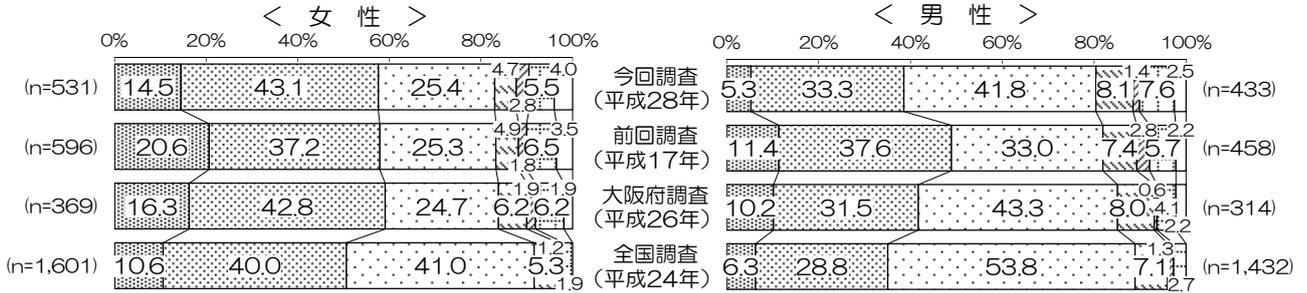
女性の20～60歳代はいずれも『男性優遇』が7～8割前後と高くなっている。

男性の『男性優遇』の割合は30歳代では35.5%となっており、他の年齢層と比べて割合が低くなっている。女性の30歳代は『男性優遇』が76.1%となっており、30歳代の男性とは40.6ポイントの差がある。

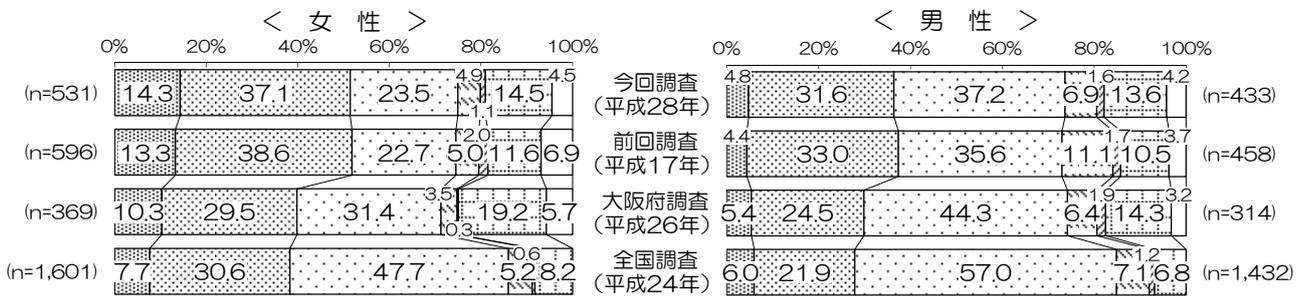
【前回調査・府調査・全国調査との比較】

図 性別 各分野の男女の地位の平等感（前回調査・府調査・全国調査との比較）

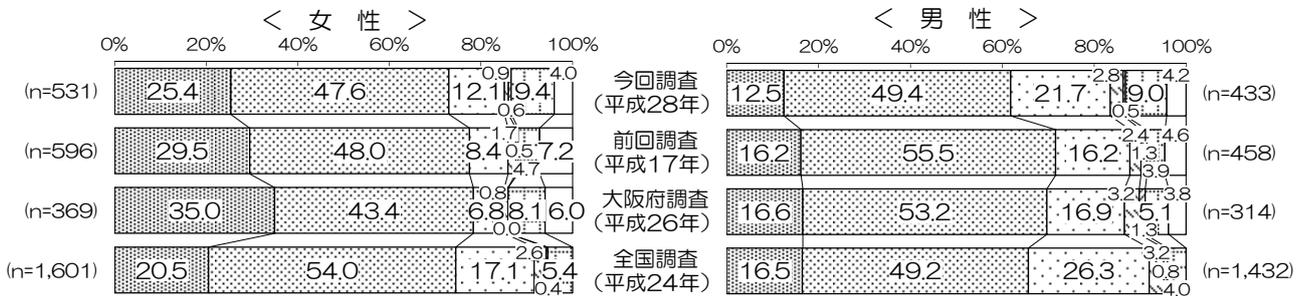
① 家庭では



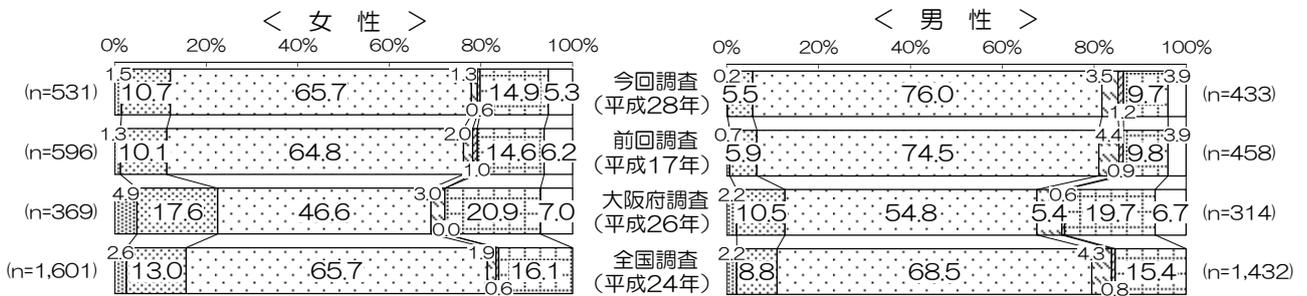
② 地域活動・社会活動では注1



③ 社会通念・慣習・しきたりでは



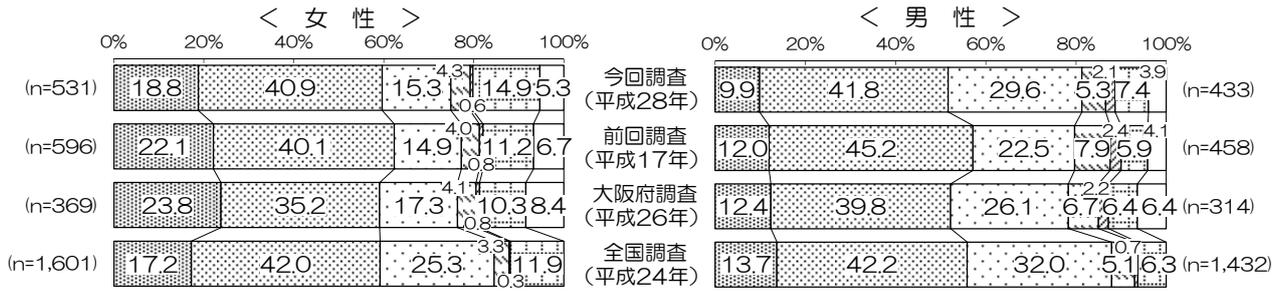
④ 学校教育では



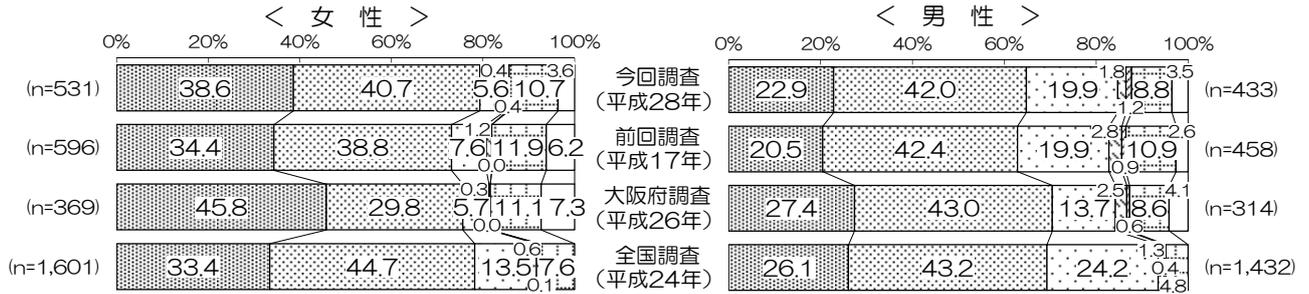
- 男性の方が優遇されている
 - 平等である
 - 女性の方が優遇されている
 - 無回答
 - どちらかといえば、男性の方が優遇されている
 - どちらかといえば、女性の方が優遇されている
 - わからない
- 注2

注1) 大阪府調査は「地域活動の場」、全国調査は「自治会やNPOなどの地域活動の場」
 注2) 全国調査の選択肢は「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」「わからない」

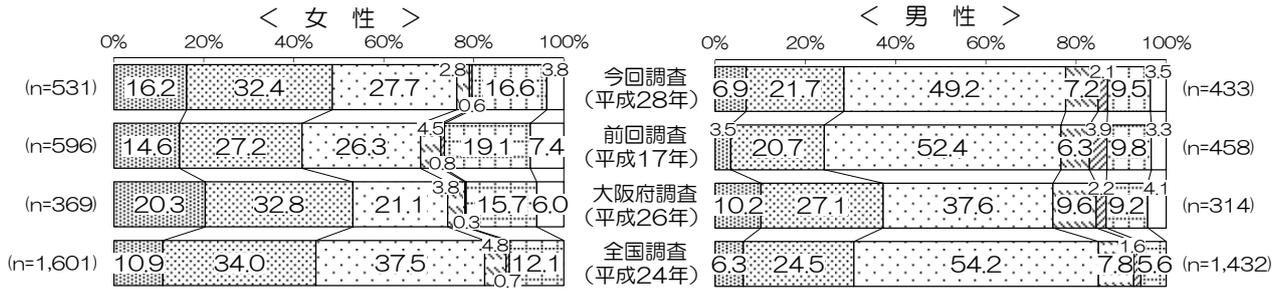
⑤ 職場では



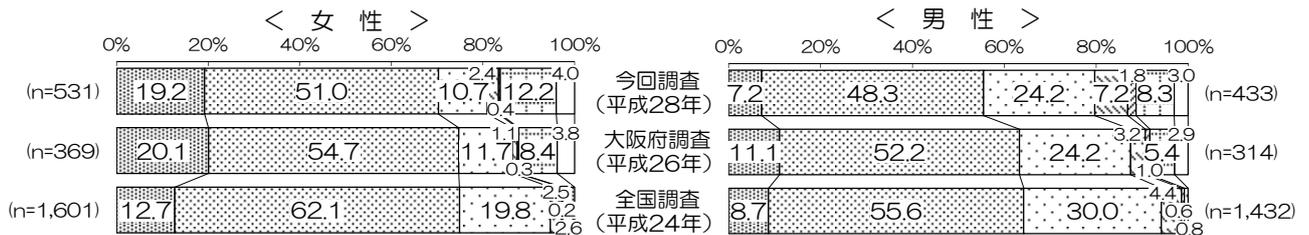
⑥ 政治・経済界では^{注3}



⑦ 法律・制度では



⑧ 社会全体では



- 男性の方が優遇されている
- 平等である
- 女性の方が優遇されている
- 無回答
- どちらかといえば、男性の方が優遇されている
- どちらかといえば、女性の方が優遇されている
- わからない

注3) 大阪府調査、全国調査は「政治の場」

○ 前回調査との比較

前回調査（平成 17 年）と比較すると、「① 家庭では」は、女性では前回調査と大きな違いはみられないが、男性では前回調査よりも『男性優遇』が 10 ポイント以上少なく、「平等である」が『男性優遇』よりも高くなっている。

「② 地域活動・社会活動では」と「④ 学校教育では」は今回調査と前回調査で大きな違いはみられない。

「③ 社会通念・慣習・しきたりでは」と「⑤ 職場では」は、前回調査・今回調査ともに『男性優遇』の割合が高いが、今回調査は前回調査よりもやや「平等である」の割合が高くなっている。

「⑥ 政治・経済界では」と「⑦ 法律・制度では」は前回調査よりも『男性優遇』の割合が高くなっている。

○ 大阪府調査との比較

大阪府調査（平成 26 年）と比較すると、今回調査の「② 地域活動・社会活動では」は、大阪府調査の「地域活動の場」よりも『男性優遇』の割合が高くなっている。

「③ 社会通念・慣習・しきたりでは」「④ 学校教育では」「⑦ 法律・制度では」はいずれも大阪府調査より「平等である」の割合が高くなっている。特に「④ 学校教育では」についての「平等である」の割合は、大阪府調査では女性 46.6%・男性 54.8%、今回調査では女性 65.7%・男性 76.0%となっており、大阪府調査と今回調査では約 20 ポイントの差がある。

今回調査の「⑥ 政治・経済界では」は、大阪府調査の「政治の場」と比べて、女性では『男性優遇』、男性では『平等である』の割合が高くなっている。

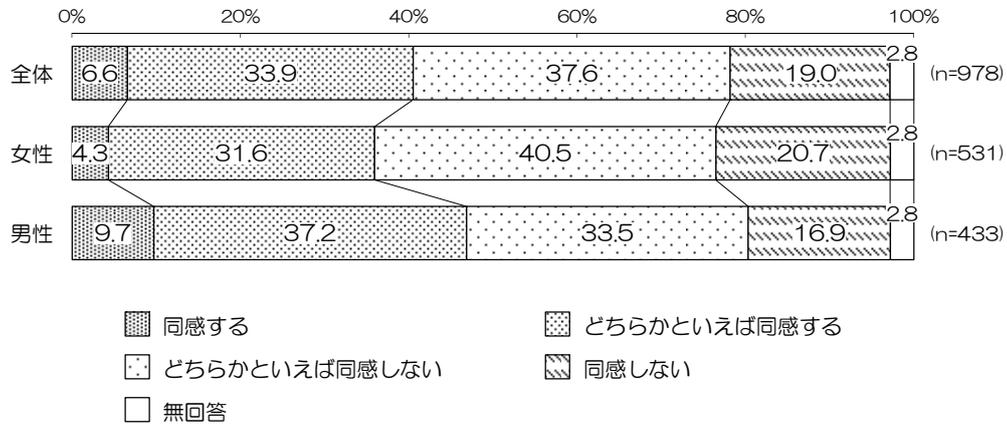
○ 全国調査との比較

全国調査（平成 24 年）とは質問の仕方が異なるため単純には比較できないが参考として記載した。今回調査は「④ 学校教育では」以外のすべての分野で、「平等である」の割合が全国調査よりも低くなっている。特に「① 家庭では」「② 地域活動・社会活動では」（全国調査では「自治会やNPOなどの地域活動の場」）で今回調査と全国調査の違いが大きくなっている。そのなかで、「④ 学校教育では」は男性での「平等である」の割合は今回調査 76.0%・全国調査 68.5%となっており、今回調査が 7.5 ポイント高くなっている。

(2) 性別役割分担意識

問 8. 「男は仕事、女は家庭」と性によって役割を決める考え方を、どう思いますか。(〇は1つ)

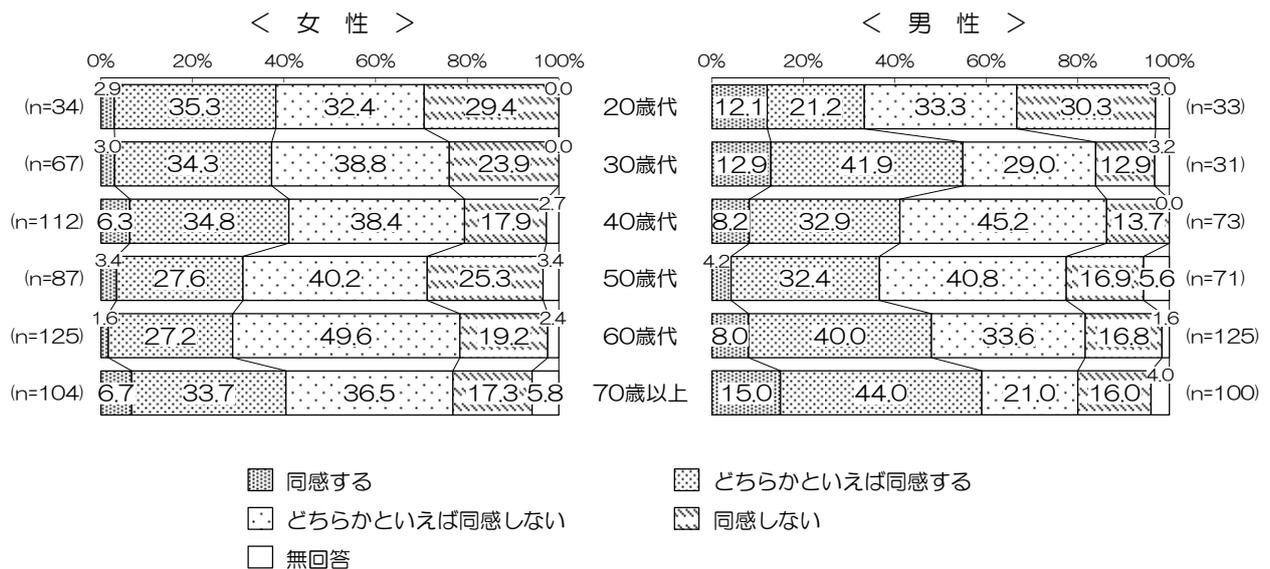
図 性別 性別役割分担意識



「男は仕事、女は家庭」という考え方についてどう思うかたずねたところ、「同感する」(6.6%)と「どちらかといえば同感する」(33.9%)を合計した『同感する』が40.5%、「どちらかといえば同感しない」(37.6%)と「同感しない」(19.0%)を合計した『同感しない』が56.6%となっており、『同感する』よりも『同感しない』の割合が高くなっている。

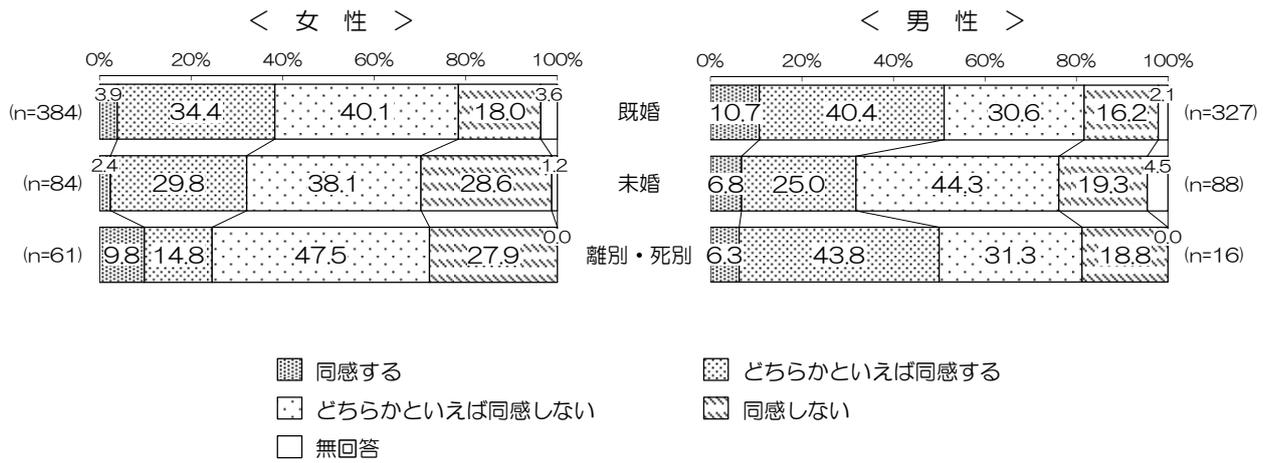
性別にみると、女性の『同感しない』の割合は61.2%となっており、男性(50.4%)よりも10.8ポイント高くなっている。

図 性・年齢別 性別役割分担意識



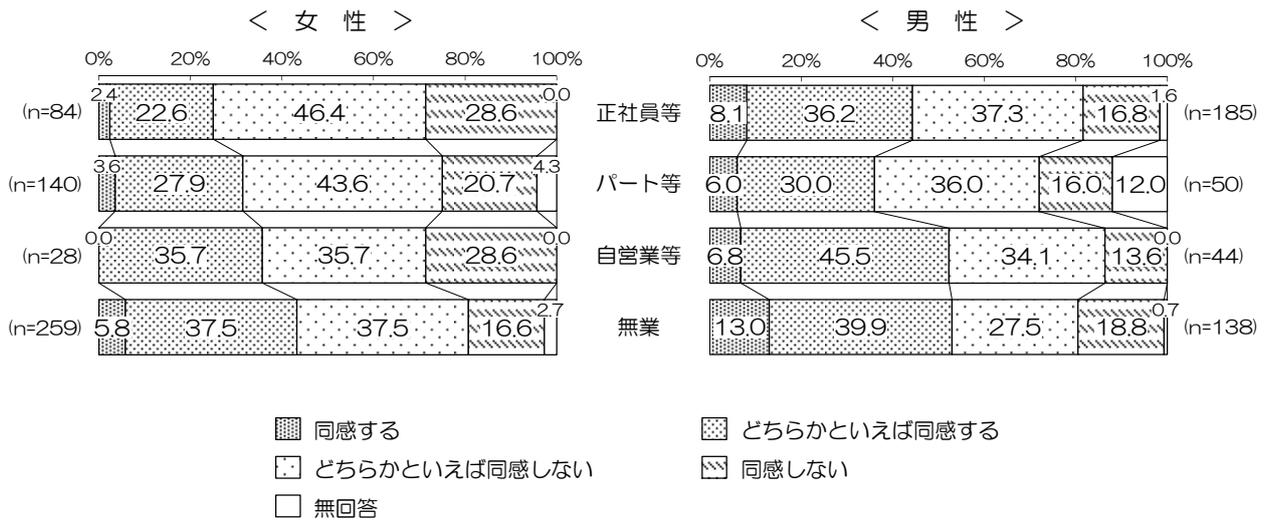
年齢別にみると、女性は年齢による意識の違いは小さいが、男性は30歳代・60歳代・70歳以上の各年齢層で『同感する』が5~6割前後を占めている。

図 性・配偶関係別 性別役割分担意識



配偶関係別にみると、女性の未婚と離別・死別では『同感しない』がそれぞれ66.7%、75.4%と高くなっている。男性でも未婚は『同感しない』が63.6%を占めている。

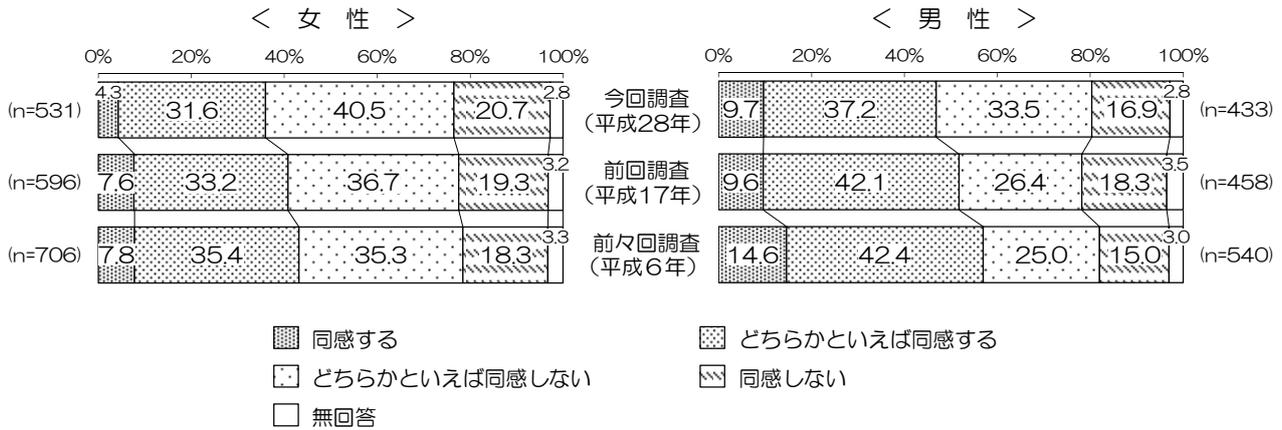
図 性・就業状態別 性別役割分担意識



就業状態別にみると、女性の正社員等では『同感しない』が75.0%と高くなっている。男性では自営業等と無職では『同感する』が5割を超えている。

【過去調査との比較】

図 性別 性別役割分担意識（過去調査との比較）



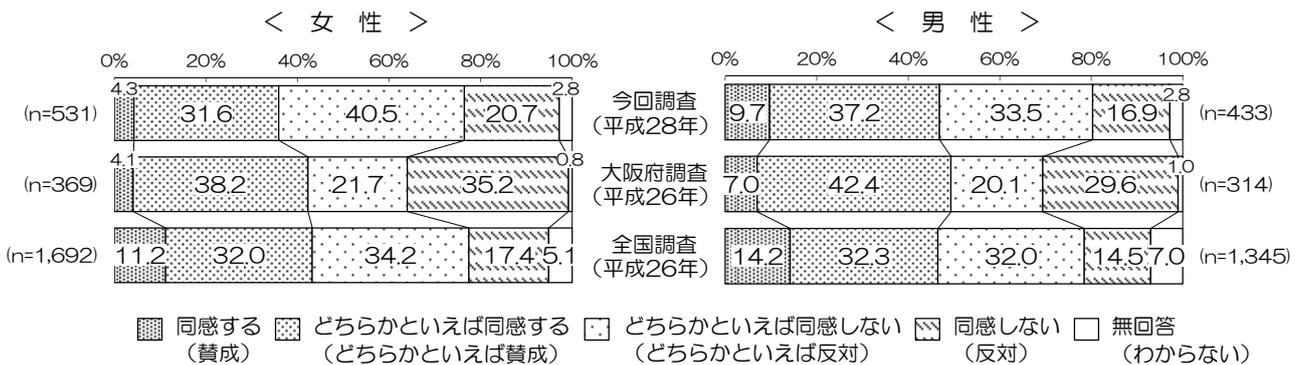
過去の調査（平成6年、平成17年）と比較すると、男女とも『同意しない』人の割合が高くなっている。

女性の『同意しない』の割合は、平成6年調査53.6%、平成17年調査56.0%、今回調査61.2%となっており、今回調査では『同意しない』が6割を超えている。

平成6年調査、平成17年調査の男性では、『同意しない』よりも『同意する』の割合が高くなっているが、今回調査は『同意する』よりも『同意しない』の割合が高くなっている。

【府調査・全国調査との比較】

図 性別 性別役割分担意識（府調査・全国調査との比較）



注) 全国調査の選択肢は、「賛成」「どちらかといえば賛成」「どちらかといえば反対」「反対」「わからない」

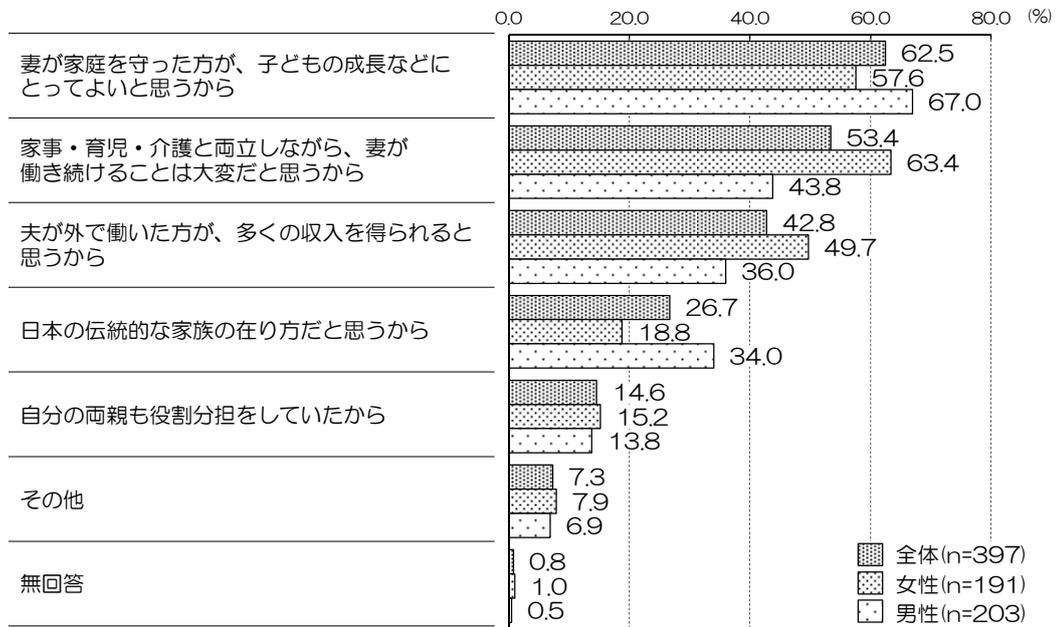
大阪府調査（平成26年）、全国調査（平成26年）と比較すると、男性は『同意する』『同意しない』の割合が大阪府調査・全国調査とほぼ同じ割合となっているが、女性は大阪府調査・全国調査と比べて『同意しない』の割合が高くなっている。

(3)「男は仕事、女は家庭」と思う理由

問8で1. 2. と答えた方におたずねします

問8-1. 同感する理由は。(〇はいくつでも)

図 性別 「男は仕事、女は家庭」と思う理由



「男は仕事、女は家庭」という考え方に同意する人にその理由をたずねたところ、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから」が62.5%で最も高く、次いで「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」(53.4%)、「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」(42.8%)の順となっている。

性別にみると、女性は「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」と「夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから」の割合が男性よりも高く、それぞれ19.6ポイント差、13.7ポイント差となっており、「家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから」は女性では最も割合の高い項目となっている。

男性は、「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから」が67.0%と特に高く、他の項目との差が大きくなっている。また、「日本の伝統的な家族の在り方だと思うから」が34.0%となっており、女性の18.8%とは15.2ポイントの差がある。

表 性・年齢別 「男は仕事、女は家庭」と思う理由

	対象者数 (n)	妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思つから	夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思つから	日本の伝統的な家族の在り方だと思つから	自分の両親も役割分担をしていたから	その他	無回答	
全体	397	62.5	53.4	42.8	26.7	14.6	7.3	0.8	
女性	20歳代	13	46.2	61.5	23.1	23.1	23.1	15.4	-
	30歳代	25	52.0	64.0	56.0	8.0	23.0	12.0	-
	40歳代	46	52.2	65.2	45.7	15.2	13.0	8.7	2.2
	50歳代	27	51.9	55.6	55.6	14.8	3.7	7.4	-
	60歳代	36	55.6	63.9	47.2	13.9	8.3	5.6	2.8
	70歳以上	42	76.2	64.3	57.1	35.7	21.4	4.8	-
	男性	20歳代	11	72.7	36.4	27.3	45.5	9.1	36.4
30歳代		17	58.8	23.5	29.4	23.5	5.9	17.6	-
40歳代		30	66.7	53.3	30.0	53.3	10.0	3.3	-
50歳代		26	53.8	34.6	34.6	34.6	15.4	7.7	3.8
60歳代		60	65.0	51.7	36.7	20.0	11.7	5.0	-
70歳以上		59	76.3	42.4	42.4	39.0	20.3	1.7	-

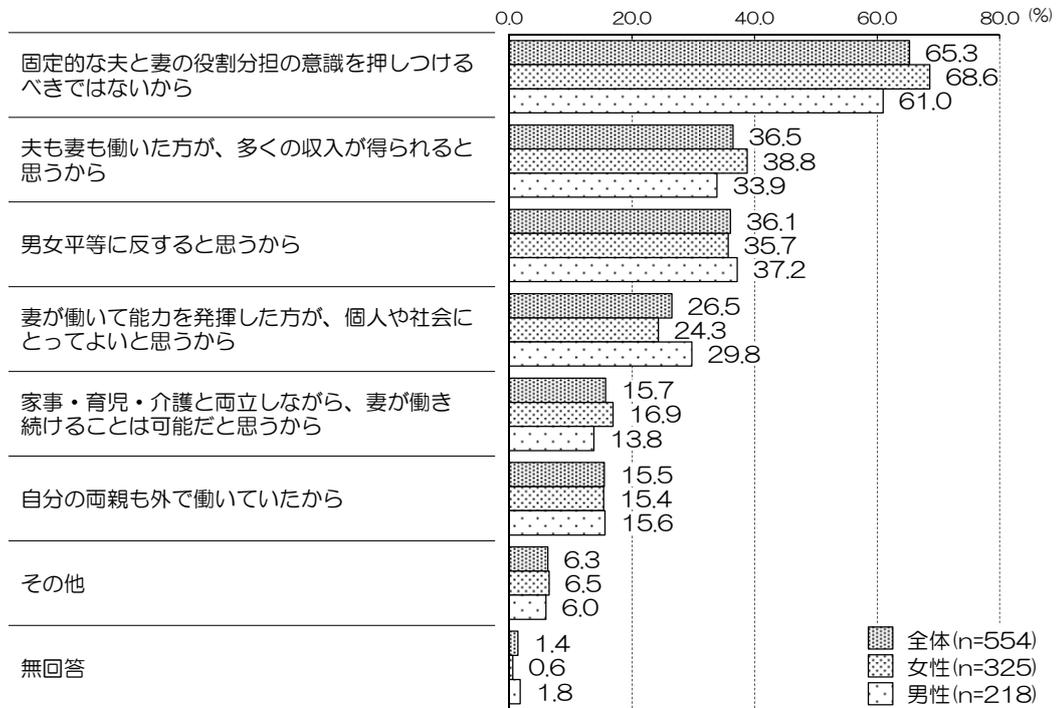
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年齢別にみると、70歳以上の男女は「妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから」の割合が女性76.2%・男性76.3%で最も高くなっている。男性の20歳代と40歳代では、「日本の伝統的な家族の在り方だと思つから」の割合が他の年代よりも高く、それぞれ45.5%、53.3%となっている。

(4)「男は仕事、女は家庭」と思わない理由

問8で3. 4. と答えた方におたずねします
 問8-2. 同感しない理由は。(〇はいくつでも)

図 性別 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由



「男は仕事、女は家庭」という考え方に同意しない人にその理由をたずねたところ、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が 65.3%で特に高く、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」(36.5%)と「男女平等に反すると思うから」(36.1%)が3割台で続いている。

性別にみると、「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」は女性 68.6%・男性 61.0%、「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」は女性 38.8%・男性 33.9%となっており、女性で割合が高くなっている。一方、「妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとってよいと思うから」は女性 24.3%・男性 29.8%と男性の方が割合が高い。

表 性・年齢別 「男は仕事、女は家庭」と思わない理由

	対象者数 (n)	固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから	夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから	男女平等に反すると思うから	妻が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとってよいと思うから	家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから	自分の両親も外で働いていたから	その他	無回答	
全体	554	65.3	36.5	36.1	26.5	15.7	15.5	6.3	1.4	
女性	20 歳代	21	66.7	57.1	14.3	33.3	14.3	47.6	14.3	-
	30 歳代	42	59.5	42.9	42.9	19.0	14.3	26.2	9.5	-
	40 歳代	63	74.6	36.5	39.7	17.5	15.9	22.2	4.8	-
	50 歳代	57	78.9	45.6	36.8	19.3	19.3	7.0	7.0	-
	60 歳代	86	69.8	36.0	38.4	29.1	17.4	8.1	3.5	-
	70 歳以上	56	57.1	28.6	28.6	30.4	17.9	7.1	7.1	3.6
男性	20 歳代	21	52.4	38.1	38.1	28.6	9.5	38.1	9.5	4.8
	30 歳代	13	53.8	46.2	15.4	38.5	-	38.5	15.4	-
	40 歳代	43	74.4	39.5	34.9	32.6	18.6	16.3	2.3	2.3
	50 歳代	41	48.8	39.0	29.3	34.1	14.6	19.5	4.9	2.4
	60 歳代	63	63.5	28.6	47.6	25.4	12.7	6.3	4.8	-
	70 歳以上	37	62.2	24.3	37.8	27.0	16.2	5.4	8.1	2.7

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは 5 ポイント以上高い項目を示す。

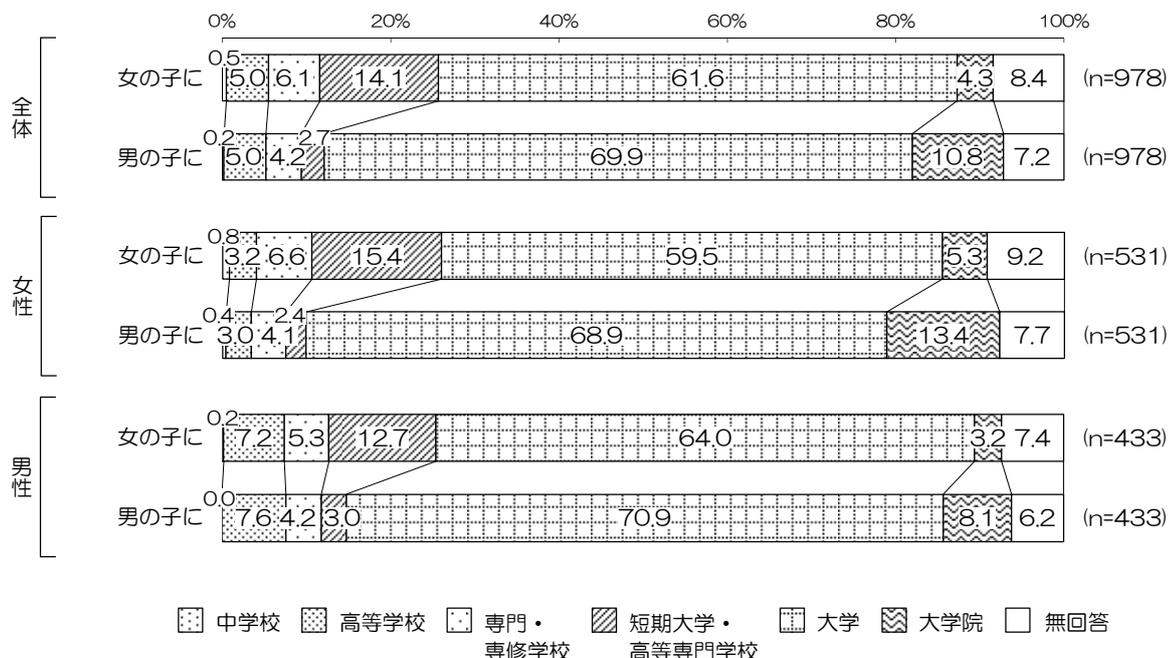
年齢別にみると、いずれの年齢層でも「固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」の割合が最も高くなっており、特に女性の 40・50 歳代と男性の 40 歳代では 7 割を超えている。20 歳代の女性では「夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから」が 57.1%と全体より 20 ポイント以上高くなっている。また、20・30 歳代の男女は「自分の両親も外で働いていたから」が他の年齢層よりも高くなっている。

2. 子育てや暮らしについて

(1) 子どもに受けさせたい教育の程度

問9. あなたが、自分の子どもに受けさせたい（受けさせたかった）教育の程度を女の子、男の子それぞれについてお答えください。子どもがいない方、男女どちらかしかいない方も、両方いると仮定してお答えください。（女の子・男の子それぞれ〇は1つ）

図 性別 子どもに受けさせたい教育の程度



子どもに受けさせたい教育の程度についてたずねたところ、女の子・男の子どちらについても「大学」が多くを占めているが、その割合は女の子 61.6%・男の子 69.9%と女の子が 8.3 ポイント低くなっている。また「大学院」の割合は、女の子 4.3%・男の子 10.8%と男の子に対する割合が高くなっている。対して、「短期大学・高等専門学校」は男の子では 2.7%なのに対し、女の子へは 14.1%とやや高くなっている。

回答者の性別にみると、女の子・男の子両方に対して、女性の回答者は「大学院」の割合が男性よりも高くなっている。一方男性の回答者は女性よりも「高等学校」の割合が高くなっている。「短期大学・高等専門学校」は女性では女の子 15.4%・男の子 2.4%で 13.0 ポイント差、男性では女の子 12.7%・男の子 3.0%の 9.7 ポイント差となっており、女性の方が子どもの性別による差がやや大きくなっている。

表 性・年齢別 子どもに受けさせたい教育の程度

	対象者数 (n)	女の子に							
		中学校	高等学校	専 専 修 門 学 学 校 校	高 短 等 期 専 大 門 学 学 学 校 校	大学	大学院	無 回 答	
全体	978	0.5	5.0	6.1	14.1	61.6	4.3	8.4	
女性	20歳代	34	2.9	14.7	5.9	11.8	55.9	5.9	2.9
	30歳代	67	1.5	1.5	6.0	9.0	67.2	9.0	6.0
	40歳代	112	0.9	1.8	7.1	17.0	62.5	6.3	4.5
	50歳代	87	-	-	3.4	13.8	70.1	5.7	6.9
	60歳代	125	-	4.0	10.4	20.0	53.6	1.6	10.4
	70歳以上	104	1.0	3.8	4.8	15.4	50.0	5.8	19.2
	男性	20歳代	33	-	12.1	-	6.1	69.7	6.1
30歳代		31	-	9.7	6.5	6.5	67.7	-	9.7
40歳代		73	-	6.8	4.1	11.0	72.6	4.1	1.4
50歳代		71	1.4	2.8	2.8	8.5	74.6	2.8	7.0
60歳代		125	-	8.8	7.2	11.2	63.2	3.2	6.4
70歳以上		100	-	6.0	7.0	23.0	48.0	3.0	13.0

	対象者数 (n)	男の子に							
		中学校	高等学校	専 専 修 門 学 学 校 校	高 短 等 期 専 大 門 学 学 学 校 校	大学	大学院	無 回 答	
全体	978	0.2	5.0	4.2	2.7	69.9	10.8	7.2	
女性	20歳代	34	-	14.7	2.9	2.9	67.6	8.8	2.9
	30歳代	67	1.5	1.5	4.5	1.5	73.1	11.9	6.0
	40歳代	112	0.9	2.7	3.6	1.8	70.5	14.3	6.3
	50歳代	87	-	-	3.4	2.3	72.4	13.8	8.0
	60歳代	125	-	2.4	5.6	3.2	73.6	9.6	5.6
	70歳以上	104	-	3.8	3.8	2.9	56.7	18.3	14.4
	男性	20歳代	33	-	15.2	-	3.0	60.6	12.1
30歳代		31	-	9.7	3.2	3.2	67.7	6.5	9.7
40歳代		73	-	6.8	4.1	1.4	74.0	11.0	2.7
50歳代		71	-	4.2	4.2	1.4	76.1	5.6	8.5
60歳代		125	-	9.6	4.8	4.8	69.6	7.2	4.0
70歳以上		100	-	5.0	5.0	3.0	71.0	8.0	8.0

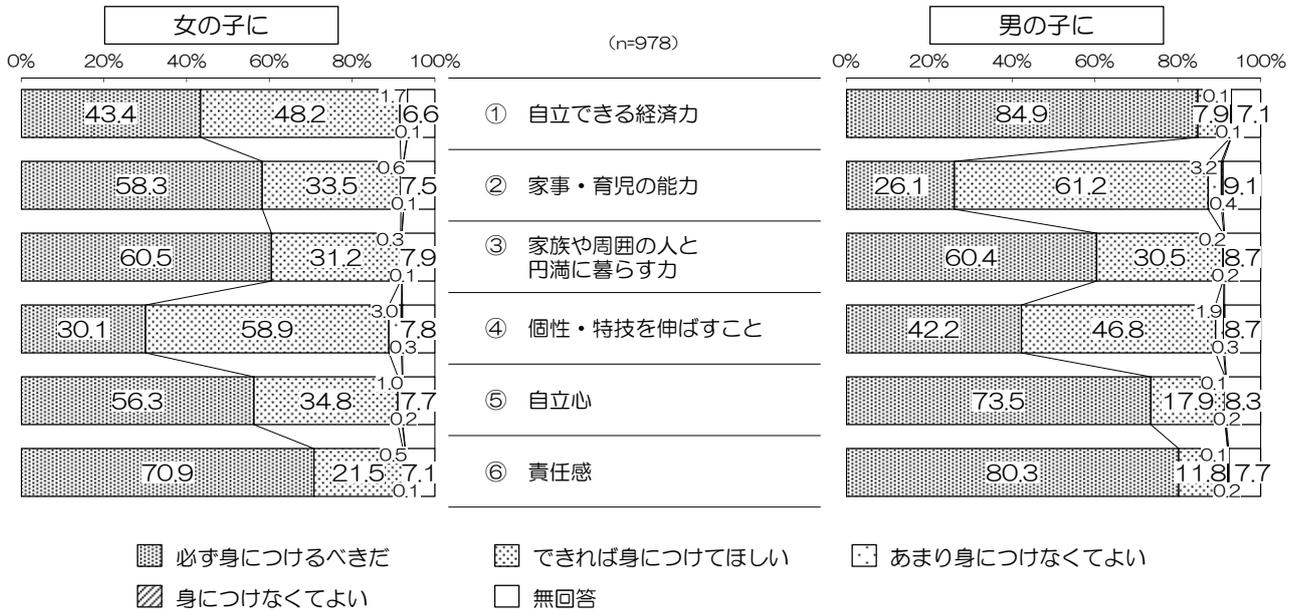
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年齢別にみると、20歳代の男女では男の子・女の子両方に対して「高等学校」が1割を超えている。男性の70歳代は女の子に対しては「短期大学・高等専門学校」が23.0%とやや高くなっている。

(2)子どもに身につけてほしい力

問10. あなたは、自分の子どもに、次のことをどの程度、身につけてほしいですか。子どもがいない方、男女どちらかしかいない方も、両方いると仮定してお答えください。(女の子・男の子それぞれ各項目に〇は1つ)

図 子どもに身につけてほしい力

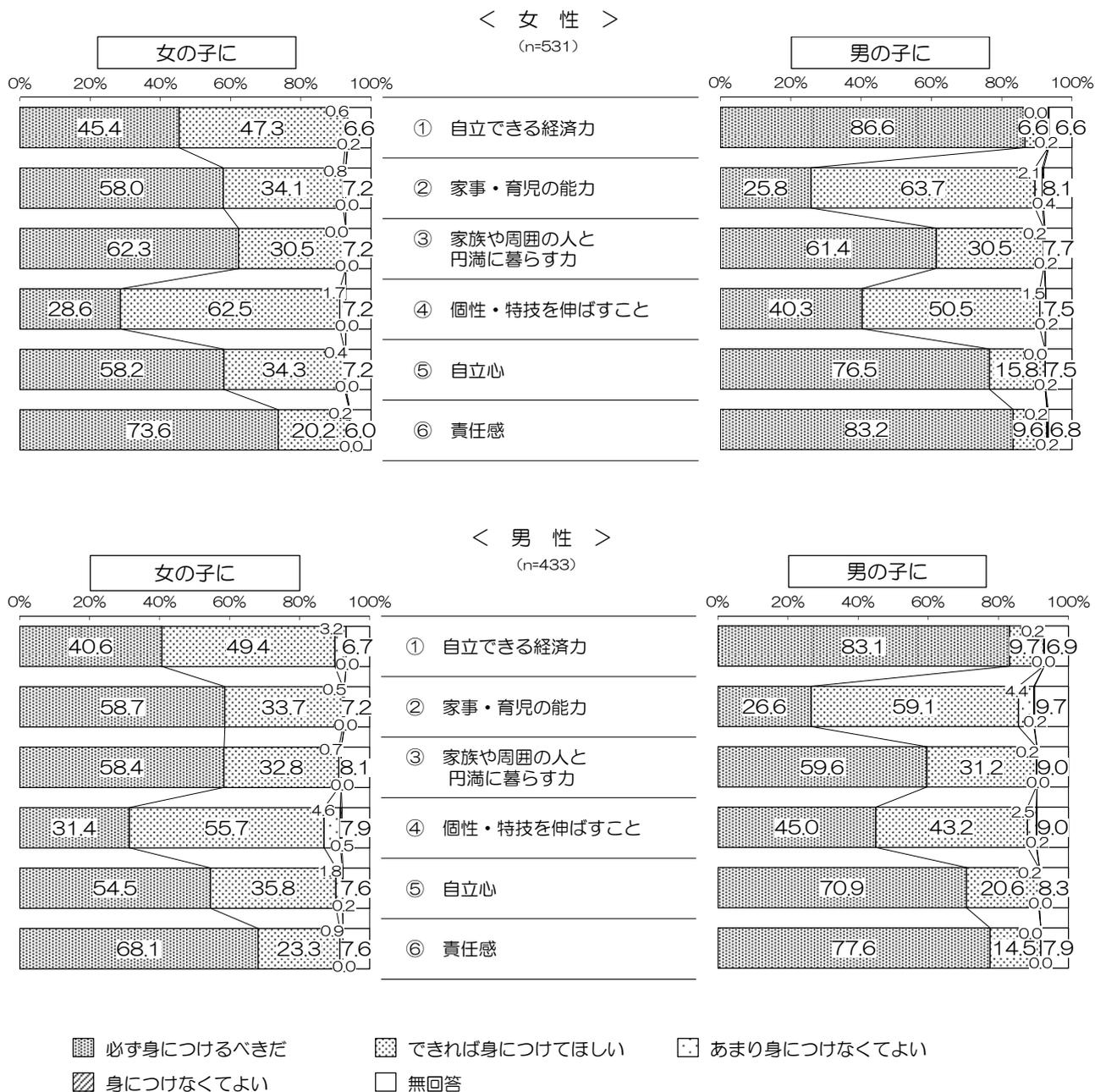


子どもに身につけてほしい能力についてたずねたところ、どの項目も女の子・男の子にかかわらず身につけてほしいという人が大半だが、「③ 家族や周囲の人と円満に暮らす力」を除いて、その程度は女の子と男の子では異なっている。程度の差が大きいのは、「① 自立できる経済力」と「② 家事・育児の能力」である。

「① 自立できる経済力」は男の子に対しては「必ず身につけるべきだ」が84.9%を占めているが、女の子に対して「必ず身につけるべきだ」は43.4%にとどまり、「できれば身につけてほしい」(48.2%)よりも低くなっている。

また、「② 家事・育児の能力」について「必ず身につけるべきだ」の割合は女の子に対しては58.3%・男の子に対しては26.1%となっており、女の子の方が32.2ポイント高くなっている。

図 性別 子どもに身につけてほしい力

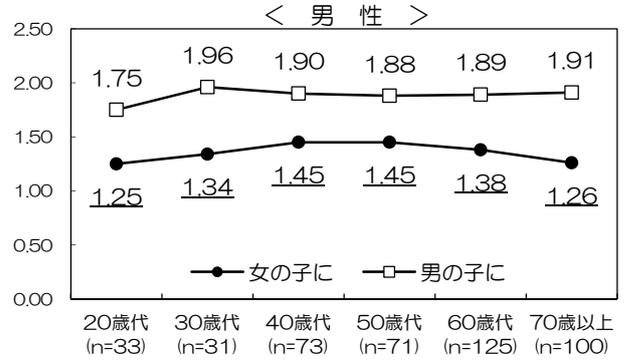
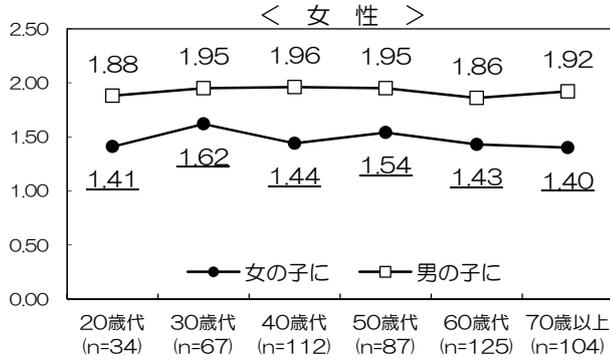


性別にみると、男女で大きな傾向の違いはないが、女性の方が、女の子・男の子どちらに対しても「① 自立できる経済力」「③ 家族や周囲の人と円満に暮らす力」「⑤ 自立心」「⑥ 責任感」について、「必ず身につけるべきだ」の割合が高くなっており、より強く期待する傾向である。これに対し「④ 個性・特技を伸ばすこと」は男性の方が「必ず身につけるべきだ」の割合が高い。

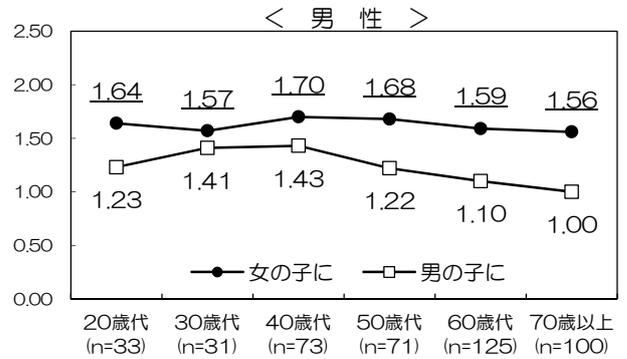
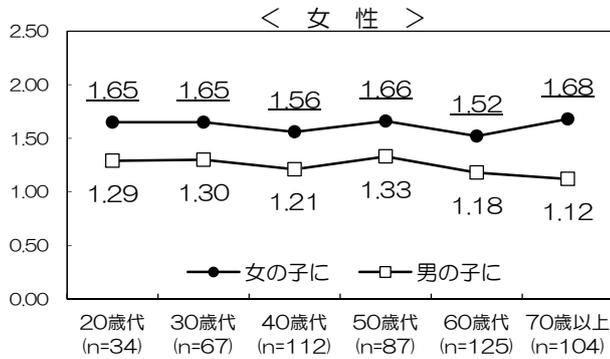
※以下の属性別グラフの数値は「必ず身につけるべきだ」の回答件数に「2点」、「できれば身につけてほしい」に「1点」、「あまり身につけなくてよい」に「-1点」、「身につけなくてよい」に「-2点」のウエイトを乗じ、加重平均して算出した、分析用の便宜的な指標です。

図 性・年齢別 子どもに身につけてほしい力

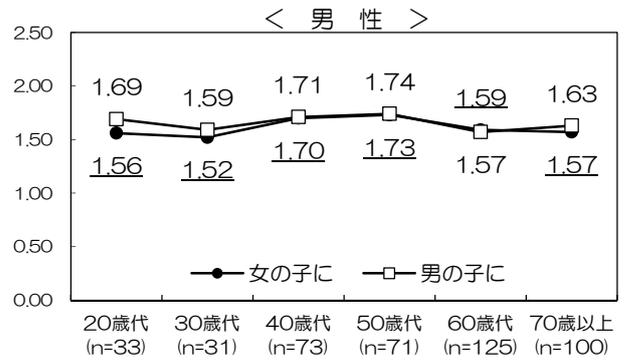
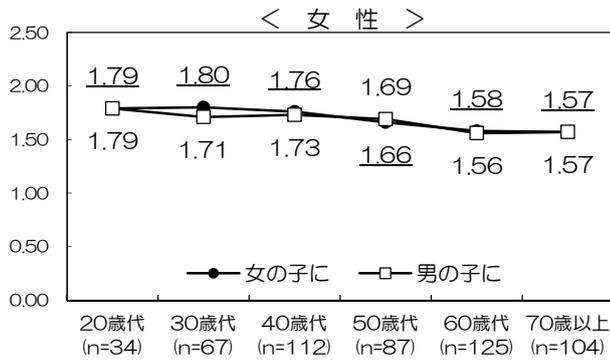
① 自立できる経済力



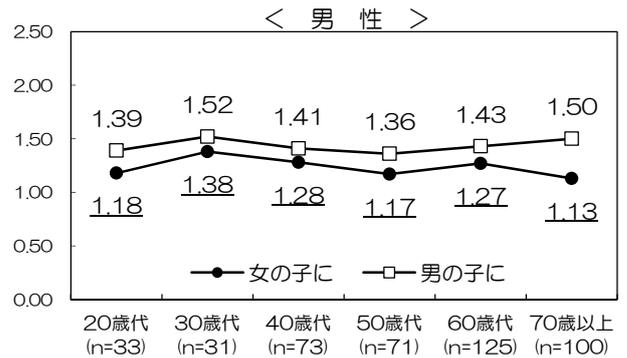
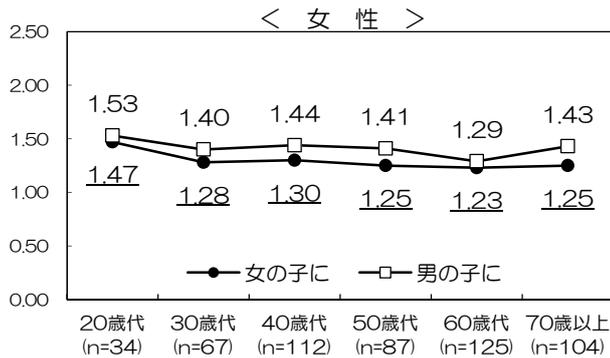
② 家事・育児の能力



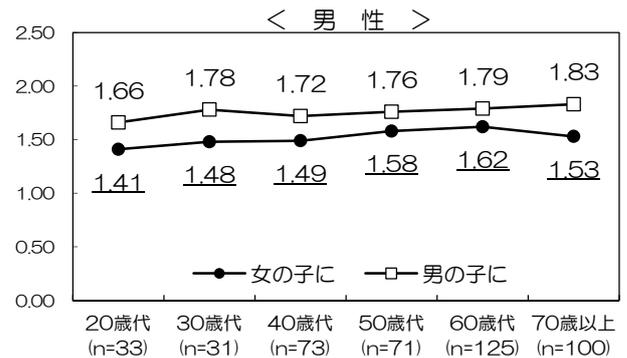
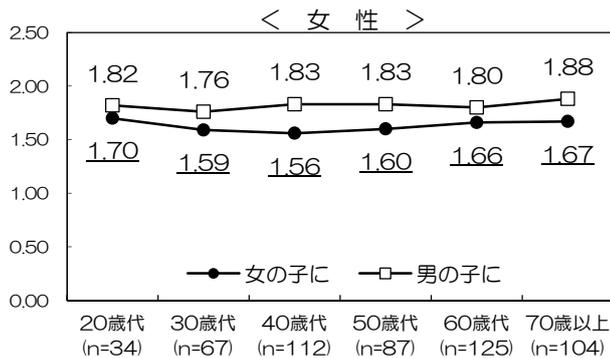
③ 家族や周囲の人と円満に暮らす力



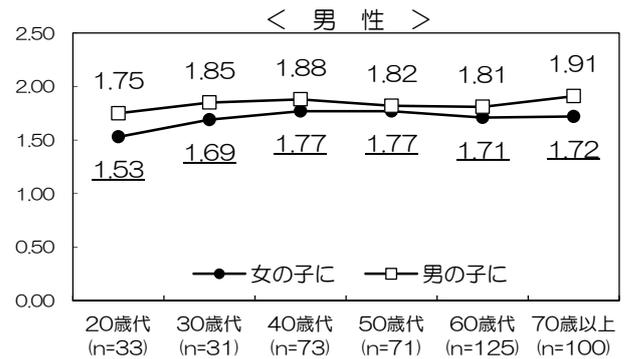
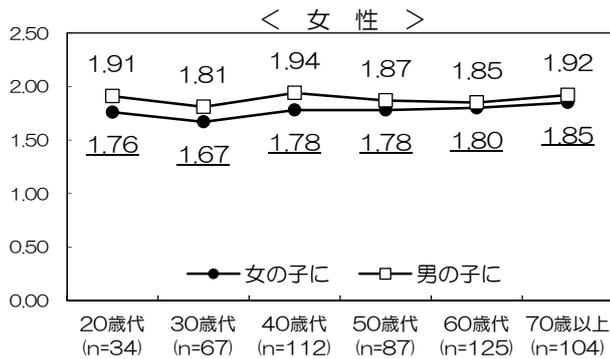
④ 個性・特技を伸ばすこと



⑤ 自立心



⑥ 責任感



① 自立できる経済力

女の子に対しては、男性よりも女性で期待が高くなっており、特に30歳代の女性で1.62点と高くなっている。

男の子に対しては、いずれの年齢層でも「必ず身につけるべきだ」との考えが多くなっている。

② 家事・育児の能力

男性では、男の子に対して家事・育児の能力を期待する割合が、年齢の低い層では高く、年齢の高い層では低くなっている。

③ 家族や周囲の人と円満に暮らす力

女の子・男の子の両方について、女性では年齢が低い層ほど家族や周囲の人と円満に暮らす力を期待する割合が高くなる傾向がみとれる。

④ 個性・特技を伸ばすこと

回答者の性別・年齢による傾向の違いは他の項目と比べて小さくなっている。

⑤ 自立心

男の子に自立心を期待する割合は、男性の20歳代では1.66点、70歳以上では1.83点となっており、年齢が高くなるにつれて男の子に自立心を期待する割合が高くなる傾向がみられる。

⑥ 責任感

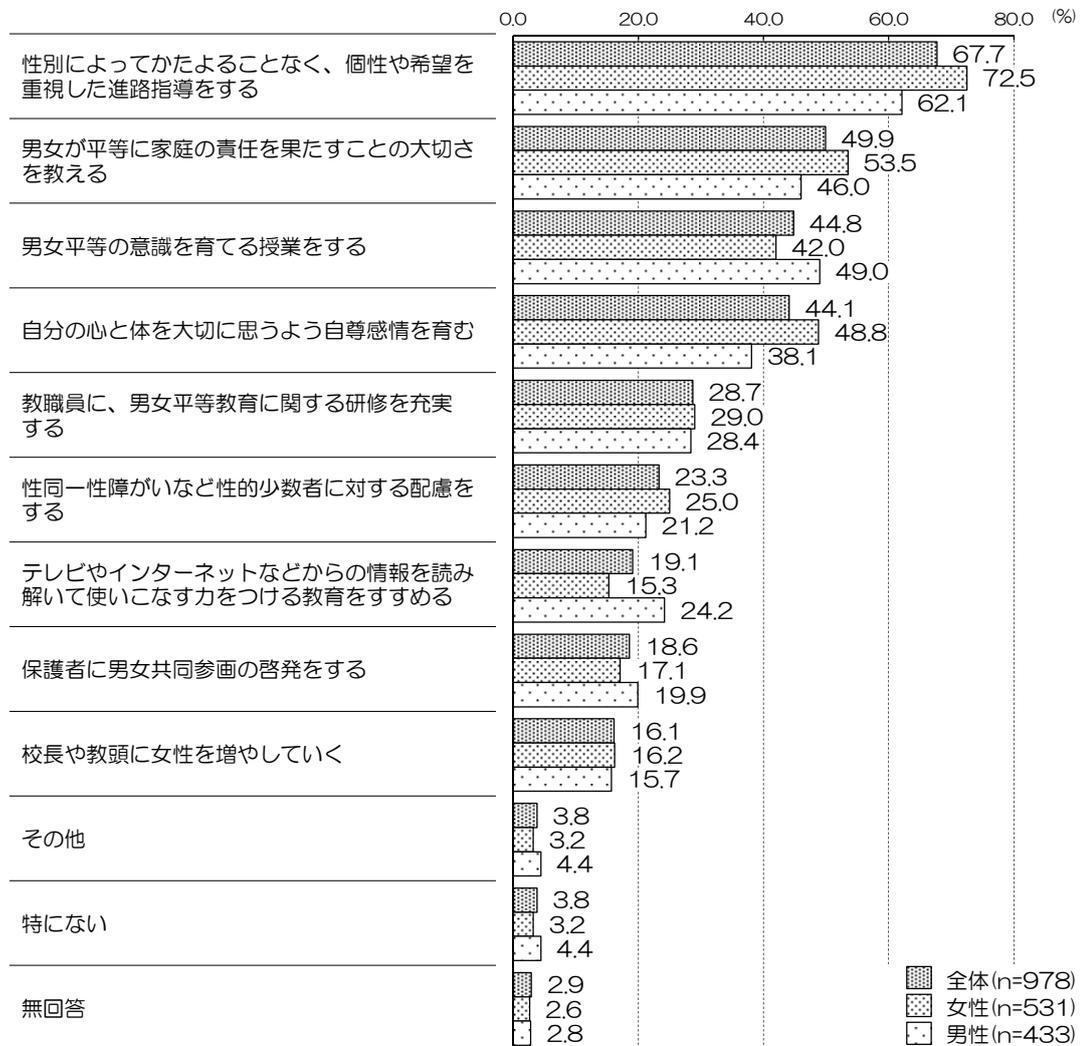
女の子に責任感を期待する割合は、女性の30歳代、男性の20・30歳代では低くなっている。

自立できる経済力、個性・特技を伸ばすこと、自立心、責任感の4つの項目では、男女ともいずれの年代でも、男の子より女の子への期待が低い傾向である。

(3) 学校で男女平等を推進するために必要なこと

問11. 学校で男女平等をすすめるために、どのようなことが必要だと思いますか。
(○はいくつでも)

図 性別 学校で男女平等を推進するために必要なこと



学校で男女平等を推進するために必要なことについてたずねたところ、「性別によってかたよることなく、個性や希望を重視した進路指導をする」が67.7%で最も高く、これに次いで「男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」(49.9%)、「男女平等の意識を育てる授業をする」(44.8%)、「自分の心と体を大切に思うよう自尊感情を育む」(44.1%)の割合が高くなっている。

性別にみると、「性別によってかたよることなく、個性や希望を重視した進路指導をする」「自分の心と体を大切に思うよう自尊感情を育む」の割合は女性の方が男性よりも10ポイント以上高くなっている。また「男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」も女性の方が7.5ポイント割合が高くなっている。対して「男女平等の意識を育てる授業をする」と「テレビやインターネットなどからの情報を読み解いて使いこなす力をつける教育をすすめる」の割合は男性の方が5ポイント以上高くなっている。

表 性・年齢別、性・同居する末子の年齢別 学校で男女平等を推進するために必要なこと

	対象者数 (n)	性別によってかたよることなく、個性や希望を重視した進路指導をする	男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える	男女平等の意識を育てる授業をする	自分の心と体を大切に思うよう自尊感情を育む	教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する	性同一性障がいなど性的少数者に対する配慮をする	テレビやインターネットなどからの情報を読み解いて使いこなす力をつける教育をすすめる	保護者に男女共同参画の啓発をする	校長や教頭に女性を増やしていく	その他	特にない	無回答	
全体	978	67.7	49.9	44.8	44.1	28.7	23.3	19.1	18.6	16.1	3.8	3.8	2.9	
女性	20歳代	34	70.6	41.2	35.3	55.9	32.4	29.4	26.5	20.6	35.3	8.8	8.8	-
	30歳代	67	79.1	56.7	49.3	50.7	32.8	40.3	16.4	17.9	16.4	6.0	3.0	-
	40歳代	112	69.6	43.8	37.5	45.5	22.3	25.9	8.9	18.8	15.2	3.6	6.3	2.7
	50歳代	87	75.9	56.3	47.1	46.0	33.3	27.6	10.3	16.1	19.5	3.4	1.1	1.1
	60歳代	125	73.6	51.2	41.6	54.4	31.2	26.4	15.2	19.2	13.6	2.4	1.6	2.4
	70歳以上	104	67.3	65.4	40.4	45.2	26.9	9.6	21.2	12.5	11.5	-	1.9	6.7
	男性	20歳代	33	69.7	51.5	39.4	27.3	33.3	42.4	21.2	18.2	21.2	6.1	3.0
30歳代		31	41.9	45.2	32.3	22.6	9.7	9.7	19.4	12.9	16.1	16.1	9.7	3.2
40歳代		73	67.1	39.7	42.5	39.7	26.0	19.2	13.7	13.7	21.9	1.4	8.2	-
50歳代		71	67.6	35.2	38.0	49.3	28.2	25.4	38.0	18.3	12.7	4.2	5.6	2.8
60歳代		125	60.8	52.0	58.4	37.6	36.0	23.2	21.6	22.4	16.0	3.2	2.4	2.4
70歳以上		100	60.0	49.0	58.0	38.0	25.0	14.0	28.0	25.0	11.0	4.0	2.0	6.0
女性		就学前	61	80.3	52.5	44.3	49.2	24.6	31.1	18.0	13.1	18.0	3.3	3.3
	小学生	43	69.8	39.5	44.2	39.5	25.6	34.9	4.7	16.3	16.3	2.3	2.3	2.3
	中高大学生	59	57.6	64.4	39.0	44.1	28.8	18.6	3.4	20.3	22.0	1.7	5.1	-
	社会人	123	67.5	52.0	40.7	50.4	22.0	19.5	16.3	12.2	11.4	1.6	2.4	4.1
男性	就学前	26	50.0	53.8	42.3	19.2	19.2	15.4	15.4	7.7	23.1	15.4	7.7	-
	小学生	27	66.7	48.1	44.4	40.7	22.2	7.4	14.8	18.5	11.1	-	7.4	-
	中高大学生	49	63.3	32.7	36.7	49.0	32.7	16.3	20.4	16.3	12.2	4.1	6.1	-
	社会人	94	59.6	46.8	50.0	33.0	30.9	25.5	27.7	18.1	12.8	3.2	4.3	3.2

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

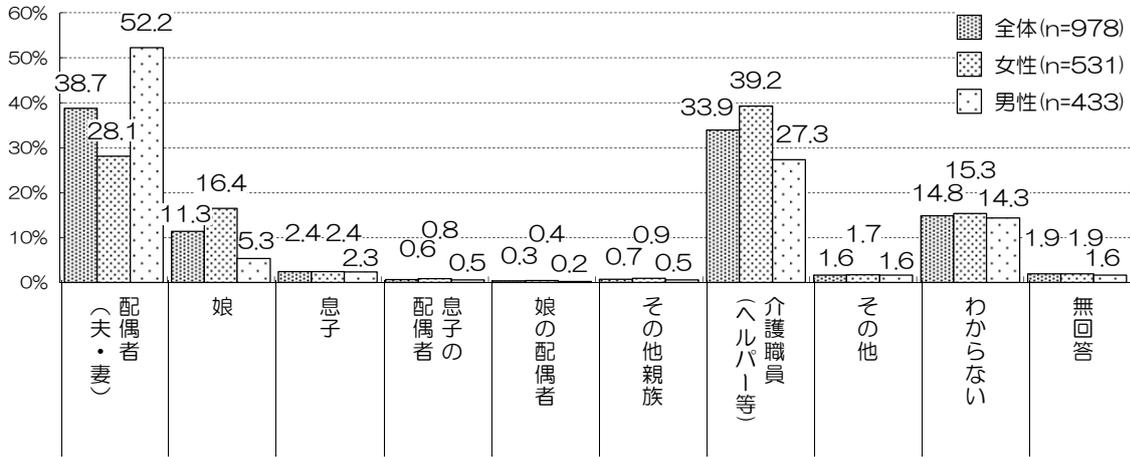
年齢別にみると、「性別によってかたよることなく、個性や希望を重視した進路指導をする」はいずれの年齢層でも最も高いが、特に女性の30歳代では8割近い割合となっている。女性の30歳代と男性の20歳代は「性同一性障がいなど性的少数者に対する配慮をする」が4割を超えている。男性の60歳以上の年齢層では、「男女平等の意識を育てる授業をする」が約6割と全体よりも高くなっている。

同居する末子の年齢別にみると、女性の就学前では「性別によってかたよることなく、個性や希望を重視した進路指導をする」が80.3%と特に高くなっている。また、女性の就学前と小学生では、「性同一性障がいなど性的少数者に対する配慮をする」が3割を超えている。女性の中高大学生では、「男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える」が64.4%で最も高くなっている。

(4) 自身が介護を必要とするようになった場合の担い手

問12. あなたが介護の必要な状態になった場合、主に誰に世話をしてもらいたいですか。
(○は1つ)

図 性別 自身が介護を必要とするようになった場合の担い手



自身の介護が必要になった場合に世話をしてもらいたい人については、女性では「介護職員（ヘルパー等）」が 39.2%で最も高く、次いで「配偶者（夫・妻）」が 28.1%、「娘」が 16.4%となっているが、男性では「配偶者（夫・妻）」が 52.2%となっている。

表 性・年齢別 自身が介護を必要とするようになった場合の担い手

	対象者数 (n)	配偶者(夫・妻)	娘	息子	息子の配偶者	娘の配偶者	その他親族	介護職員(ヘルパー等)	その他	わからない	無回答	
全体	978	38.7	11.3	2.4	0.6	0.3	0.7	33.9	1.6	14.8	1.9	
女性	20歳代	34	29.4	20.6	2.9	-	-	29.4	5.9	20.6	-	
	30歳代	67	32.8	10.4	4.5	1.5	1.5	44.8	1.5	16.4	1.5	
	40歳代	112	24.1	10.7	0.9	-	-	1.8	43.8	-	23.2	1.8
	50歳代	87	23.0	17.2	2.3	-	-	1.1	42.5	-	16.1	2.3
	60歳代	125	32.0	18.4	0.8	0.8	-	0.8	39.2	1.6	9.6	1.6
	70歳以上	104	27.9	22.1	4.8	1.9	1.0	1.0	31.7	3.8	10.6	1.9
	男性	20歳代	33	30.3	9.1	3.0	-	-	54.5	3.0	9.1	-
30歳代		31	41.9	6.5	6.5	-	-	22.6	9.7	25.8	-	
40歳代		73	54.8	6.8	1.4	-	-	19.2	-	21.9	-	
50歳代		71	47.9	8.5	4.2	-	1.4	36.6	1.4	8.5	5.6	
60歳代		125	59.2	1.6	-	0.8	-	1.6	21.6	0.8	13.6	0.8
70歳以上		100	55.0	5.0	3.0	1.0	-	-	26.0	1.0	12.0	2.0

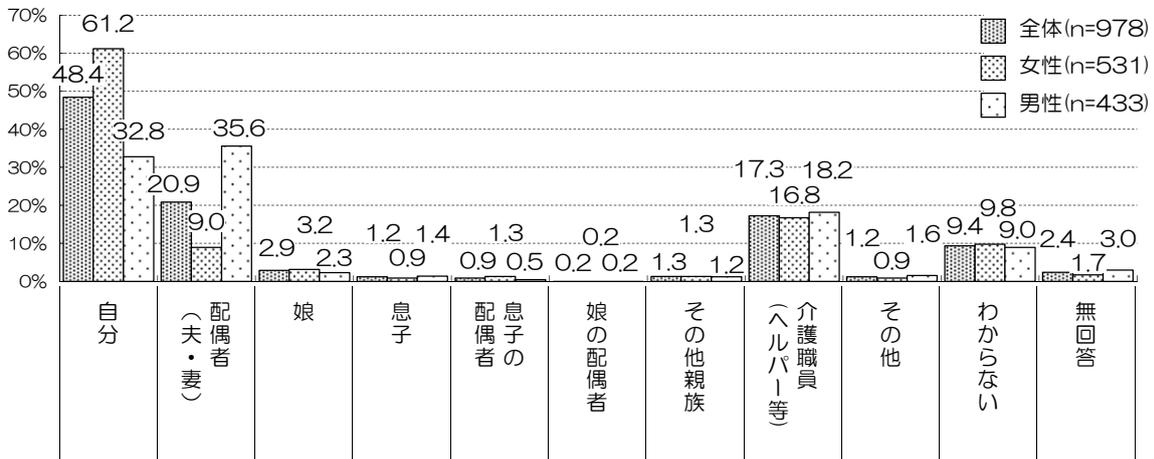
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは 5 ポイント以上高い項目を示す。

年齢別にみると、女性のすべての年齢層と男性の 20 歳代では「介護職員（ヘルパー等）」の割合が高くなっている。対して、男性の 30 歳以上の年齢層では「配偶者（夫・妻）」が最も高くなっている。

(5) 家族が介護を必要とするようになった場合の担い手

問13. 家族に介護を必要とする人がおられる場合、あるいは、もし家族が介護を必要とする状態となった場合は、主に誰が世話をしていますか（することになると思いますか）。
（〇は1つ）

図 性別 家族が介護を必要とするようになった場合の担い手



家族の介護が必要になった場合に世話をする人については、女性では「自分」が61.2%を占め「配偶者(夫・妻)」は9.0%にとどまっているが、男性では「配偶者(夫・妻)」(35.6%)と「自分」(32.8%)がともに3割台となっている。

表 性・年齢別 家族が介護を必要とするようになった場合の担い手

	対象者数(n)	自分	配偶者(夫・妻)	娘	息子	息子の配偶者	娘の配偶者	その他親族	介護職員(ヘルパー等)	その他	わからない	無回答	
全体	978	48.4	20.9	2.9	1.2	0.9	0.2	1.3	17.3	1.2	9.4	2.4	
女性	20歳代	34	58.8	2.9	2.9	-	-	5.9	14.7	2.9	17.6	-	
	30歳代	67	62.7	9.0	1.5	1.5	3.0	1.5	14.9	-	19.4	-	
	40歳代	112	73.2	3.6	0.9	-	-	0.9	14.3	-	10.7	0.9	
	50歳代	87	60.9	6.9	4.6	-	1.1	-	19.5	1.1	6.9	-	
	60歳代	125	64.0	12.0	4.8	-	-	-	0.8	15.2	0.8	3.2	3.2
	70歳以上	104	45.2	15.4	3.8	3.8	3.8	-	1.0	21.2	1.0	10.6	3.8
男性	20歳代	33	27.3	21.2	-	6.1	-	-	9.1	36.4	3.0	9.1	3.0
	30歳代	31	51.6	16.1	-	-	-	-	12.9	-	22.6	-	
	40歳代	73	31.5	38.4	-	-	-	-	16.4	2.7	11.0	1.4	
	50歳代	71	29.6	36.6	2.8	2.8	1.4	1.4	16.9	1.4	8.5	5.6	
	60歳代	125	32.8	38.4	2.4	-	0.8	-	0.8	20.0	0.8	6.4	2.4
	70歳以上	100	32.0	40.0	5.0	2.0	-	-	-	14.0	2.0	7.0	4.0

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

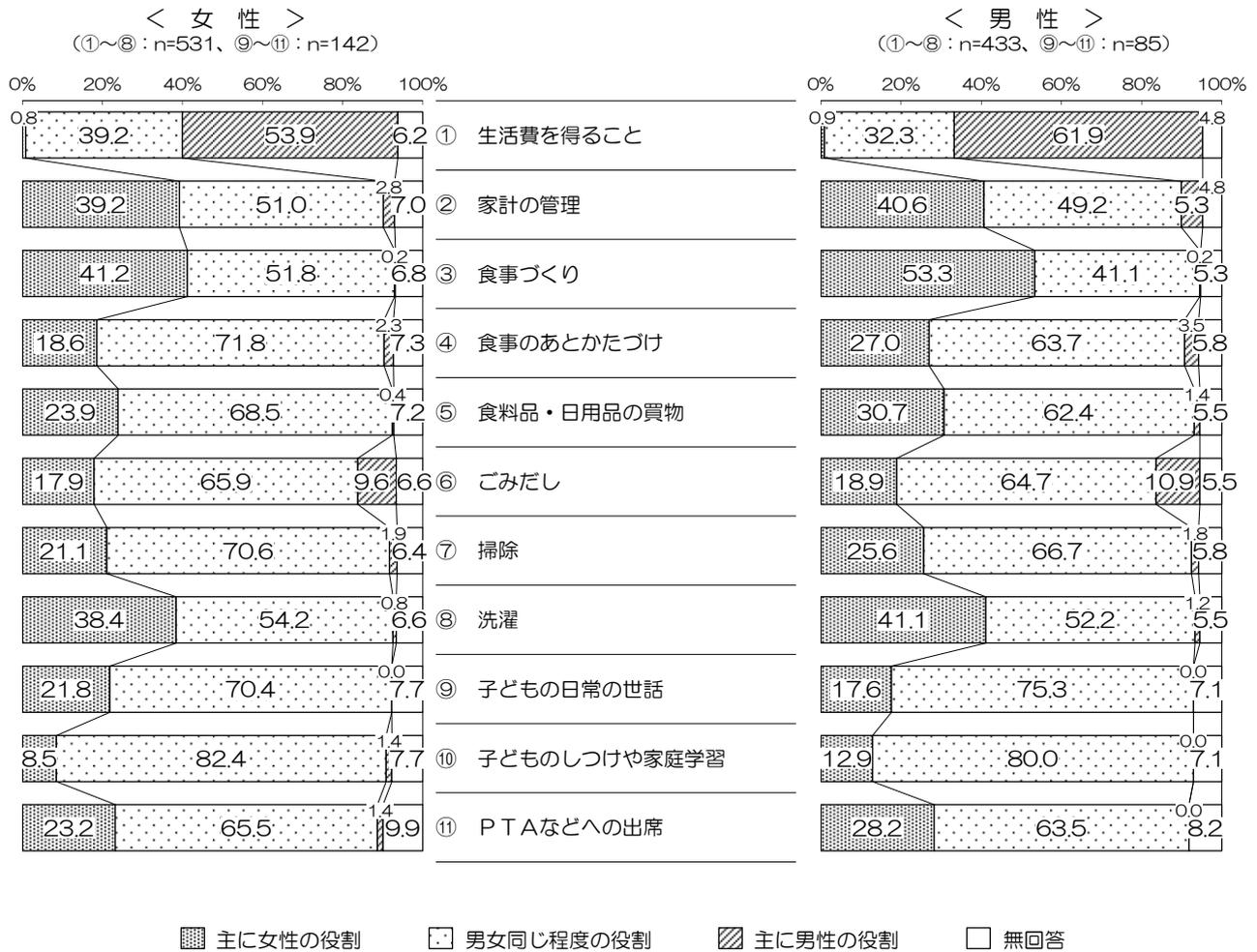
年齢別にみると、女性はいずれの年齢層でも「自分」の割合が最も高くなっている。

男性は、20歳代は「介護職員(ヘルパー等)」、30歳代は「自分」、40歳以上の年齢層では「配偶者(夫・妻)」の割合が最も高くなっている。

(6) 家庭の仕事の役割分担

問14. 家庭におけることがらについて、主に男女のどちらがするのがよいと思いますか。また、現実には誰がしていますか。(理想・現実それぞれ各項目に○は1つ)
 ⑨～⑪は、高校生以下の子どもと同居している方におたずねします。

図 性別 家庭の仕事の役割分担の理想

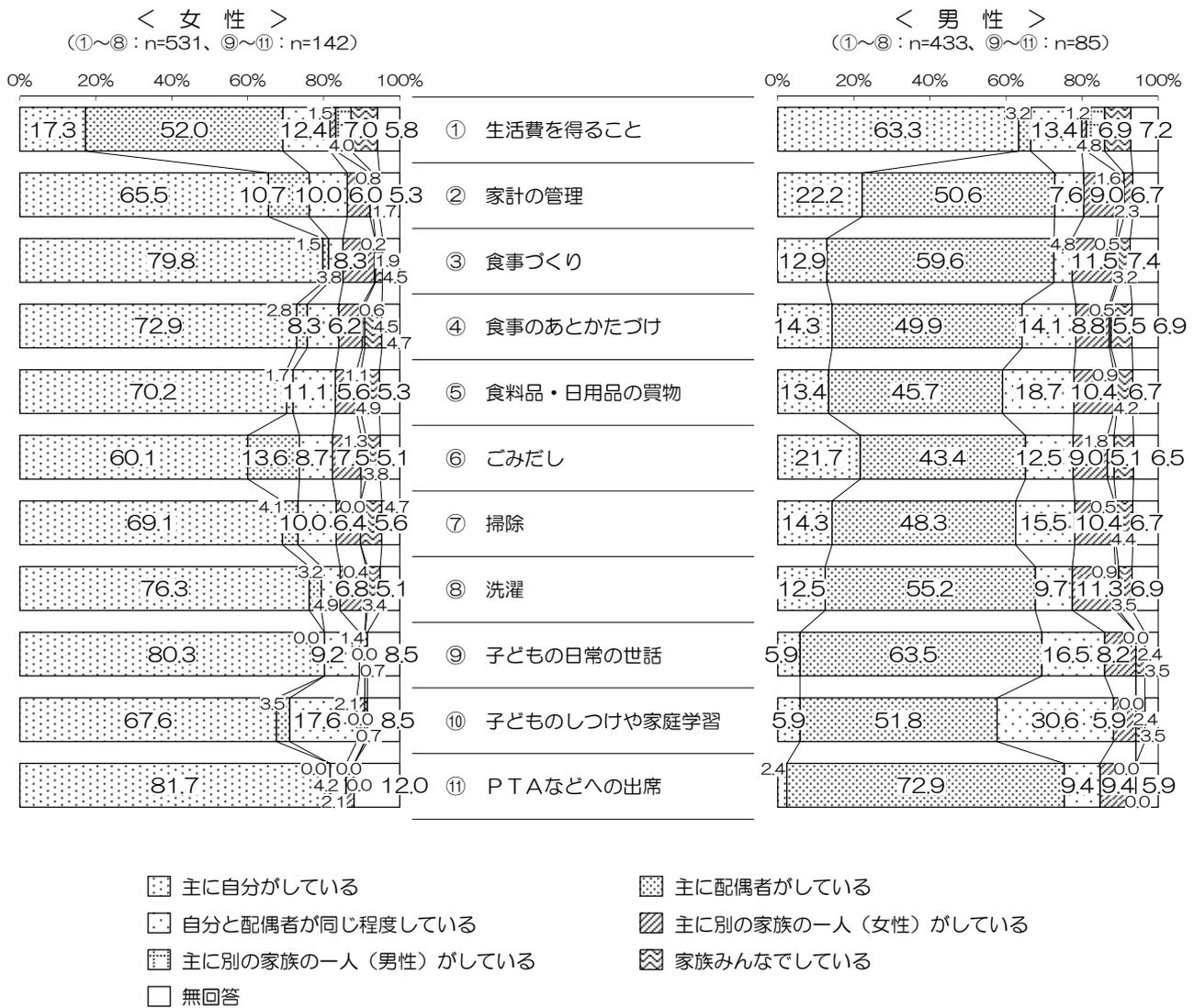


家庭の仕事の役割分担につて、理想と現実それぞれにわけてたずねた。

役割分担の理想については、ほとんどの項目で「男女同じ程度の役割」の回答割合が男女とも高いなかで、「① 生活費を得ること」は男女とも「主に男性の役割」が5割を超えており、「男女同じ程度の役割」が他の項目に比べて低くなっている。一方「② 家計の管理」、「③ 食事づくり」、「⑧ 洗濯」では「主に女性の役割」が4～5割前後を占めている。

また、「⑨ 子どもの日常の世話」以外の項目では、男性は女性よりも「男女同じ程度の役割」の割合が低くなっている。

図 性別 家庭の仕事の役割分担の現実



役割分担の現実については、「① 生活費を得ること」は女性では「主に配偶者がしている」(52.0%)、男性では「主に自分がしている」(63.3%)を占めている。また、「① 生活費を得ること」以外の項目ではいずれも、女性では「主に自分がしている」、男性では「主に配偶者がしている」の割合が高くなっている。

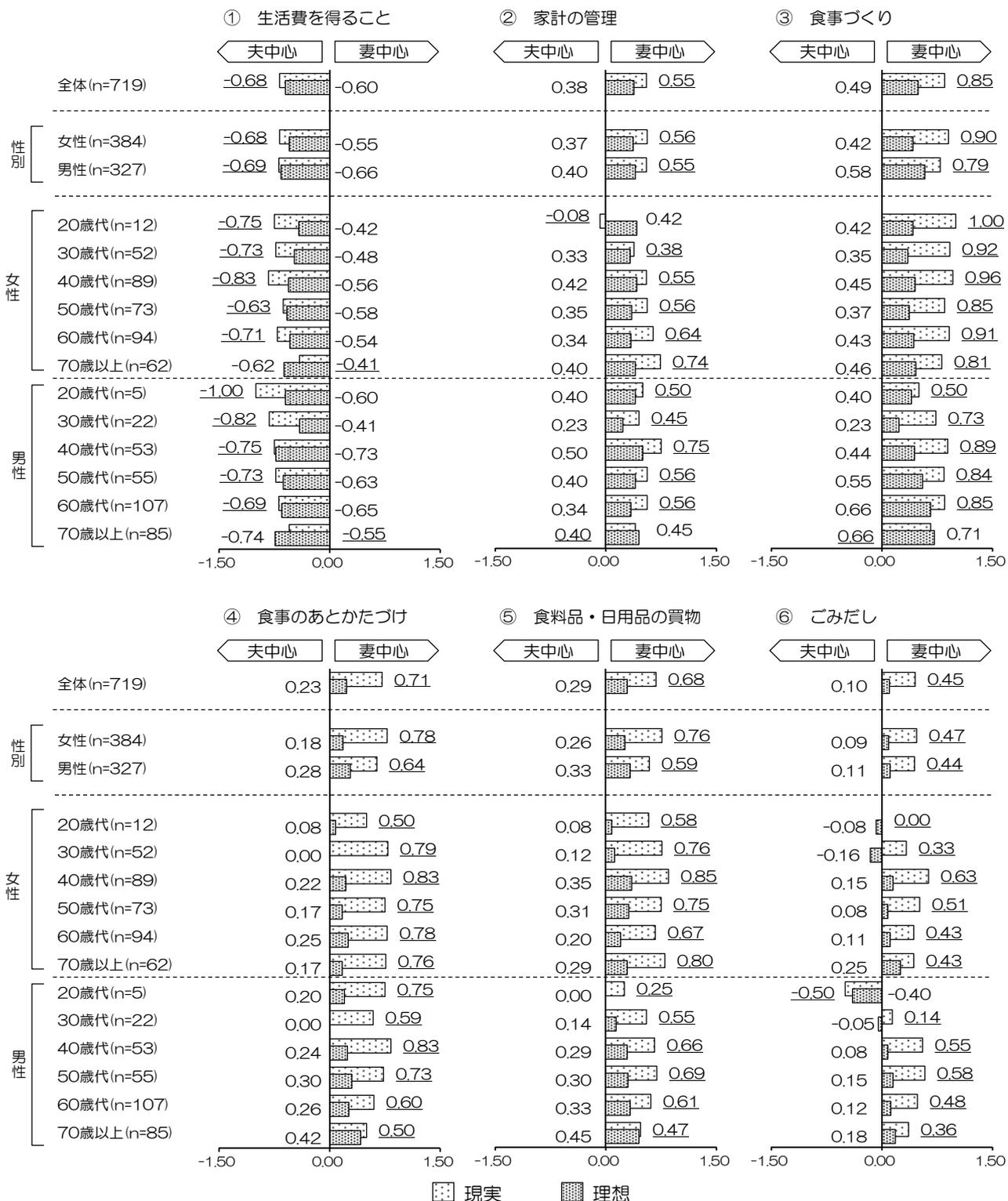
「自分と配偶者が同じ程度している」の割合は、いずれの項目でも「主に自分がしている」や「主に配偶者がしている」と比べて低くなっており、最も割合の高い「⑩ 子どものしつけや家庭学習」でも女性17.6%・男性30.6%にとどまる。

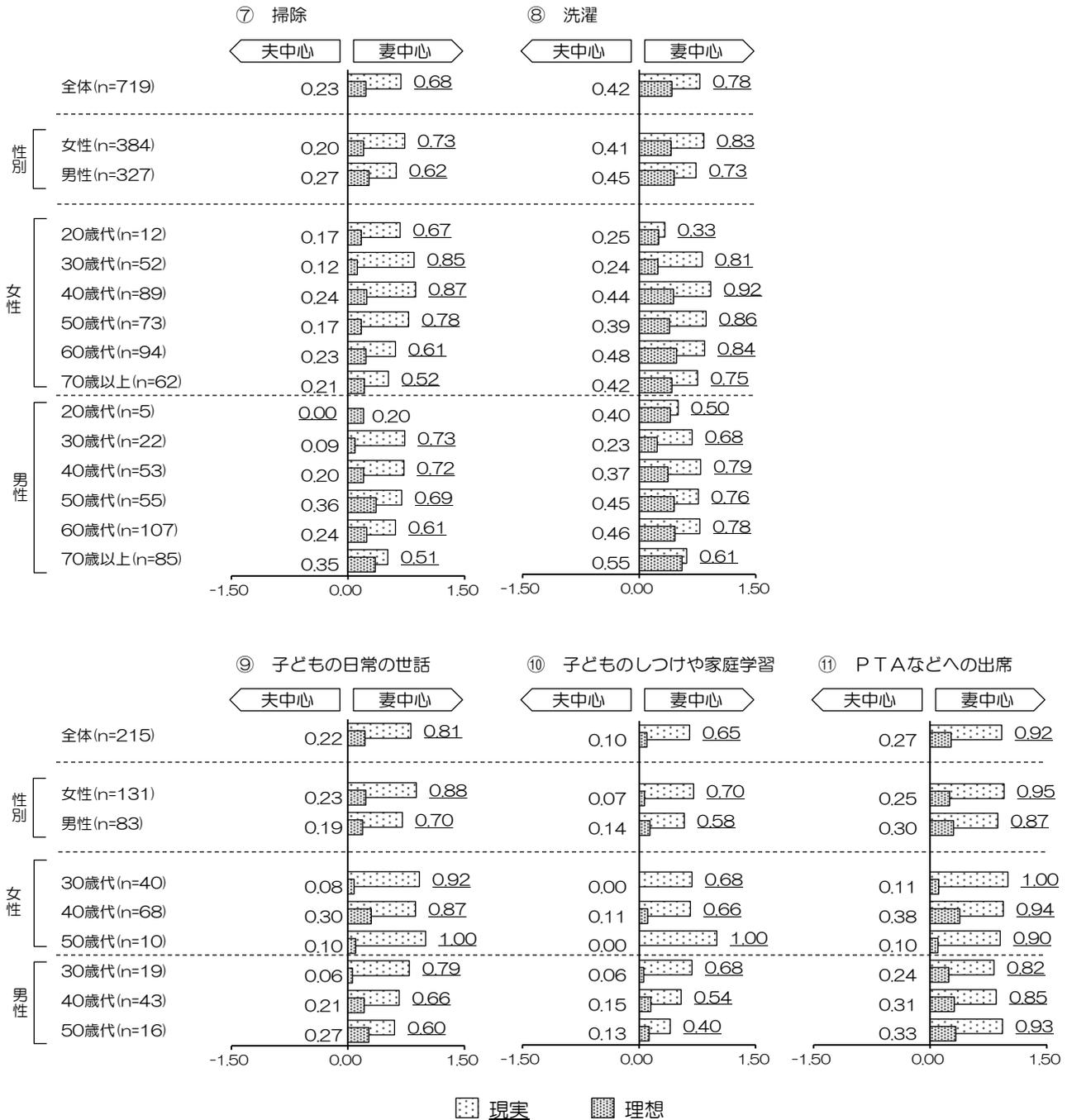
ほとんどの項目で男性の方が女性よりも「自分と配偶者が同じ程度している」の割合が高くなっている。

※以下の属性別グラフの数値は、以下の通りにウエイトを乗じ加重平均して算出したもので、図表中左側に近いほど「夫中心」、右側に近いほど「妻中心」、中心に近いほど「同じ程度」を示す分析用の便宜的な指標です。

理想		現実	
主に女性	1点	主に自分がしている	1点(回答者が女性の場合) -1点(回答者が男性の場合)
男女同じ程度	0点	主に配偶者がしている	-1点(回答者が女性の場合) 1点(回答者が男性の場合)
主に男性	-1点	自分と配偶者が同じ程度している	0点
		主に別の家族の一人(女性)がしている	1点
		主に別の家族の一人(男性)がしている	-1点
		家族みんなですしている	0点

表 性・年齢別 家庭の仕事の役割分担の理想と現実（配偶者のいる回答者のみ）





注)「⑨ 子どもの日常の世話」、「⑩ 子どものしつけや家庭学習」、「⑪ PTAなどへの出席」の20歳代、60歳代、70歳以上の回答は対象者数が少ないため、図表上では省略している。

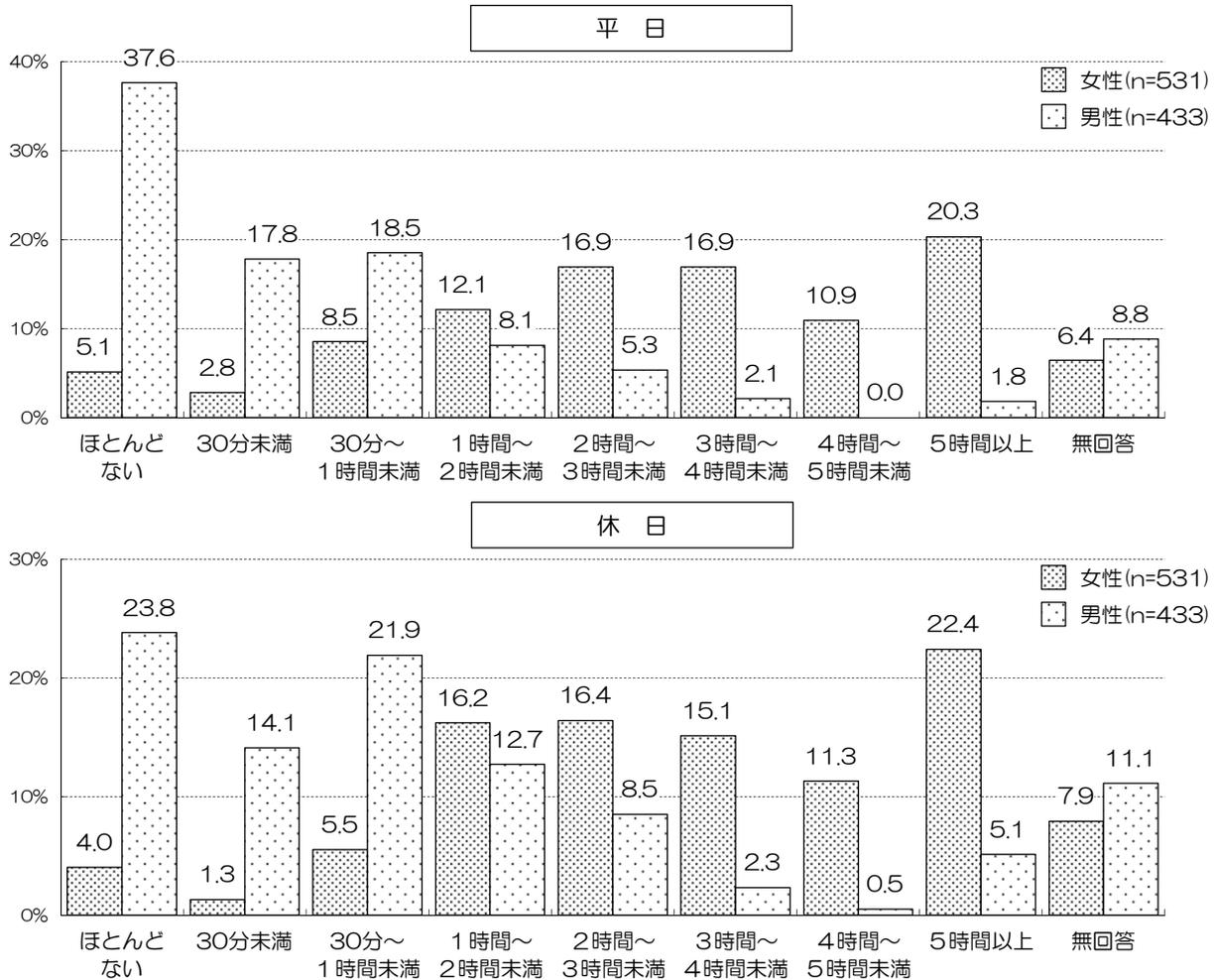
配偶者のいる回答者の状況について理想と現実を比較すると、現実には理想よりも「①生活費を得ること」では『夫中心』、それ以外の項目では『妻中心』に偏っている。特に子育ての分野(⑨～⑪)は『男女同じ程度』を理想とする割合が高いが、現実には『妻中心』への偏りが大きい。

年齢別にみると、家事に関する項目(③～⑧)の理想は男性では年齢が高くなるにつれて『妻中心』に偏る傾向がみられる。年齢が低い層では「男女同じ程度」を理想とする傾向が強くなっているが、現実の役割分担は『妻中心』への偏りが大きく、理想と現実のギャップが大きくなっている。

(7)家事等の時間

問15. あなたは、普段、1日のうちで家事・育児・介護等にどのくらい時間を使っていますか。平日、休日それぞれお答えください。(それぞれ〇は1つ)

図 性別 家事等の時間



家事・育児・介護等に使っている時間についてたずねたところ、女性では平日・休日ともに5時間以上が最も高くなっており、「ほとんどない」と「30分未満」は合計しても1割未満となっている。平日と休日の時間の違いは男性と比べると女性は小さくなっている。

男性は、平日は「ほとんどしない」が37.6%で最も高くなっている。休日は平日と比べて時間が長くなる傾向がみられるが、「ほとんどない」と「30分未満」が合わせて37.9%を占めている。

表 性・年齢別、性・就業状態別 平日の家事等の時間

	対象者数 (n)	平日									
		ない ほとんど	未 3 0 分	未 1 3 0 分	未 2 1 時間	未 3 2 時間	未 4 3 時間	未 5 4 時間	以上 5 時間	無 回 答	
全体	978	19.5	9.4	13.1	10.1	11.7	10.6	5.9	12.0	7.7	
女性	20歳代	34	23.5	8.8	26.5	5.9	5.9	-	5.9	17.6	5.9
	30歳代	67	9.0	4.5	4.5	3.0	7.5	13.4	14.9	40.3	3.0
	40歳代	112	1.8	3.6	7.1	13.4	14.3	18.8	11.6	25.9	3.6
	50歳代	87	1.1	2.3	13.8	10.3	21.8	24.1	6.9	18.4	1.1
	60歳代	125	2.4	0.8	7.2	15.2	25.6	17.6	10.4	12.8	8.0
	70歳以上	104	6.7	1.9	3.8	16.3	15.4	16.3	12.5	13.5	13.5
	男性	20歳代	33	48.5	18.2	15.2	15.2	-	-	-	-
30歳代		31	25.8	25.8	19.4	16.1	9.7	3.2	-	-	-
40歳代		73	37.0	23.3	24.7	5.5	1.4	2.7	-	1.4	4.1
50歳代		71	43.7	23.9	14.1	2.8	5.6	-	-	2.8	7.0
60歳代		125	36.0	15.2	24.0	8.0	4.8	2.4	-	0.8	8.8
70歳以上		100	36.0	10.0	11.0	9.0	9.0	3.0	-	4.0	18.0
女性		正社員等	84	8.3	7.1	25.0	14.3	10.7	16.7	6.0	10.7
	パート等	140	5.0	3.6	8.6	12.9	17.9	19.3	12.1	16.4	4.3
	自営業等	28	3.6	3.6	3.6	10.7	28.6	14.3	3.6	25.0	7.1
	無業	259	3.5	1.2	3.9	11.2	17.4	17.0	12.7	25.9	7.3
男性	正社員等	185	44.9	19.5	21.1	8.6	2.2	1.1	-	0.5	2.2
	パート等	50	32.0	26.0	18.0	8.0	2.0	2.0	-	-	12.0
	自営業等	44	34.1	20.5	18.2	2.3	9.1	2.3	-	-	13.6
	無業	138	31.9	11.6	16.7	10.1	10.1	2.9	-	5.1	11.6

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

平日の家事・育児・介護等に使用している時間を年齢別にみると、女性の20歳代は、「ほとんどない」が23.5%、「30分～1時間未満」が26.5%となっており、他の女性の年齢層と比べて時間が短くなっている。30歳代・40歳代は「5時間以上」の割合が最も高く30歳代で40.3%、40歳代で25.9%となっている。50歳代は「3時間～4時間未満」、60歳代は「2時間～3時間未満」の割合が最も高くなっている。

男性は女性と比べて年齢による傾向の違いが小さく、いずれの年齢層でも「ほとんどない」の割合が高くなっている。

就業状態別にみると、2時間以上家事・育児・介護等に費やす人が、女性の正社員等で44.1%、パート等で65.7%、自営業等で71.5%、無業で73.0%と高くなっている。

男性では、「ほとんどしない」と1時間未満を合わせた割合が、正社員等の85.5%、パート等の76.0%、自営業等の72.8%を占めている。

表 性・年齢別、性・就業状態別 休日の家事等の時間

	対象者数 (n)	休日									
		ない ほとん ど	未 3 満 0 分	未 1 3 満 0 分 間	未 2 1 満 時 間 間	未 3 2 満 時 間 間	未 4 3 満 時 間 間	未 5 4 満 時 間 間	以 5 上 時 間	無 回 答	
全体	978	13.0	7.1	12.7	14.5	12.9	9.5	6.3	14.6	9.4	
女性	20 歳代	34	14.7	11.8	17.6	14.7	8.8	2.9	-	23.5	5.9
	30 歳代	67	4.5	-	9.0	7.5	3.0	9.0	10.4	53.7	3.0
	40 歳代	112	0.9	1.8	2.7	18.8	13.4	12.5	13.4	30.4	6.3
	50 歳代	87	1.1	-	2.3	17.2	21.8	20.7	16.1	18.4	2.3
	60 歳代	125	2.4	-	8.0	18.4	22.4	18.4	12.8	8.8	8.8
	70 歳以上	104	7.7	1.0	1.9	16.3	18.3	17.3	7.7	13.5	16.3
	男性	20 歳代	33	45.5	3.0	18.2	15.2	9.1	3.0	-	3.0
30 歳代		31	16.1	19.4	3.2	16.1	12.9	3.2	3.2	22.6	3.2
40 歳代		73	15.1	12.3	30.1	15.1	6.8	2.7	1.4	12.3	4.1
50 歳代		71	15.5	22.5	25.4	15.5	9.9	2.8	-	1.4	7.0
60 歳代		125	24.0	14.4	29.6	12.0	8.0	1.6	-	1.6	8.8
70 歳以上		100	31.0	11.0	11.0	8.0	8.0	2.0	-	2.0	27.0
女性 就業状態別		正社員等	84	3.6	3.6	8.3	26.2	11.9	10.7	8.3	23.8
	パート等	140	2.9	0.7	8.6	12.9	16.4	19.3	15.0	20.0	4.3
	自営業等	28	3.6	3.6	-	14.3	21.4	14.3	17.9	17.9	7.1
	無業	259	4.2	0.4	3.9	15.1	17.4	13.9	10.4	24.3	10.4
男性 就業状態別	正社員等	185	19.5	17.3	22.7	18.4	9.2	3.2	0.5	7.6	1.6
	パート等	50	24.0	10.0	30.0	16.0	6.0	-	-	4.0	10.0
	自営業等	44	25.0	11.4	20.5	2.3	13.6	2.3	2.3	4.5	18.2
	無業	138	28.3	12.3	19.6	8.7	8.0	1.4	-	2.9	18.8

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは 5 ポイント以上高い項目を示す。

休日の家事・育児・介護等に使っている時間を年齢別にみると、女性では、20 歳代は「ほとんどない」「30 分未満」「30 分～1 時間未満」が合わせて 44.1%を占めており、30 歳代は「5 時間以上」が 53.7%を占め最も高くなっている。40 歳代でも「5 時間以上」が最も高く 30.4%となっている。50 歳以上の年齢層では、「2 時間～3 時間未満」と「3 時間～4 時間未満」の割合が高くなっている。

男性では、20 歳代と 70 歳以上では、「ほとんどない」の割合が最も高くなっている。30 歳代は「5 時間以上」が 22.6%、「2 時間～3 時間未満」が 12.9%となっており、他の男性の年齢層と比べて時間が長い傾向がみられる。40～60 歳代の各年齢層では「30 分～1 時間未満」の割合が最も高くなっている。

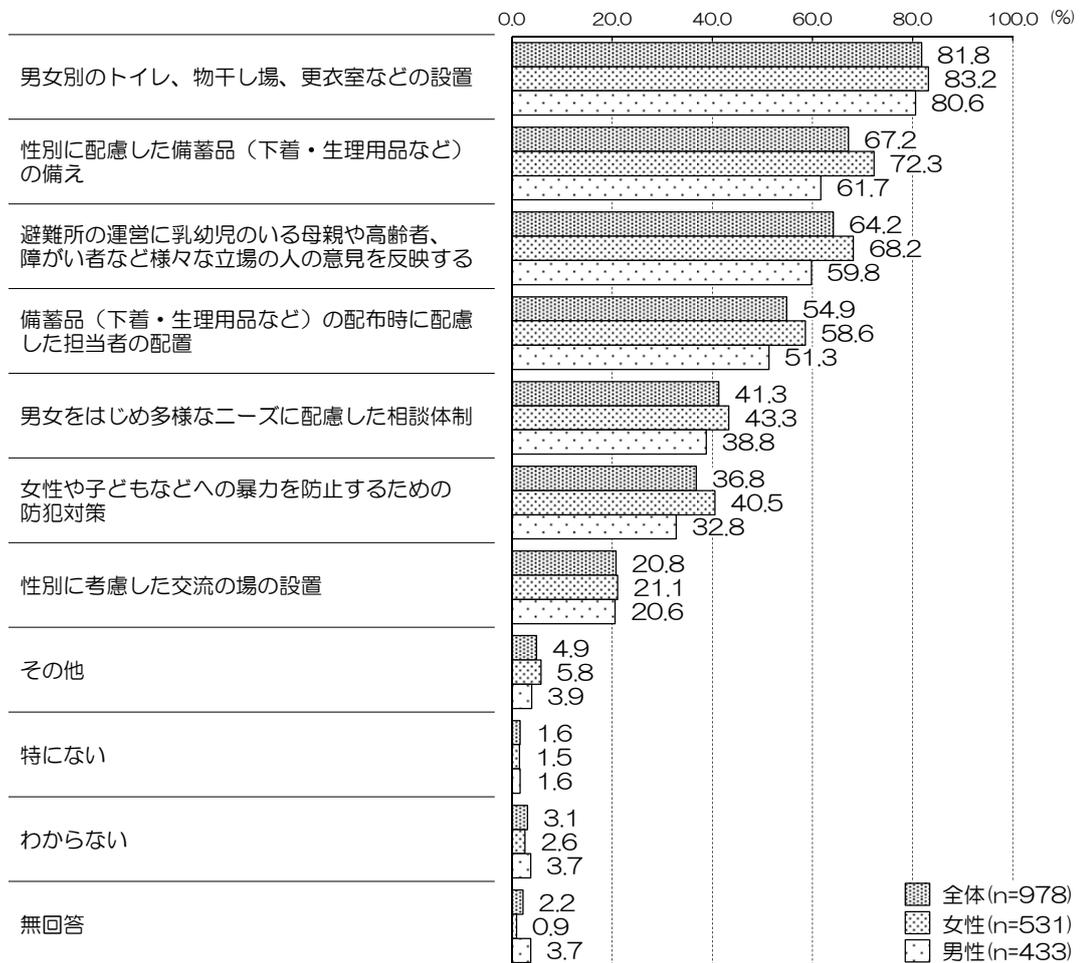
就業状態別にみると、2 時間以上家事・育児・介護等に使う人が、女性の正社員等で 54.7%、パート等で 70.7%、自営業等で 71.5%、無業で 66.0%となっている。男性は、正社員等とパート等では、「30 分～1 時間未満」、自営業等と無職では「ほとんどない」の割合が最も高くなっている。

男女とも平日と休日の違いは、無業で小さく、正社員等とパート等で大きくなっている。

(8) 避難所において快適に過ごすための取組

問16. 災害時の避難所において、みんなが快適に過ごすために取り組むとよいと思うことは、どんなことですか。(〇はいくつでも)

図 性別 避難所において快適に過ごすための取組



災害時の避難所において快適に過ごすための取組についてたずねたところ、「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」が81.8%で最も高く、次いで「性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え」（67.2%）、「避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する」（64.2%）、「備蓄品（下着・生理用品など）の配布時に配慮した担当者の配置」（54.9%）などの順となっている。

性別にみると、「特にない」「わからない」以外のすべての項目で女性は男性よりも割合が高くなっており、「性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え」（10.6ポイント差）、「避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する」（8.4ポイント差）、「女性や子どもなどへの暴力を防止するための防犯対策」（7.7ポイント差）、「備蓄品（下着・生理用品など）の配布時に配慮した担当者の配置」（7.3ポイント差）で、その違いが大きくなっている。

表 性・年齢別 避難所において快適に過ごすための取組

	対象者数 (n)	男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置	性別に配慮した備蓄品 (下着・生理用品など) の備え	避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する	備蓄品 (下着・生理用品など) の配布時に配慮した担当者の配置	男女をはじめ多様なニーズに配慮した相談体制	女性や子どもなどへの暴力を防止するための防犯対策	性別に考慮した交流の場の設置	その他	特にない	わからない	無回答	
全体	978	81.8	67.2	64.2	54.9	41.3	36.8	20.8	4.9	1.6	3.1	2.2	
女性	20 歳代	34	73.5	82.4	52.9	55.9	32.4	52.9	26.5	8.8	2.9	5.9	-
	30 歳代	67	88.1	91.0	83.6	67.2	43.3	56.7	20.9	9.0	1.5	-	-
	40 歳代	112	84.8	81.3	65.2	61.6	44.6	39.3	25.0	7.1	0.9	2.7	1.8
	50 歳代	87	88.5	77.0	70.1	56.3	44.8	34.5	21.8	9.2	-	2.3	-
	60 歳代	125	81.6	66.4	76.0	62.4	48.8	32.0	18.4	1.6	1.6	1.6	1.6
	70 歳以上	104	78.8	51.0	56.7	47.1	37.5	43.3	18.3	3.8	2.9	4.8	1.0
男性	20 歳代	33	84.8	75.8	51.5	51.5	21.2	36.4	24.2	9.1	3.0	3.0	-
	30 歳代	31	74.2	58.1	48.4	45.2	41.9	41.9	9.7	12.9	-	6.5	-
	40 歳代	73	84.9	65.8	64.4	64.4	42.5	38.4	24.7	6.8	1.4	2.7	2.7
	50 歳代	71	81.7	63.4	52.1	52.1	46.5	38.0	22.5	2.8	1.4	5.6	2.8
	60 歳代	125	84.8	64.0	67.2	50.4	40.0	27.2	19.2	1.6	1.6	1.6	3.2
	70 歳以上	100	72.0	51.0	59.0	44.0	34.0	28.0	20.0	1.0	2.0	5.0	8.0

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは 5 ポイント以上高い項目を示す。

年齢別にみると、女性では、「性別に配慮した備蓄品 (下着・生理用品など) の備え」は年齢が低いほど割合が高くなる傾向がみられ、20・30 歳代では最も割合の高い項目となっている。また女性の 20 歳代と 30 歳代では「女性や子どもなどへの暴力を防止するための防犯対策」が 5 割を超えており、他の年齢層との違いが大きくなっている。

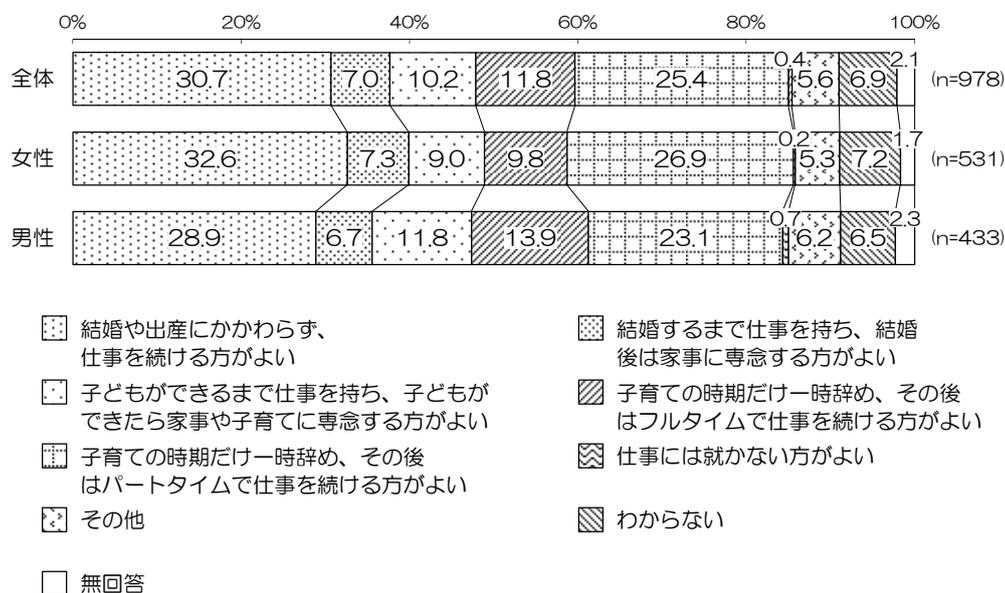
男性では、いずれの年齢層でも「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」の割合が最も高くなっているが、20 歳代は「性別に配慮した備蓄品 (下着・生理用品など) の備え」(75.8%)、40 歳代は「備蓄品 (下着・生理用品など) の配布時に配慮した担当者の配置」(64.4%) が男性の他の年齢層と比べて割合が高くなっている。

3. 生き方や仕事について

(1) 女性が職業をもつことに対する意識

問17. 女性と仕事について、どのようにお考えですか。(男性の方もお答えください) (〇は1つ)

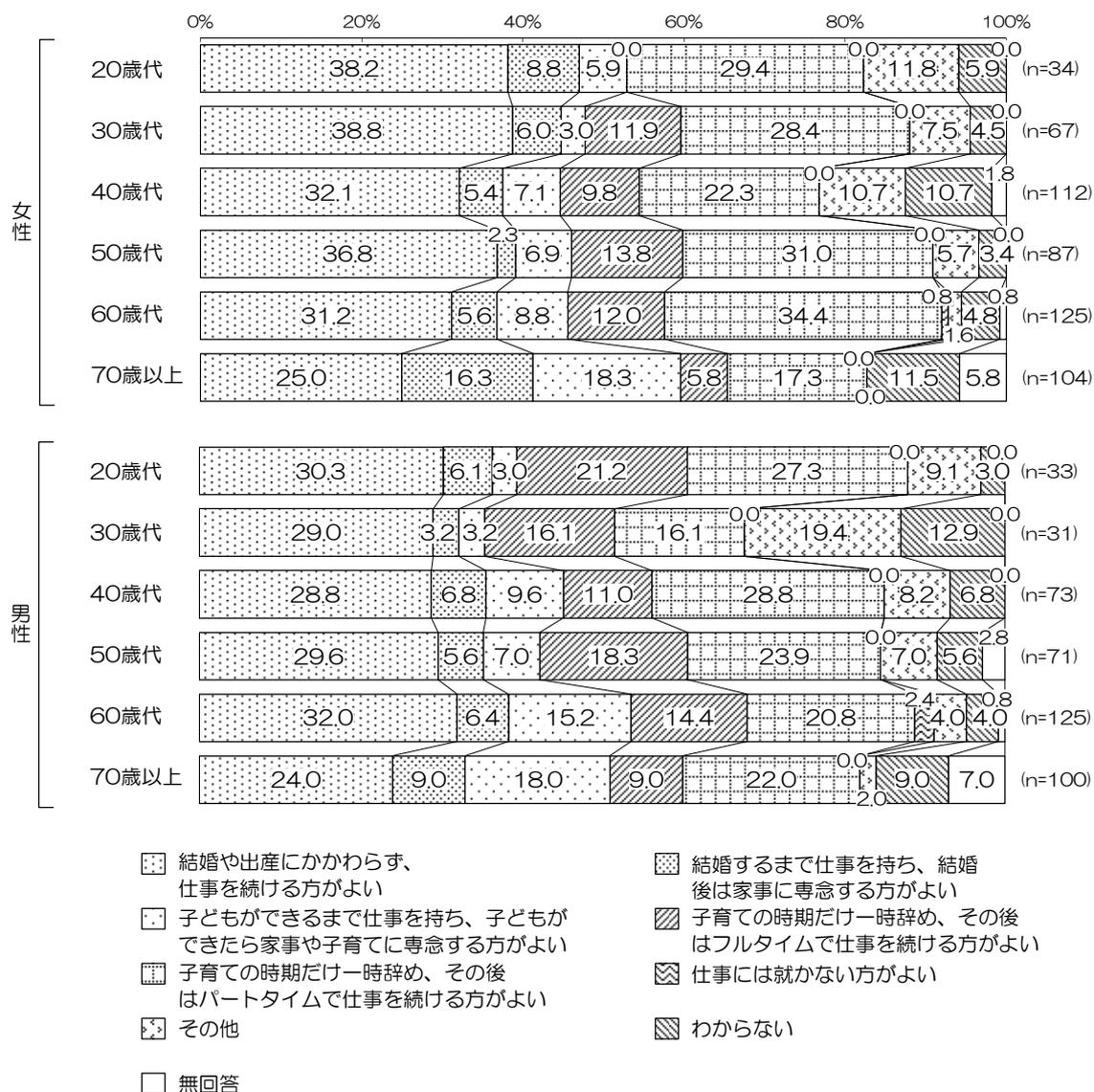
図 性別 女性が職業をもつことに対する意識



女性と仕事についての考え方をたずねたところ、「子育ての時期だけ一時辞め、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい」(25.4%)と「子育ての時期だけ一時辞め、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい」(11.8%)を合わせた『再就職型』が37.2%、「結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい」とする『就業継続型』が30.7%、「結婚するまで仕事を持ち、結婚後は家事に専念する方がよい」(7.0%)と「子どもができるまで仕事を持ち、子どもができたらか家事や子育てに専念する方がよい」(10.2%)を合計した『結婚・出産退職型』が17.2%となっている。

性別にみると、『就業継続型』は女性32.6%・男性28.9%と、女性の方が『就業継続型』を支持する割合が高くなっている。

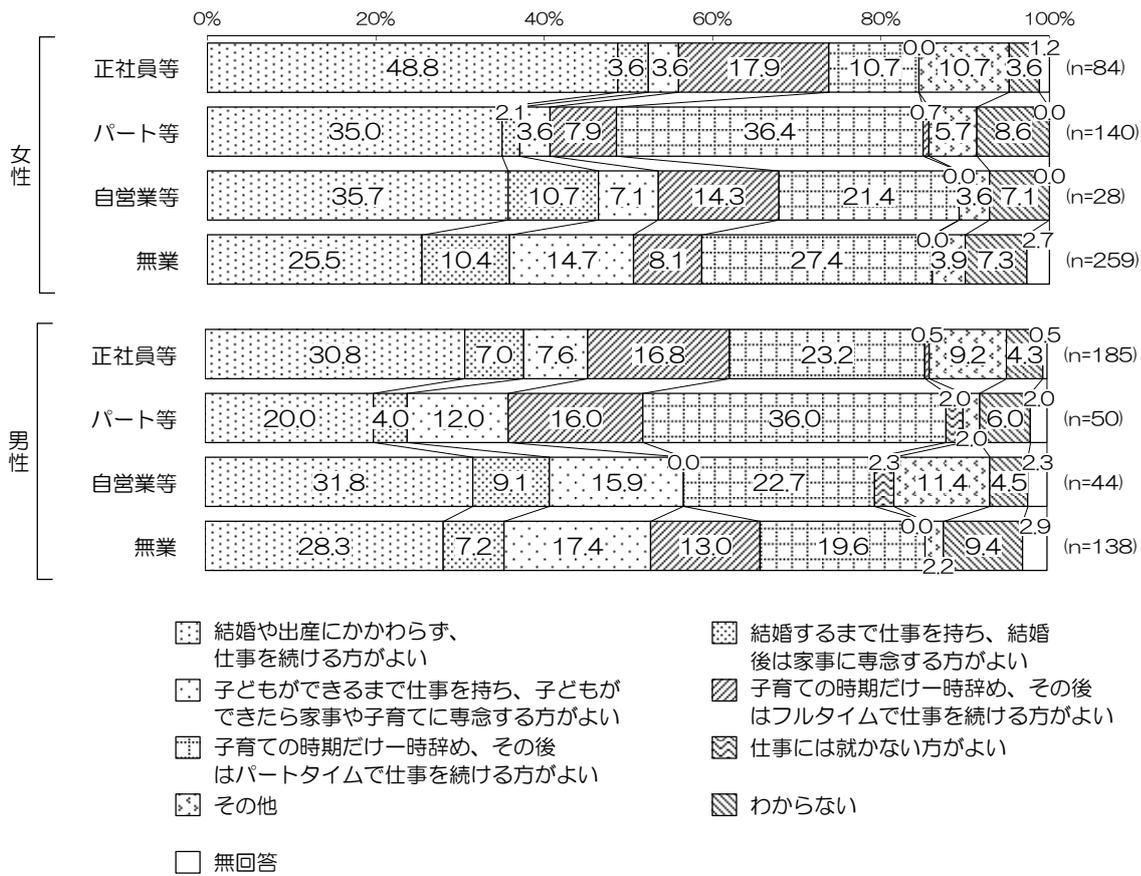
図 性・年齢別 女性が職業をもつことに対する意識



年齢別にみると、女性では20歳代は『就業継続型』が38.2%、『再就職型』が29.4%となっており、『就業継続型』が『再就職型』よりも割合が高い。女性の30歳代と40歳代では『就業継続型』と『再就職型』の割合がほぼ同じとなっている。女性の50歳代と60歳代では『再就職型』が4割以上、70歳代では『結婚・出産退職型』が3割以上となっている。

男性では、いずれの年齢層でも『再就職型』が『就業継続型』『結婚・出産退職型』よりも割合が高くなっている。

図 性・就業状態別 女性が職業をもつことに対する意識



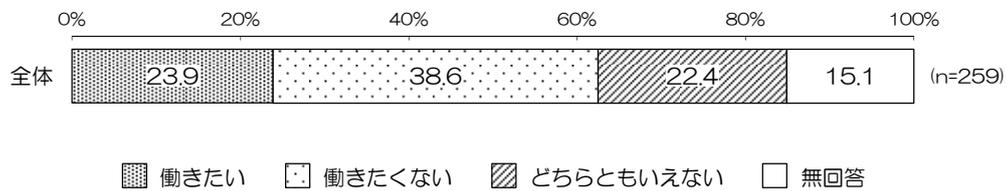
就業状態別にみると、女性の正社員等では『就業継続型』が48.8%となっており、『再就職型』『結婚・出産退職型』よりも割合が高くなっている。パート等の男女では『再就職型』が女性44.3%・男性52.0%と割合が高くなっている。

(2) 就労意向

「働いていない女性の方」におたずねします

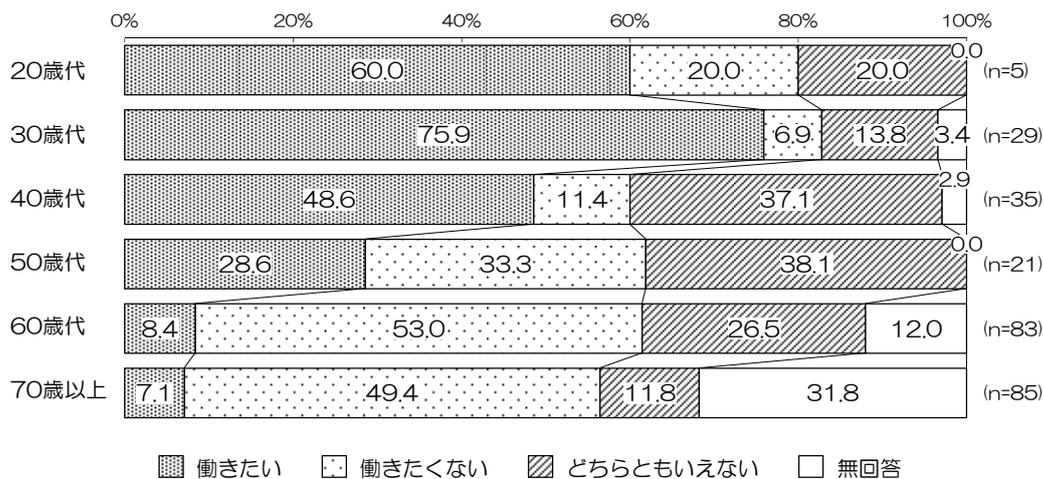
問18. あなたは、今後働きたいと思いますか。(○は1つ)

図 就労意向



現在働いていない女性に今後の就労意向をたずねたところ、「働きたい」は 23.9%となっており、「働きたくない」が 38.6%、「どちらともいえない」が 22.4%を占めている。

図 年齢別 就労意向

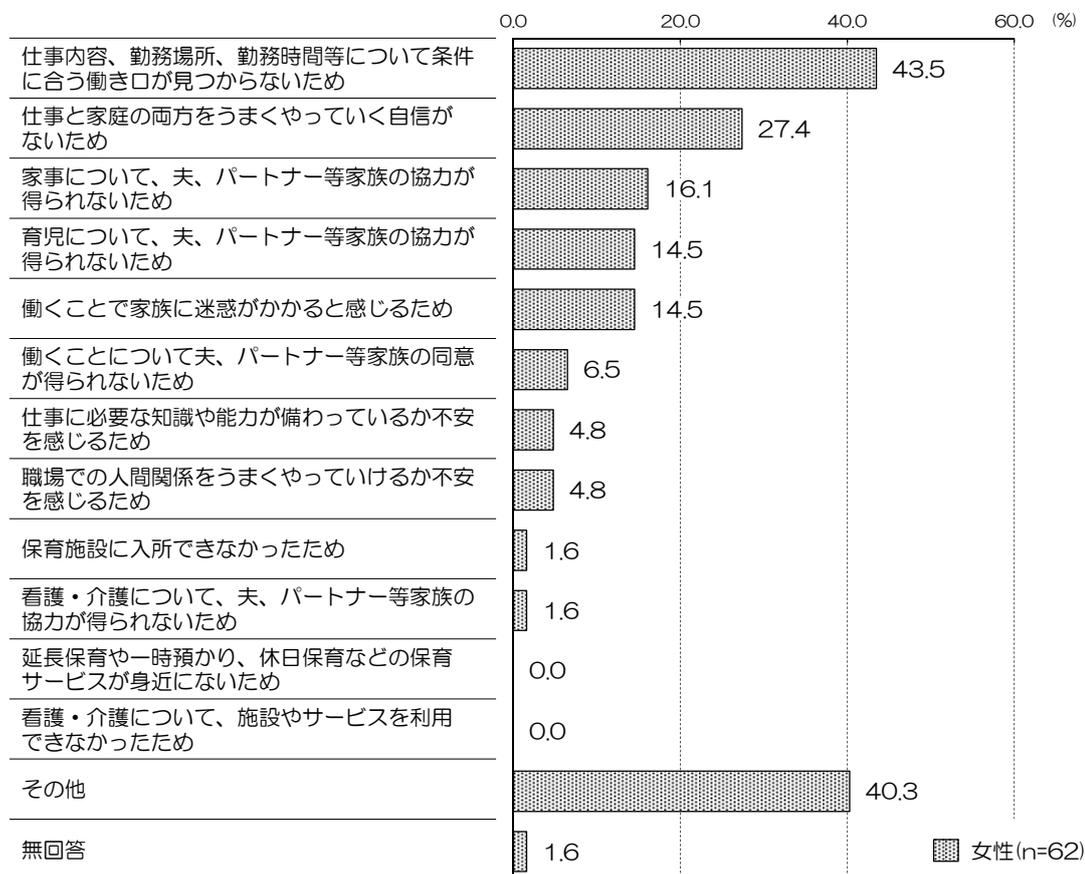


年齢別にみると、年齢が低い層で「働きたい」の割合が高く、30歳代で75.9%、20歳代で60.0%、40歳代で48.6%が「働きたい」と回答している。

(3) 現在、仕事をしていない理由

問18-1. 現在、仕事をしていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

図 現在、仕事をしていない理由



就労意向がありながら現在仕事をしていない女性にその理由をたずねたところ、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため」が43.5%で最も高く、次いで「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないため」が27.4%となっている。

「その他」は40.3%（25件）となっており、記入された内容をみると「高齢のため」が7件、「妊娠中・産後のため」が4件、「求職中」が3件などとなっている。

表 年齢別 現在、仕事をしていない理由

	対象者数 (n)	働くことを見つからないため	仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う	仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないため	協力が得られないため 家事について、夫、パートナー等家族の	協力が得られないため 育児について、夫、パートナー等家族の	働くことで家族に迷惑がかかると感じるため	働くことについて夫、パートナー等家族の同意が得られないため	仕事に必要な知識や能力が備わっていない か不安を感じるため
全体	62	43.5	27.4	16.1	14.5	14.5	6.5	4.8	
女性									
20歳代	3	33.3	-	-	-	-	-	-	
30歳代	22	31.8	31.8	27.3	31.8	13.6	13.6	4.5	
40歳代	17	64.7	58.8	23.5	11.8	35.3	-	11.8	
50歳代	6	66.7	-	-	-	-	-	-	
60歳代	7	42.9	-	-	-	-	14.3	-	
70歳以上	6	16.7	-	-	-	-	-	-	

	対象者数 (n)	職場での人間関係がうまくやっていると不安を感じるため	保育施設に入所できなかつたため	夫、パートナー等家族の協力が得られないため	看護・介護について、協力が得られないため	延長保育や一時預かり、休日保育などの保育サービスが身近にないため	看護・介護について、施設やサービスを利用できなかったため	その他	無回答
全体	62	4.8	1.6	1.6	-	-	40.3	1.6	
女性									
20歳代	3	-	-	-	-	-	66.7	-	
30歳代	22	-	4.5	-	-	-	45.5	-	
40歳代	17	11.8	-	-	-	-	17.6	-	
50歳代	6	-	-	-	-	-	33.3	-	
60歳代	7	14.3	-	-	-	-	42.9	14.3	
70歳以上	6	-	-	16.7	-	-	66.7	-	

注) 対象者数数が少ないため網掛けは除外している。

年齢別にみると、30歳代は「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため」「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないため」「育児について、夫、パートナー等家族の協力が得られないため」「家事について、夫、パートナー等家族の協力が得られないため」がいずれも約3割となっている。40歳代は、「仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため」が64.7%で最も高く、次いで「仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないため」が58.8%、「働くことで家族に迷惑がかかると感じるため」が35.3%となっている。

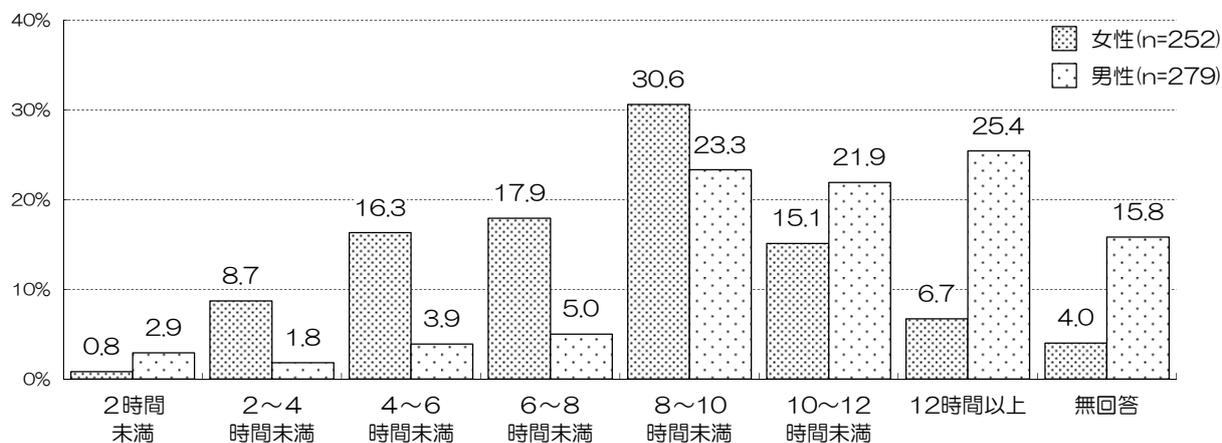
(4) 仕事に要する時間

働いている方全員におたずねします

問19. あなたは、普段、仕事（在宅就労を含む）にどのくらい時間を使っていますか。

※通勤時間を含めた時間でお答えください。（〇は1つ）

図 性別 仕事に要する時間



現在働いている人に仕事に要する時間（通勤時間を含む）をたずねたところ、女性は「8～10時間未満」（30.6%）、男性は「12時間以上」（25.4%）の割合が最も高くなっている。

8時間未満の合計は女性 43.7%・男性 13.6%となっており、女性は短時間労働者の占める割合が高くなっている。

表 性・年齢別、性・就業状態別、性・同居する末子の年齢別 仕事に要する時間

	対象者数 (n)	2時間未満	2～4時間未満	4～6時間未満	6～8時間未満	8～10時間未満	11～12時間未満	12時間以上	無回答
全体	538	1.9	5.2	9.9	11.5	26.6	18.6	16.4	10.0
女性	20歳代	-	-	4.2	4.2	50.0	16.7	25.0	-
	30歳代	-	10.8	8.1	18.9	40.5	18.9	2.7	-
	40歳代	-	6.6	13.2	15.8	31.6	21.1	7.9	3.9
	50歳代	-	4.6	18.5	27.7	23.1	15.4	4.6	6.2
	60歳代	2.5	17.5	37.5	10.0	20.0	2.5	2.5	7.5
	70歳以上	11.1	33.3	-	22.2	33.3	-	-	-
	男性	20歳代	-	-	4.0	-	24.0	44.0	12.0
30歳代		-	-	-	-	7.1	28.6	53.6	10.7
40歳代		2.9	1.4	-	-	24.3	20.0	41.4	10.0
50歳代		1.7	-	1.7	5.0	23.3	30.0	25.0	13.3
60歳代		4.0	4.0	10.7	10.7	30.7	13.3	10.7	16.0
70歳以上		9.5	4.8	4.8	14.3	14.3	-	4.8	47.6
女性	正社員等	-	2.4	1.2	8.3	38.1	33.3	15.5	1.2
	パート等	0.7	12.1	26.4	25.0	27.1	5.0	0.7	2.9
	自営業等	3.6	10.7	10.7	10.7	25.0	10.7	10.7	17.9
男性	正社員等	0.5	0.5	1.1	1.6	22.2	28.6	34.1	11.4
	パート等	2.0	6.0	16.0	8.0	36.0	6.0	8.0	18.0
	自営業等	13.6	2.3	2.3	15.9	13.6	11.4	9.1	31.8
女性	就学前	-	12.9	9.7	9.7	32.3	25.8	-	9.7
	小学生	-	7.1	14.3	21.4	39.3	14.3	3.6	-
	中高大学生	-	5.3	18.4	15.8	21.1	28.9	5.3	5.3
	社会人	2.2	8.7	28.3	23.9	30.4	2.2	4.3	-
男性	就学前	-	-	-	-	7.7	19.2	61.5	11.5
	小学生	-	-	-	-	15.4	34.6	34.6	15.4
	中高大学生	-	-	-	8.7	21.7	30.4	21.7	17.4
	社会人	3.8	3.8	11.5	3.8	25.0	11.5	17.3	23.1

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年齢別にみると、女性は年齢が高くなるにつれて仕事に要する時間が短くなる傾向がみられ、20～40歳代では「8～10時間未満」が最も高くなっているが、50歳代では「6～8時間未満」、60歳代は「4～6時間未満」の割合が最も高くなっている。

男性では、30歳代と40歳代では「12時間以上」の割合が最も高くなっている。

就業状態別にみると、正社員等では8時間以上の合計が女性86.9%、男性84.9%となっている。パート等では8時間未満の合計が女性64.2%・男性32.0%となっている。

同居する末子の年齢別にみると、男性の就学前では「12時間以上」が61.5%と高くなっている。

(5) 働くうえでの悩みや不満

問20. あなたが働くうえでの悩みや不満はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

図 性別 働くうえでの悩みや不満



働く上での悩みや不満は「賃金・諸手当が少ない」が35.1%で最も高く、これに「人間関係がむずかしい」(20.8%)、「仕事量が多すぎる」(17.8%)、「昇進・昇格が期待できない」(16.0%)、「労働時間が長い」(15.1%)の順で続いている。

性別にみると、女性は男性よりも「賃金・諸手当が少ない」、男性は女性よりも「仕事量が多すぎる」「労働時間が長い」の割合が高くなっている。

表 性・年齢別、性・就業状態別 働くうえでの悩みや不満

	対象者数 (n)	賃金・諸手当が少ない	人間関係がむずかしい	仕事量が多すぎる	昇進・昇格が期待できない	労働時間が長い	休暇・休日が少ない	責任が重い	能力が正当に評価されていない	解雇の不安がある
全体	538	35.1	20.8	17.8	16.0	15.1	13.6	12.3	11.9	5.4
女性	20歳代	62.5	25.0	16.7	20.8	20.8	20.8	16.7	4.2	8.3
	30歳代	32.4	27.0	18.9	16.2	10.8	13.5	24.3	18.9	5.4
	40歳代	35.5	21.1	13.2	22.4	11.8	14.5	11.8	14.5	6.6
	50歳代	36.9	21.5	13.8	16.9	13.8	13.8	7.7	13.8	7.7
	60歳代	32.5	15.0	10.0	15.0	2.5	7.5	7.5	12.5	-
	70歳以上	44.4	11.1	11.1	-	-	22.2	11.1	11.1	11.1
男性	20歳代	40.0	32.0	32.0	28.0	20.0	28.0	24.0	8.0	4.0
	30歳代	39.3	35.7	32.1	10.7	32.1	35.7	14.3	14.3	3.6
	40歳代	41.4	18.6	30.0	15.7	20.0	10.0	15.7	17.1	8.6
	50歳代	28.3	26.7	21.7	23.3	21.7	13.3	11.7	16.7	10.0
	60歳代	28.0	13.3	8.0	5.3	10.7	8.0	6.7	1.3	1.3
	70歳以上	4.8	4.8	-	-	-	4.8	4.8	-	-
女性	正社員等	41.7	32.1	20.2	21.4	22.6	21.4	17.9	15.5	3.6
	パート等	39.3	18.6	12.1	18.6	5.0	8.6	10.7	15.0	7.9
	自営業等	21.4	-	7.1	3.6	17.9	14.3	7.1	3.6	-
男性	正社員等	36.2	24.9	27.0	16.2	23.8	15.7	14.1	13.5	5.4
	パート等	40.0	16.0	8.0	18.0	6.0	8.0	6.0	8.0	8.0
	自営業等	4.5	9.1	6.8	-	4.5	13.6	11.4	-	2.3

	対象者数 (n)	雇用形態(正規・非正規等)が希望通りではない	仕事内容がつまらない	教育訓練を受ける機会がない	性別による格差がある	責任ある仕事を任されない	その他	特に悩みや不満はない	無回答
全体	538	5.2	4.6	3.9	3.0	0.9	3.5	20.3	11.2
女性	20歳代	12.5	12.5	12.5	-	-	-	8.3	-
	30歳代	5.4	5.4	10.8	8.1	2.7	8.1	16.2	-
	40歳代	10.5	2.6	2.6	3.9	1.3	6.6	22.4	5.3
	50歳代	4.6	6.2	4.6	3.1	3.1	1.5	16.9	7.7
	60歳代	5.0	-	-	7.5	-	5.0	37.5	10.0
	70歳以上	11.1	-	-	-	-	-	33.3	22.2
男性	20歳代	4.0	12.0	12.0	4.0	4.0	8.0	12.0	16.0
	30歳代	-	3.6	3.6	-	-	-	-	10.7
	40歳代	2.9	7.1	5.7	1.4	-	5.7	17.1	8.6
	50歳代	3.3	5.0	1.7	-	-	3.3	18.3	13.3
	60歳代	4.0	2.7	-	1.3	-	-	30.7	17.3
	70歳以上	4.8	-	-	-	-	-	23.8	52.4
女性	正社員等	3.6	6.0	7.1	4.8	2.4	3.6	7.1	2.4
	パート等	11.4	3.6	4.3	4.3	1.4	5.0	27.1	3.6
	自営業等	-	3.6	-	3.6	-	3.6	35.7	28.6
男性	正社員等	1.1	4.9	3.2	1.1	0.5	4.3	15.7	11.4
	パート等	14.0	8.0	4.0	2.0	-	-	26.0	18.0
	自営業等	-	2.3	2.3	-	-	-	27.3	34.1

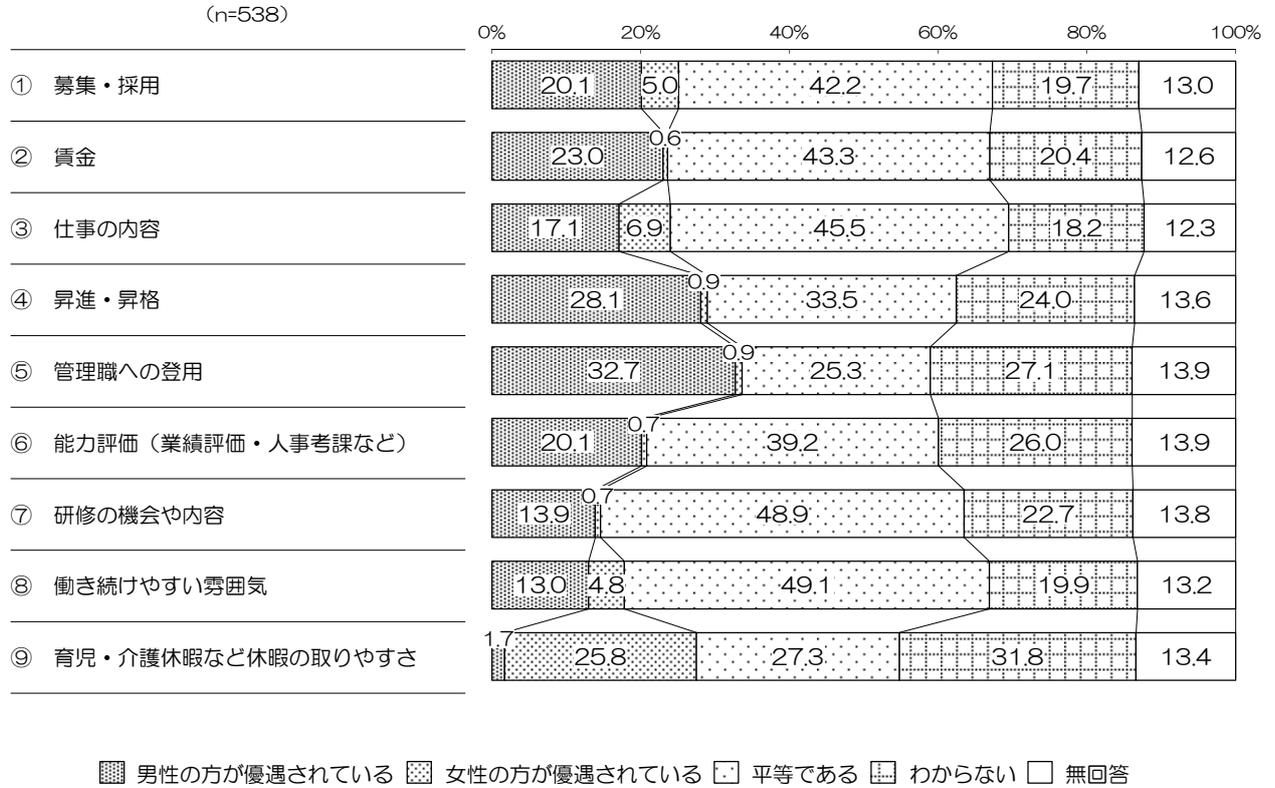
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。ただし、対象者数(n)が10未満の項目については網掛けを除外している。

年齢別にみると、女性の20歳代は「賃金・諸手当が少ない」が62.5%と特に高くなっている。男性の20・30歳代は「人間関係がむずかしい」「仕事量が多すぎる」「休暇・休日が少ない」などの項目で全体より10ポイント以上割合が高くなっている。就業状態別にみると、パート等の男女では「雇用形態(正規・非正規等)が希望通りではない」が1割台となっている。

(6) 職場において男女格差を感じること

問21. あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。(各項目に○は1つ)

図 職場において男女格差を感じること

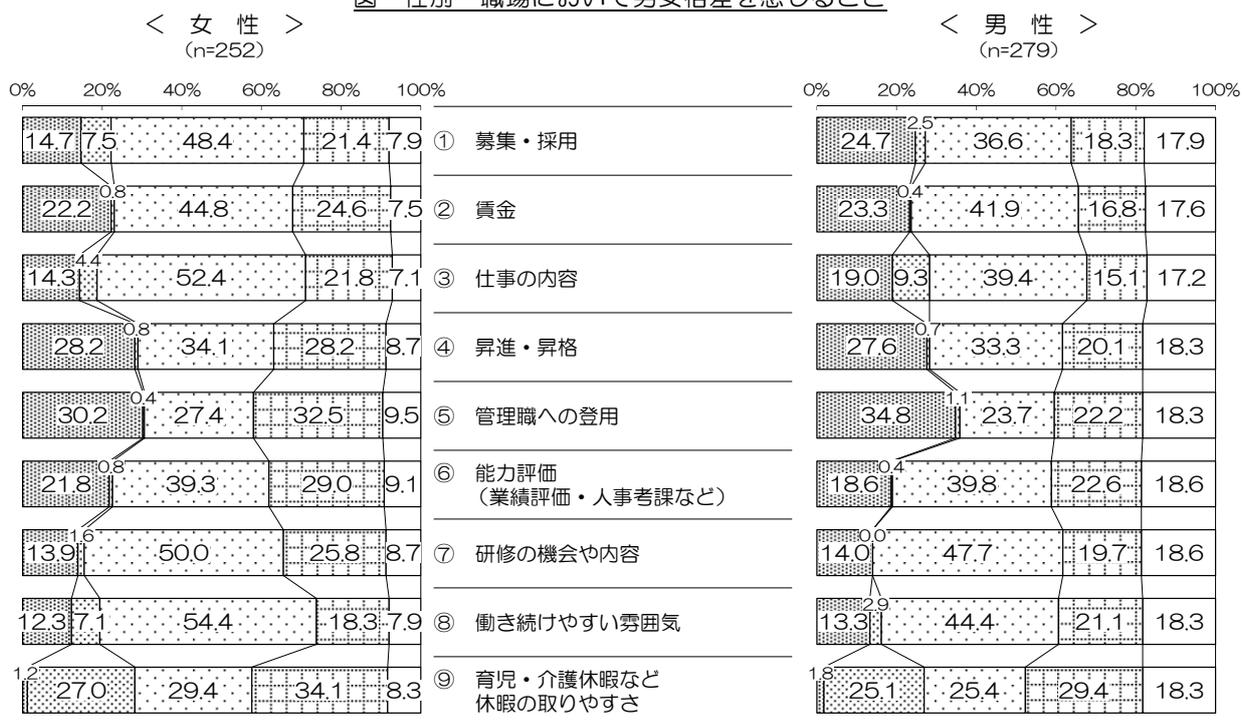


現在働いている人に、今の職場に性別による差があるかたずねたところ、多くの項目では「平等である」が「男性の方が優遇されている」「女性の方が優遇されている」を上回っている。中でも「⑦ 研修の機会や内容」「⑧ 働き続けやすい雰囲気」では「平等である」が約5割を占めている。

一方、「⑤ 管理職への登用」では「男性の方が優遇されている」(32.7%)が「平等である」(25.3%)よりも高くなっている。また、「④ 昇進・昇格」でも「男性の方が優遇されている」は28.1%と比較的高い。

「⑨ 育児・介護休暇など休暇の取りやすさ」は「平等である」が27.3%にとどまり、「女性の方が優遇されている」が25.8%、「わからない」が31.8%となっている。

図 性別 職場において男女格差を感じる事

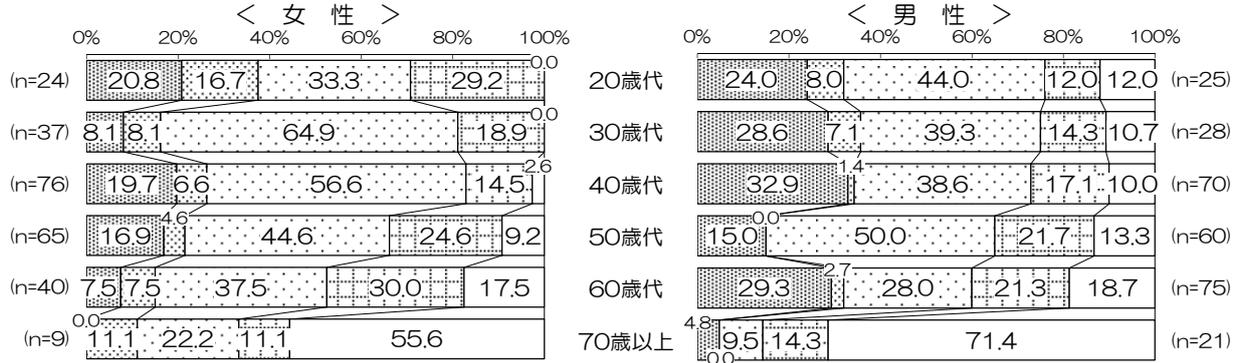


■ 男性の方が優遇されている ■ 女性の方が優遇されている □ 平等である ■ わからない □ 無回答

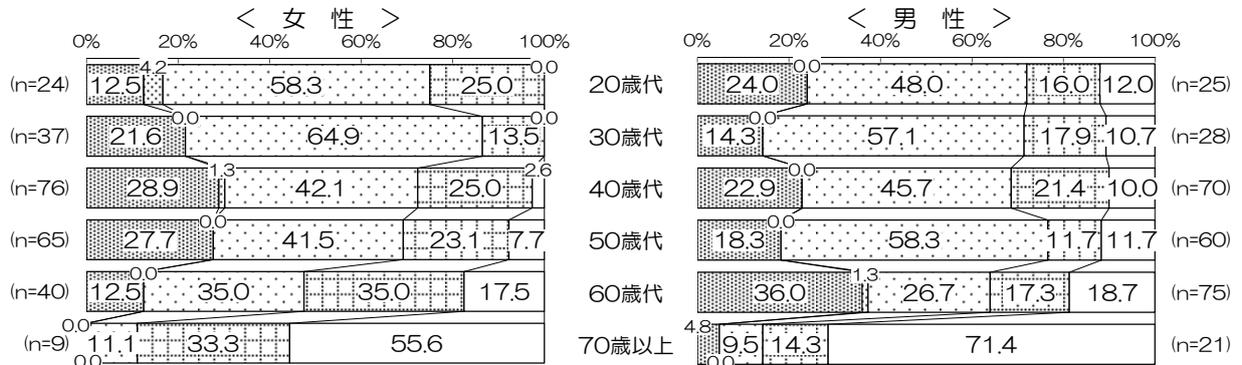
性別にみると、「⑥ 能力評価 (業績評価・人事考課など)」以外の8項目はいずれも、女性の方が男性よりも「平等である」の割合が高く、特に「① 募集・採用」「③ 仕事の内容」「⑧ 働き続けやすい雰囲気」では10ポイント以上「平等である」の割合が高くなっている。

図 性・年齢別 職場において男女格差を感じるごと

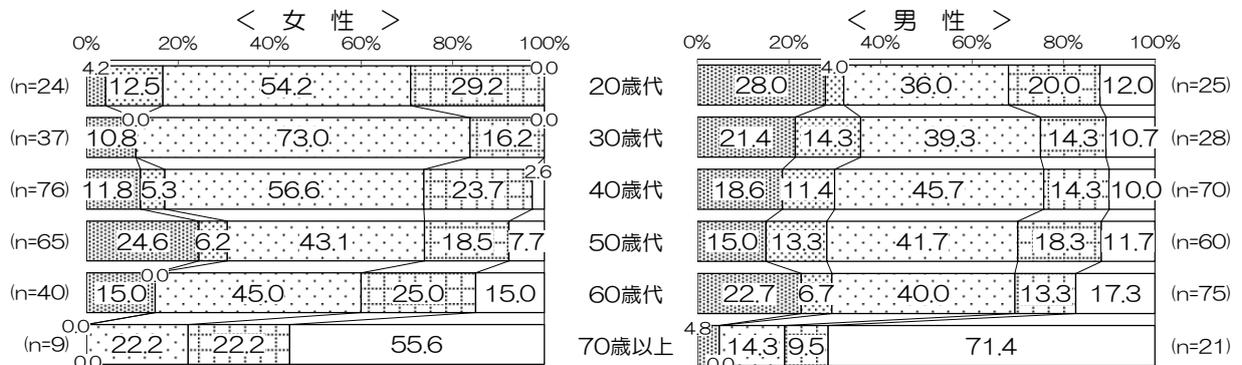
① 募集・採用



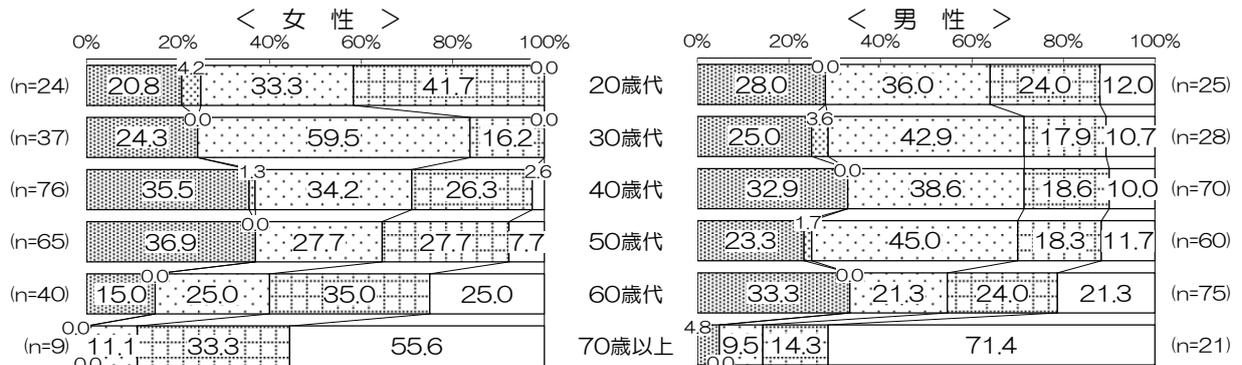
② 賃金



③ 仕事の内容

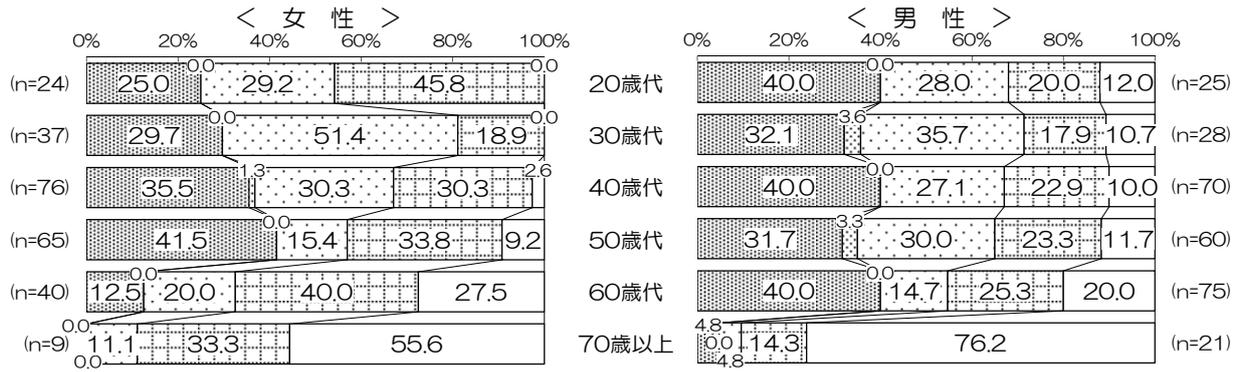


④ 昇進・昇格

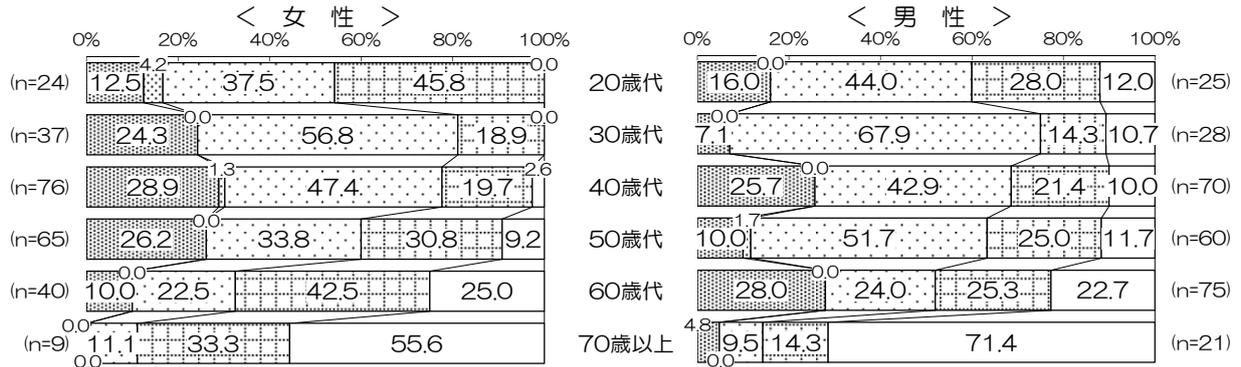


■ 男性の方が優遇されている ■ 女性の方が優遇されている □ 平等である □ わからない □ 無回答

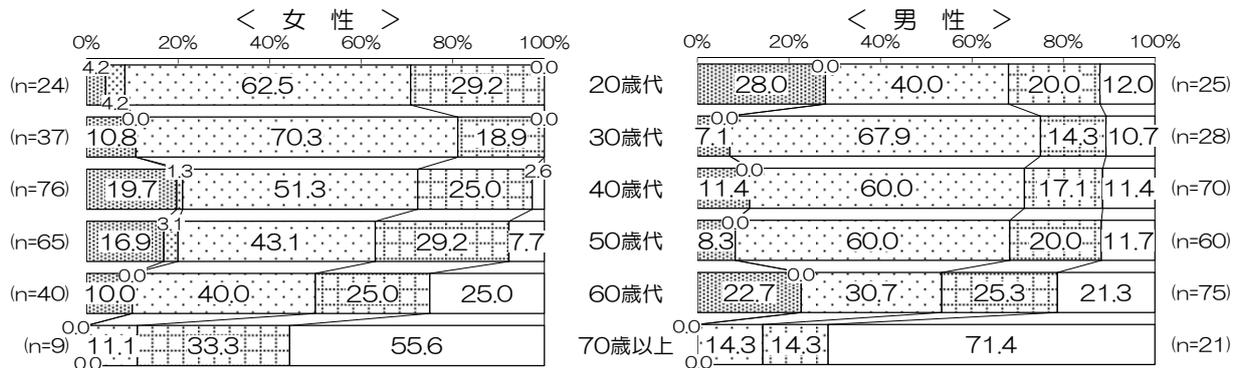
⑤ 管理職への登用



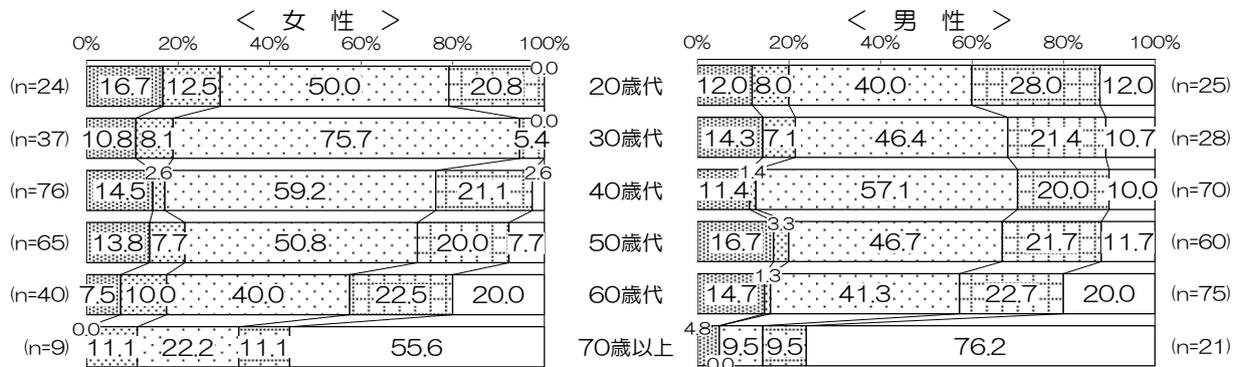
⑥ 能力評価（業績評価・人事考課など）



⑦ 研修の機会や内容

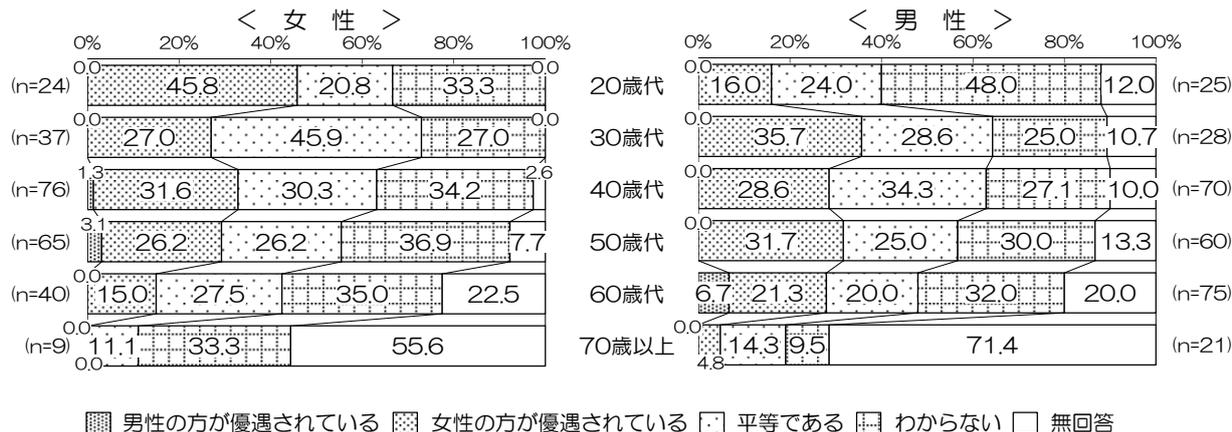


⑧ 働き続けやすい雰囲気



■ 男性の方が優遇されている ■ 女性の方が優遇されている □ 平等である □ わからない □ 無回答

⑨ 育児・介護休暇など休暇の取りやすさ



① 募集・採用

女性の30・40歳代と男性の50歳代で「平等である」が5割以上となっている。

② 賃金

女性の20・30歳代では「平等である」が約6割と高いが、40・50歳代では「平等である」は約4割にとどまる。

③ 仕事の内容

女性の20～40歳代では「平等である」が5割を超えており、特に30歳代で73.0%と高い。

④ 昇進・昇格

女性の20歳代では「わからない」、30歳代では「平等である」の割合が高くなっている。

⑤ 管理職への登用

女性の「平等である」の割合は、30歳代では51.4%と高いが、50歳代と60歳代ではそれぞれ15.4%、20.0%にとどまっている。

⑥ 能力評価（業績評価・人事考課など）

30歳以上の年齢層では男女ともに年齢が高くなるにつれて「平等である」の割合が少なくなる傾向がみられる。

⑦ 研修の機会や内容

「平等である」は女性の20・30歳代と、男性の30～50歳代で6割以上となっている。

⑧ 働き続けやすい雰囲気

いずれの年齢層でも『男性優遇』は2割未満となっている。

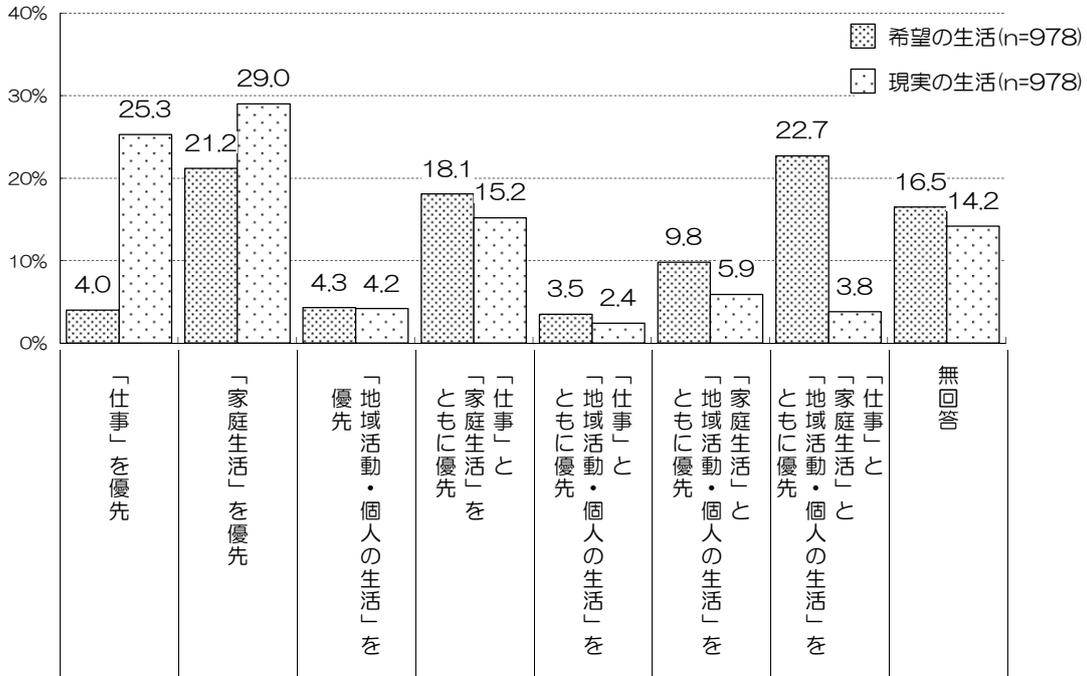
⑨ 育児・介護休暇など休暇の取りやすさ

20歳代は、女性では「女性の方が優遇されている」(45.8%)、男性では「わからない」(48.0%)の割合が高くなっている。

(7)生活の中で優先すること

問22. あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の何を優先させたいですか。希望と現実それぞれをお答えください。(それぞれ〇は1つ)

図 生活の中で優先すること

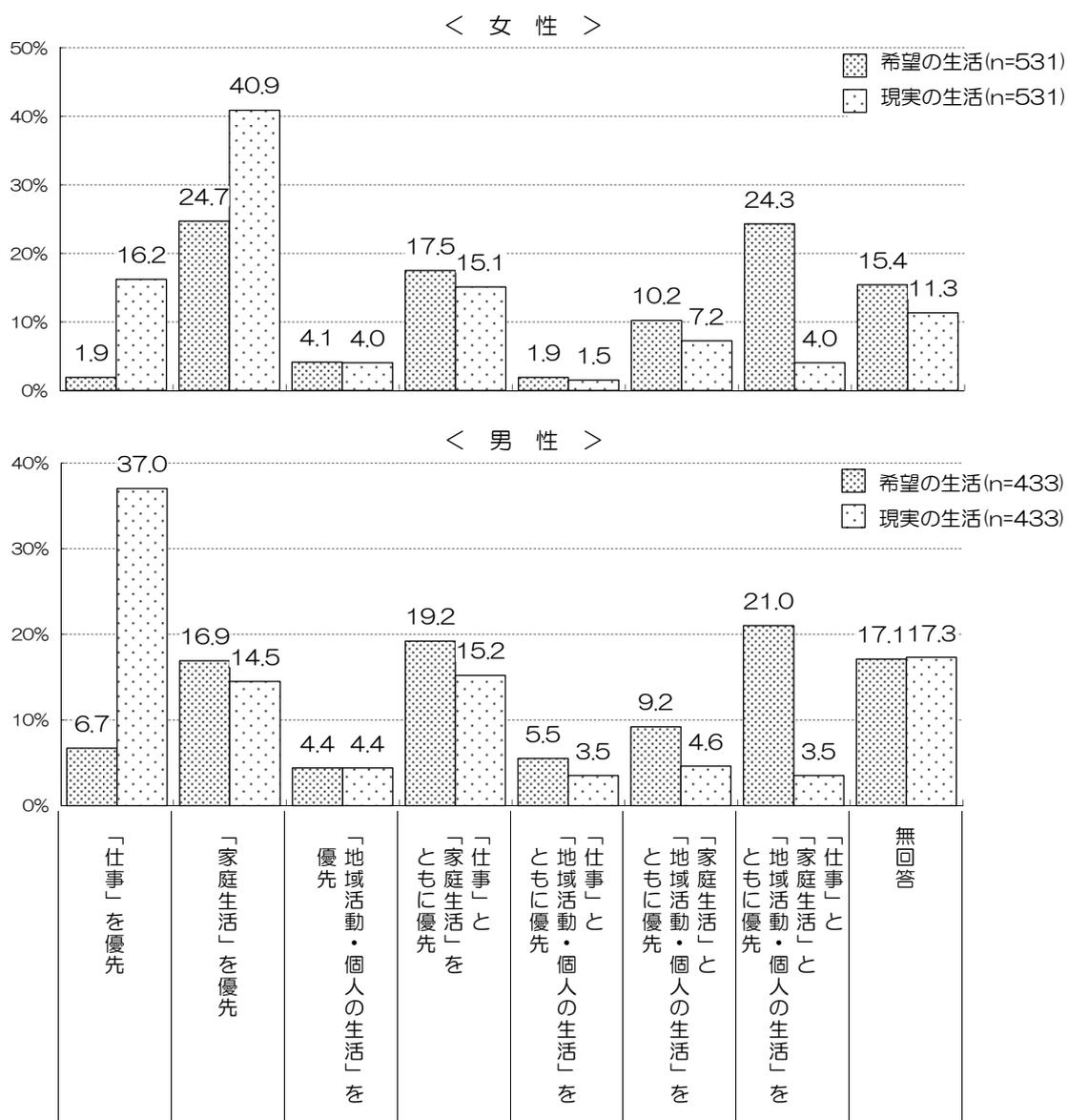


生活の中で優先することを希望と現実においてたずねた。

希望の生活は、『「仕事」と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先』(22.7%)、『「家庭生活」を優先』(21.2%)、『「仕事」と『家庭生活』をともに優先』(18.1%)がいずれも約2割となっている。

現実の生活は、『「家庭生活」を優先』が29.0%で最も高く、次いで『「仕事」を優先』が25.3%となっている。『「仕事」を優先』の現実に対し希望は4.0%と低く、希望と現実の違いが大きくなっている。また、希望する生活として最も割合の高い『「仕事」と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先』は現実の生活では3.8%にとどまる。

図 性別 生活の中で優先すること



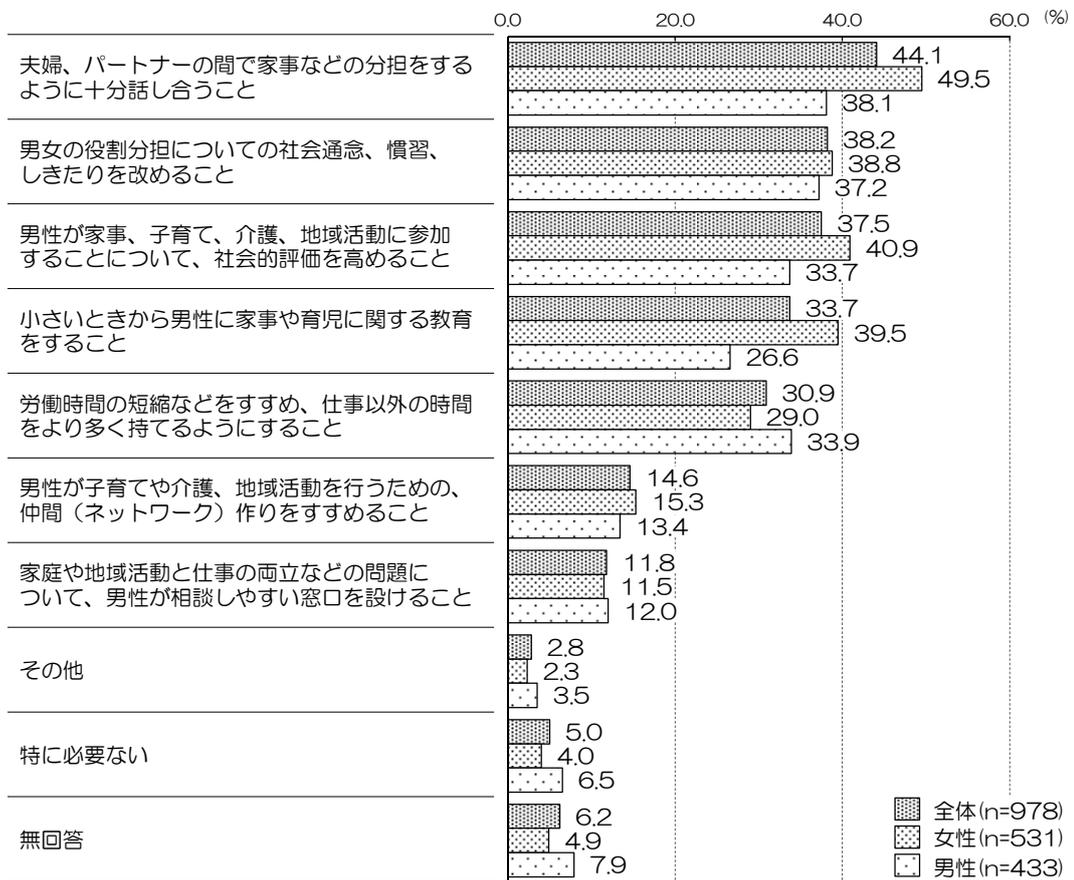
性別にみると女性の希望する生活では、『家庭生活』を優先（24.7%）と『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先（24.3%）の割合が高く、現実の生活としては『家庭生活』を優先が40.9%を占めている。

男性の希望する生活は、『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先が21.0%、『仕事』と『家庭生活』をともに優先したいが19.2%となっているが、現実の生活は、『仕事』を優先が37.0%となっており、希望する生活と現実の生活の不一致が大きくなっている。

(8) 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと

問23. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

図 性別 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと



男性が家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なことについてたずねたところ、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」が44.1%で最も高く、これに「男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること」(38.2%)、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」(37.5%)、「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」(33.7%)、「労働時間の短縮などをすすめ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」(30.9%)が3割台で続いている。

性別にみると、「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」と「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」の割合は女性の方が男性よりも10ポイント以上高くなっている。「労働時間の短縮などをすすめ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は、男性(33.9%)の方が女性(29.0%)よりも4.9ポイント高くなっている。

表 性・年齢別 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに参加するために必要なこと

	対象者数 (n)	夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと	男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること	小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること	労働時間の短縮などをすすめること	男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間(ネットワーク)作りをすすめること	家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	その他	特に必要ない	無回答
全体	978	44.1	38.2	37.5	33.7	30.9	14.6	11.8	2.8	5.0	6.2
女性	20 歳代	34	67.6	35.3	38.2	52.9	32.4	26.5	14.7	-	-
	30 歳代	67	50.7	47.8	59.7	50.7	40.3	7.5	3.0	4.5	1.5
	40 歳代	112	40.2	32.1	41.1	43.8	28.6	10.7	14.3	2.7	8.9
	50 歳代	87	52.9	46.0	39.1	48.3	29.9	12.6	11.5	4.6	2.3
	60 歳代	125	52.0	39.2	42.4	38.4	30.4	24.0	12.8	0.8	2.4
	70 歳以上	104	47.1	34.6	27.9	18.3	18.3	12.5	11.5	1.0	4.8
男性	20 歳代	33	39.4	45.5	27.3	27.3	45.5	21.2	15.2	6.1	-
	30 歳代	31	25.8	22.6	32.3	25.8	45.2	19.4	9.7	9.7	12.9
	40 歳代	73	37.0	42.5	43.8	35.6	46.6	15.1	9.6	4.1	5.5
	50 歳代	71	31.0	31.0	43.7	31.0	33.8	12.7	5.6	4.2	9.9
	60 歳代	125	49.6	45.6	31.2	24.0	34.4	12.8	16.8	0.8	4.0
	70 歳以上	100	33.0	29.0	25.0	20.0	17.0	9.0	12.0	3.0	8.0

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは 5 ポイント以上高い項目を示す。

年齢別にみると、女性の 20 歳代は「夫婦、パートナーの間で家事などの分担をするように十分話し合うこと」(67.6%)、30 歳代は、「男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること」(59.7%)の割合が、全体よりも 20 ポイント以上高くなっている。また、女性の 20~50 歳代では、「小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること」が 4~5 割前後と高くなっている。

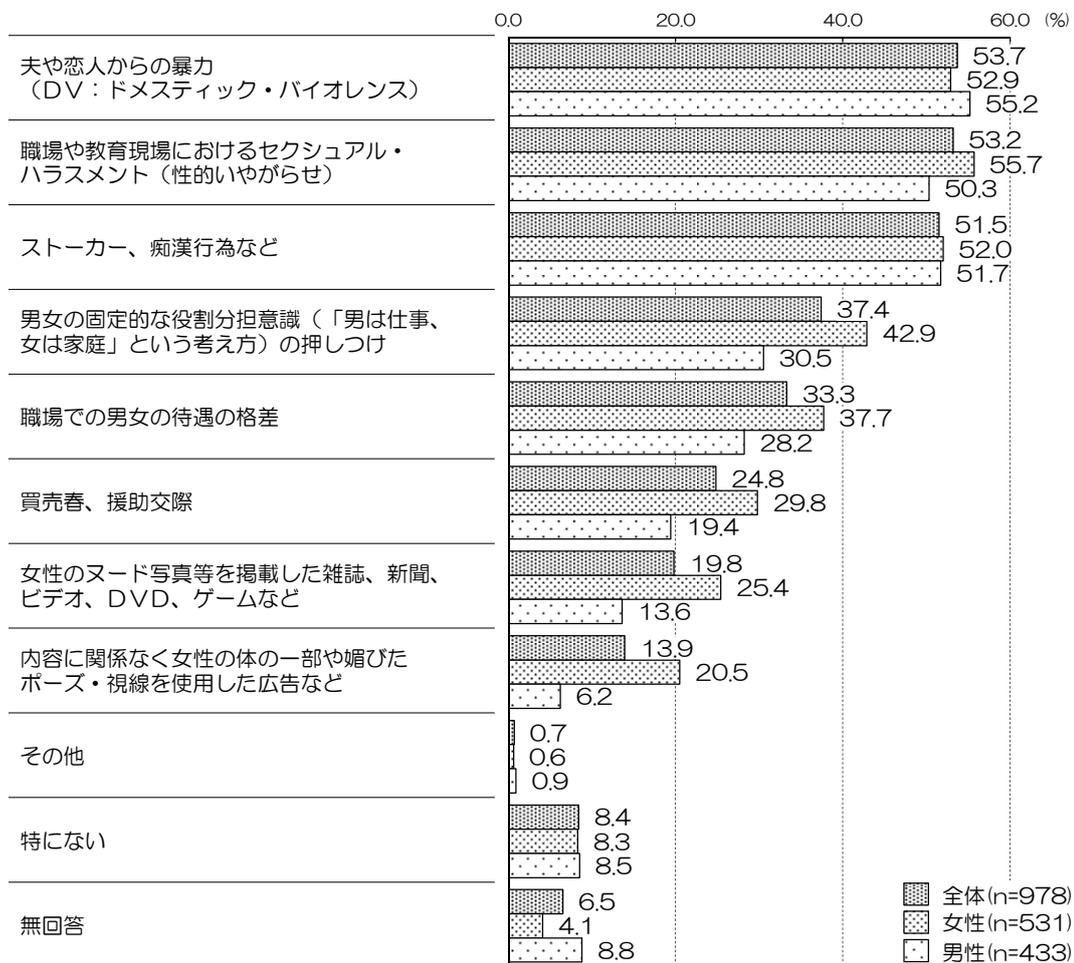
男性では、20~40 歳代では「労働時間の短縮などをすすめる、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」の割合が最も高くなっている。

4. 女性の人権と男女間の暴力について

(1) 女性の人権が侵害されていると思うこと

問24. あなたが、女性の人権が侵害されていると思うことはどれですか。(〇はいくつでも)

図 性別 女性の人権が侵害されていると思うこと



女性の人権が侵害されていると思うことについてたずねたところ、「夫や恋人からの暴力(DV:ドメスティック・バイオレンス)」(53.7%)、「職場や教育現場におけるセクシュアル・ハラスメント(性的いやがらせ)」(53.2%)、「ストーカー、痴漢行為など」(51.5%)の3項目が5割を超えて高くなっている。

性別にみると、上位3項目は性別による意識の違いは小さくなっているが、「男女の固定的な役割分担意識(『男は仕事、女は家庭』という考え方)の押しつけ」(12.4ポイント差)、「職場での男女の待遇の格差」(9.5ポイント差)、「買売春、援助交際」(10.4ポイント差)、「女性のヌード写真等を掲載した雑誌、新聞、ビデオ、DVD、ゲームなど」(11.8ポイント差)、「内容に関係なく女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を使用した広告など」(14.3ポイント差)はいずれも女性の方が男性より約10ポイント割合が高くなっている。

表 性・年齢別 女性の人権が侵害されていると思うこと

	対象者数 (n)	夫や恋人からの暴力 (DV・ドメスティック・バイオレンス)	職場や教育現場におけるセクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)	ストーカー、痴漢行為など	男女の固定的な役割分担意識 (「男は仕事、女は家庭」という考え方) の押しつけ	職場での男女の待遇の格差	買売春、援助交際	女性のヌード写真等を掲載した雑誌、新聞、ビデオ、DVD、ゲームなど	内容に関係なく女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を使用した広告など	その他	特にない	無回答	
全体	978	53.7	53.2	51.5	37.4	33.3	24.8	19.8	13.9	0.7	8.4	6.5	
女性	20 歳代	34	52.9	73.5	76.5	50.0	52.9	32.4	14.7	5.9	-	2.9	-
	30 歳代	67	53.7	73.1	56.7	59.7	41.8	32.8	28.4	20.9	1.5	4.5	1.5
	40 歳代	112	56.3	58.9	55.4	43.8	40.2	25.9	19.6	16.1	0.9	10.7	-
	50 歳代	87	55.2	52.9	55.2	50.6	37.9	28.7	25.3	26.4	1.1	9.2	1.1
	60 歳代	125	56.8	56.0	53.6	38.4	37.6	31.2	28.8	23.2	-	7.2	4.0
	70 歳以上	104	42.3	37.5	32.7	27.9	27.9	30.8	29.8	22.1	-	10.6	14.4
	男性	20 歳代	33	63.6	51.5	54.5	36.4	39.4	27.3	9.1	3.0	-	3.0
30 歳代	31	32.3	41.9	41.9	38.7	32.3	3.2	3.2	-	3.2	12.9	3.2	
40 歳代	73	64.4	60.3	61.6	32.9	21.9	16.4	8.2	5.5	-	4.1	4.1	
50 歳代	71	59.2	52.1	60.6	29.6	18.3	18.3	15.5	2.8	-	9.9	4.2	
60 歳代	125	61.6	55.2	54.4	33.6	36.0	24.8	20.0	10.4	0.8	6.4	7.2	
70 歳以上	100	42.0	38.0	37.0	21.0	25.0	18.0	13.0	7.0	2.0	14.0	20.0	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは 5 ポイント以上高い項目を示す。

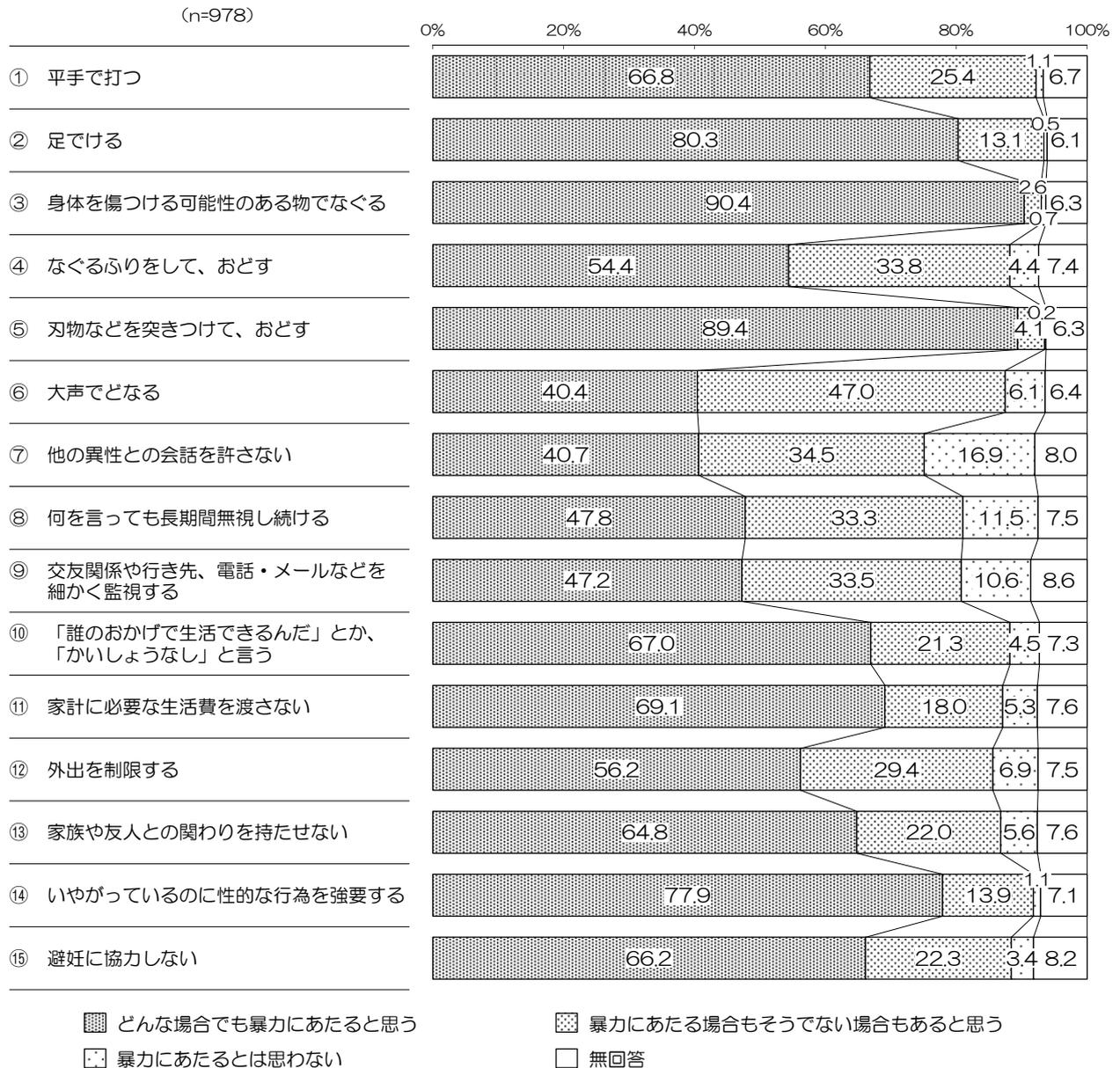
年齢別にみると、女性の 20 歳代は「ストーカー、痴漢行為など」が 76.5% で最も高く、次いで「職場や教育現場におけるセクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)」が 73.5% となっており、ともに全体より 20 ポイント以上高くなっている。女性の 30 歳代は「職場や教育現場におけるセクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)」が 73.1% で最も高く、次いで「男女の固定的な役割分担意識 (「男は仕事、女は家庭」という考え方) の押しつけ」が 59.7% となっている。

男性では、20 歳代は「職場での男女の待遇の格差」(39.4%) が 30 歳以上の年齢層と比べて高くなっている。30 歳代は、「夫や恋人からの暴力 (DV:ドメスティック・バイオレンス)」が 32.3% と他の年齢層と比べて低くなっている。

(2) 暴力だと思ふ事柄

問25. あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思ひますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。(各項目に○は1つ)

図 暴力だと思ふ事柄

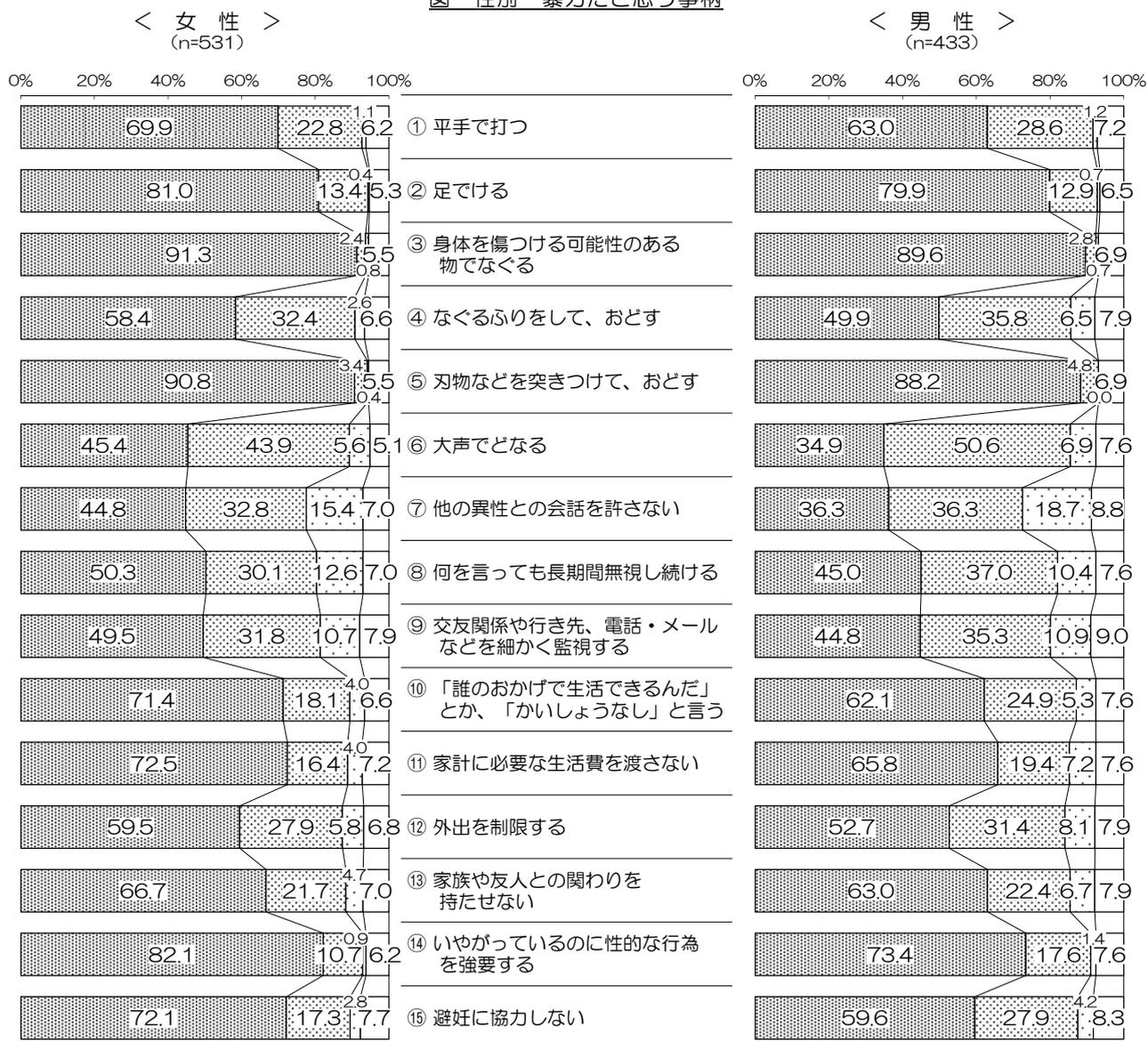


暴力だと思ふ事柄についてたずねたところ、「どんな場合でも暴力にあたると思ふ」が高い項目は、順に「③ 身体を傷つける可能性のある物でなぐる」(90.4%)、「⑤ 刃物などを突きつけて、おどす」(89.4%)、「② 足でける」(80.3%)、「⑭ いやがっているのに性的な行為を強要する」(77.9%) などとなっている。

「どんな場合でも暴力にあたると思ふ」が低い項目は、順に「⑥ 大声でどなる」(40.4%)、「⑦ 他の異性との会話を許さない」(40.7%)、「⑨ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」(47.2%) などとなっている。

「⑦ 他の異性との会話を許さない」「⑧ 何を言っても長期間無視し続ける」「⑨ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」は「暴力にあたるとは思わない」が1割を超えている。

図 性別 暴力だと思ふ事柄



どんな場合でも暴力にあたると思う 暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う
 暴力にあたるとは思わない 無回答

性別にみると、いずれの項目でも女性の方が男性よりも「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合が高くなっており、特に「⑮ 避妊に協力しない」(12.5ポイント差)、「⑥ 大声でどなる」(10.5ポイント差)、「⑩ 『誰のおかげで生活できるんだ』とか、『かいしょうなし』と言う」(9.3ポイント差)、「⑭ いやがっているのに性的な行為を強要する」(8.7ポイント差)、「④ なぐるふりをして、おどす」(8.5ポイント差)、「⑦ 他の異性との会話を許さない」(8.5ポイント差)などで性別による割合の違いが大きくなっている。

(3) 配偶者や恋人からの暴力(DV)を受けた経験

問26. あなたはこれまでに、配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人から、次のようなことをされたことがありますか。（各項目に○は1つ）

図 性別 配偶者からの暴力(DV)を受けた経験

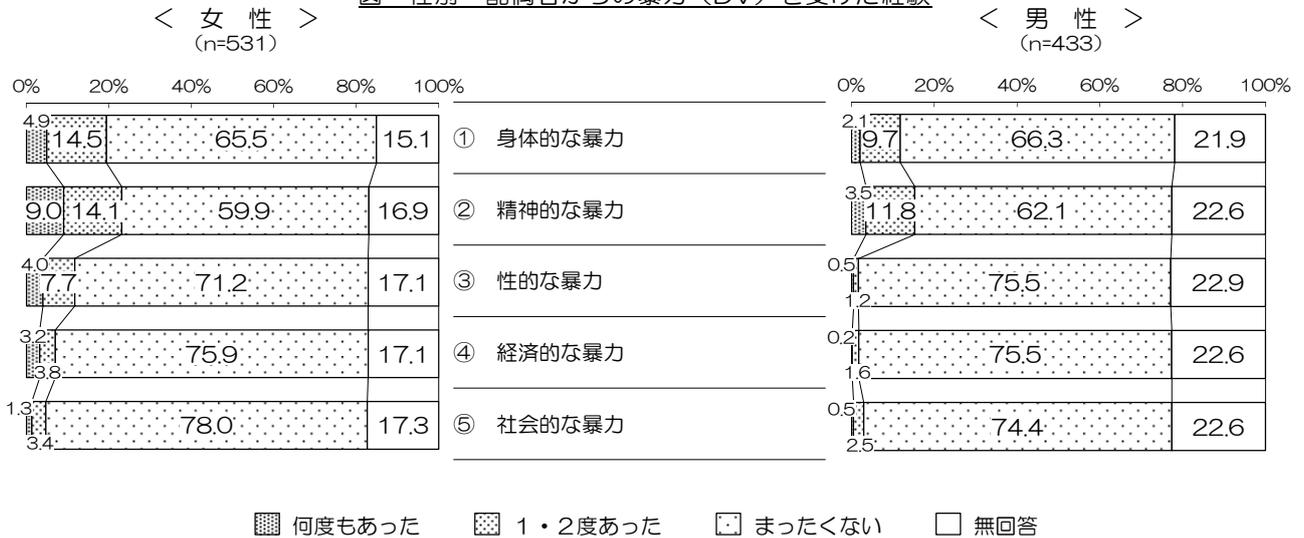
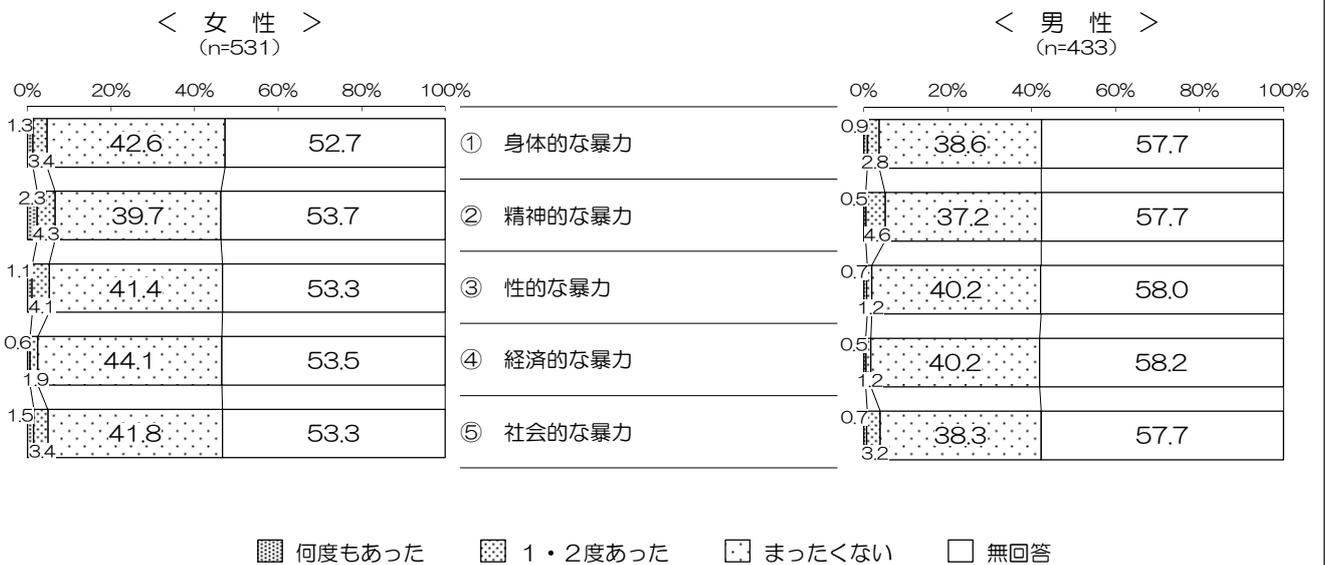


図 性別 恋人からの暴力(DV)を受けた経験



注) ① 身体的な暴力……なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど
 ② 精神的な暴力……何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど
 ③ 性的な暴力……望まないのに性的な行為を強要する、無理やりポルノ画像などを見せるなど
 ④ 経済的な暴力……自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要するなど
 ⑤ 社会的な暴力……携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達や身内との付き合いを制限するなど

配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人から受けたことがある行為についてたずねた。

配偶者から受けたことがある行為は、何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなどの「② 精神的な暴力」が『あった』（「何度もあった」と「1・2度あった」の合計）の割合は、女性 23.1%・男性 15.3%、なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなどの「① 身体的な暴力」が『あった』の割合は女性 19.4%・男性 11.8%となっており、いずれも女性の方が男性よりも割合が高い。

また、望まないのに性的な行為を強要する、無理やりポルノ画像などを見せるなどの「③ 性的な暴力」は女性で『あった』が 11.7%となっている。

恋人から受けたことがある行為は、自由にお金を使わせない、必要な生活費を渡さない、借金を強要するなどの「④ 経済的暴力」以外の項目に女性の約 5%が『あった』と回答している。「② 精神的な暴力」については、男性でも 5.1%が『あった』と回答している。

表 性・年齢別 配偶者や恋人からの暴力（DV）を受けた経験
（「何度もあった」と「1・2度あった」の合計）

	対象者数（n）	配偶者から					恋人から					
		① 身体的な暴力	② 精神的な暴力	③ 性的な暴力	④ 経済的暴力	⑤ 社会的暴力	① 身体的な暴力	② 精神的な暴力	③ 性的な暴力	④ 経済的暴力	⑤ 社会的暴力	
全体	978	16.1	19.4	7.3	4.7	4.0	4.3	5.8	3.7	2.0	4.4	
女性	20歳代	34	5.8	11.7	5.9	2.9	8.8	8.8	14.7	8.8	2.9	17.7
	30歳代	67	7.5	16.5	7.5	-	4.5	9.0	15.0	10.5	6.0	13.5
	40歳代	112	11.6	23.2	7.2	6.3	3.6	7.2	9.8	8.9	3.6	5.4
	50歳代	87	29.8	28.7	13.8	14.9	9.2	4.5	5.7	5.7	3.4	4.6
	60歳代	125	24.8	24.8	18.4	7.2	3.2	1.6	2.4	1.6	0.8	0.8
	70歳以上	104	25.0	23.1	10.5	4.8	2.9	1.0	-	1.0	-	-
男性	20歳代	33	9.1	6.0	-	-	-	12.1	15.2	3.0	3.0	12.1
	30歳代	31	9.7	22.6	-	-	9.7	19.3	19.3	3.2	-	16.1
	40歳代	73	15.1	11.0	1.4	-	2.7	4.1	6.8	2.8	1.4	5.5
	50歳代	71	9.8	14.0	2.8	4.2	1.4	1.4	1.4	-	1.4	-
	60歳代	125	12.8	18.4	1.6	2.4	4.8	0.8	3.2	1.6	2.4	2.4
	70歳以上	100	11.0	16.0	2.0	2.0	1.0	1.0	1.0	2.0	1.0	1.0

注）濃い網掛けに白抜き文字は全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは 5 ポイント以上高い項目を示す。

配偶者からの暴力などの行為が『あった』の割合を年齢別にみると、女性の 50 歳以上の年齢層では「① 身体的な暴力」が 2 割以上、「③ 性的な暴力」が 1 割以上となっている。

恋人からの暴力などの行為が『あった』割合は、女性の 20・30 歳代では「① 身体的な暴力」「② 精神的な暴力」「③ 性的な暴力」「⑤ 社会的な暴力」が 1～2 割程度となっている。

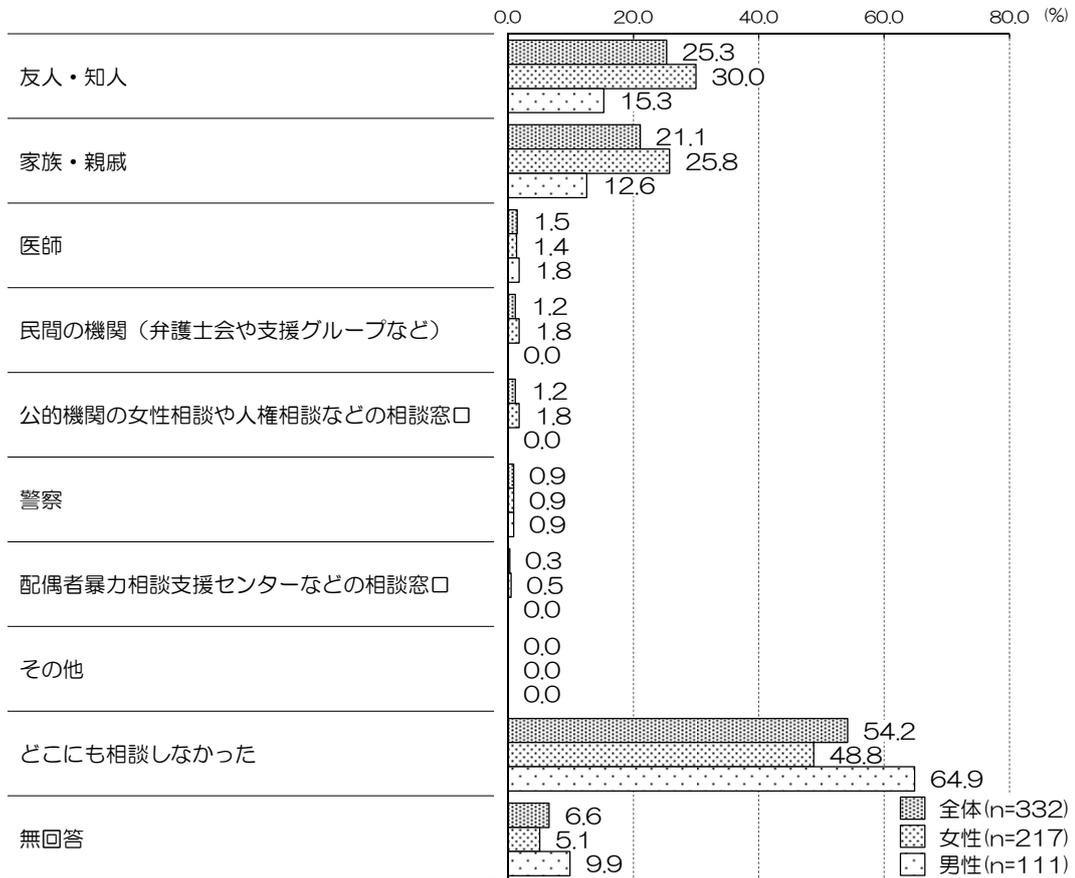
男性でも 20・30 歳代は「① 身体的な暴力」「② 精神的な暴力」「⑤ 社会的な暴力」が『あった』割合が、やや高くなっている。

(4)ドメスティック・バイオレンス(DV)の相談先

問26で、「何度もあった」または「1・2度あった」と答えた方におたずねします

問26-1. あなたは、これまでに問26であげたような行為について、誰かにうち明けたり、相談しましたか。(〇はいくつでも)

図 性別 ドメスティック・バイオレンス (DV) の相談先



配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人から暴力などの行為を受けた経験がある人に相談の有無をたずねたところ、「どこにも相談しなかった」が54.2%を占め、次いで「友人・知人」が25.3%、「家族・親戚」が21.1%となっており、公的機関などその他の項目はいずれも2%未満となっている。

性別にみると、男性は「どこにも相談しなかった」が64.9%となっており、女性の48.8%より16.1ポイント高くなっている。

表 性・年齢別 ドメスティック・バイオレンス（DV）の相談先

	対象者数（n）	友人・知人	家族・親戚	医師	民間の機関（弁護士会や支援グループなど）	公的機関の女性相談や人権相談などの相談窓口	警察	配偶者暴力相談支援センターなどの相談窓口	その他	どこにも相談しなかった	無回答
全体	332	25.3	21.1	1.5	1.2	1.2	0.9	0.3	-	54.2	6.6
女性	20歳代	14	42.9	14.3	-	-	-	-	-	50.0	-
	30歳代	22	54.5	18.2	-	-	4.5	-	-	31.8	-
	40歳代	48	31.3	33.3	2.1	2.1	2.1	2.1	-	50.0	4.2
	50歳代	40	40.0	32.5	2.5	5.0	2.5	-	-	37.5	2.5
	60歳代	50	18.0	22.0	2.0	2.0	2.0	2.0	-	58.0	6.0
	70歳以上	41	14.6	19.5	-	-	-	-	-	58.5	12.2
男性	20歳代	10	40.0	20.0	-	-	-	-	-	60.0	-
	30歳代	14	21.4	-	-	-	-	-	-	64.3	14.3
	40歳代	17	17.6	11.8	-	-	-	-	-	64.7	5.9
	50歳代	14	7.1	14.3	-	-	-	-	-	57.1	21.4
	60歳代	32	12.5	9.4	6.3	-	-	-	-	75.0	3.1
	70歳以上	24	8.3	20.8	-	-	-	4.2	-	58.3	16.7

注）濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

年齢別にみると、女性の20～50歳代と男性の20歳代は「友人・知人」が3～5割程度と高くなっている。女性の40・50歳代は加えて「家族・親戚」の割合が3割を超えている。

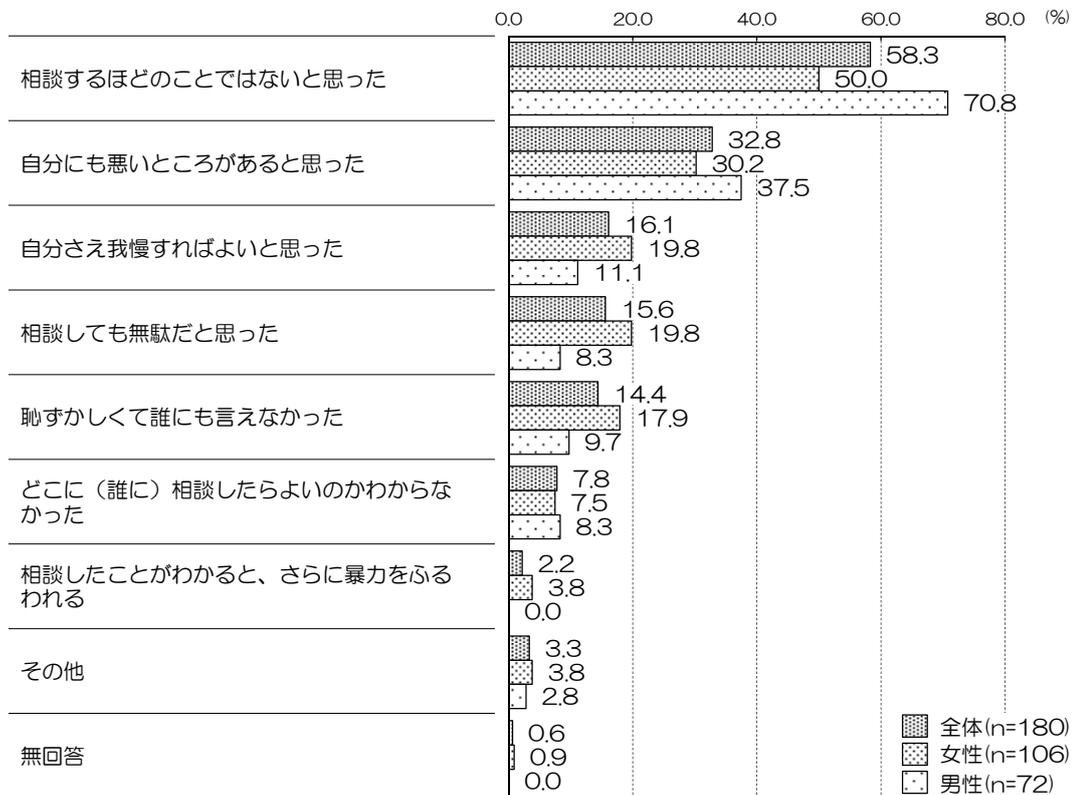
女性の60歳以上の年齢層と、男性のすべての年齢層は「どこにも相談しなかった」の割合が全体よりも高く、特に男性の60歳代は「どこにも相談しなかった」が75.0%を占めている。

(5)ドメスティック・バイオレンス(DV)を相談しなかった理由

問26-1で「9. どこにも相談しなかった」と答えた方におたずねします

問26-2. どこにも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

図 性別 ドメスティック・バイオレンス (DV) を相談しなかった理由



暴力などの行為を相談しなかった理由は、「相談するほどのことではないと思った」が 58.3%で最も高く、次いで「自分にも悪いところがあると思った」が 32.8%、これに「自分さえ我慢すればよいと思った」(16.1%)、「相談しても無駄だと思った」(15.6%)、「恥ずかしくて誰にも言えなかった」(14.4%) が 1 割台で続いている。

性別にみると、「相談するほどのことではないと思った」と「自分にも悪いところがあると思った」は女性よりも男性で割合が高くなっており、それぞれ 20.8 ポイント差、7.3 ポイント差となっている。

対して、「自分さえ我慢すればよいと思った」「相談しても無駄だと思った」「恥ずかしくて誰にも言えなかった」はいずれも女性の方が約 10 ポイント、割合が高くなっている。

表 性・年齢別 ドメスティック・バイオレンス（DV）を相談しなかった理由

	対象者数（n）	相談するほど ではないと思っ た	自分にも悪い ところがある と思っ	自分さえ我慢 すれば よいと思っ	相談しても無 駄だと思っ	恥ずかしくて 誰にも 言えなかつ	どこに（誰に） 相談したら よいのかわ からなかつ	相談したことが わかると、 さらに暴力を ふるわれる	その他	無回答
全体	180	58.3	32.8	16.1	15.6	14.4	7.8	2.2	3.3	0.6
女性	20歳代	7	42.9	42.9	-	57.1	14.3	14.3	-	-
	30歳代	7	42.9	57.1	-	-	14.3	14.3	14.3	-
	40歳代	24	45.8	33.3	25.0	16.7	20.8	12.5	-	4.2
	50歳代	15	40.0	20.0	26.7	26.7	6.7	6.7	-	6.7
	60歳代	29	65.5	20.7	13.8	13.8	24.1	3.4	6.9	-
	70歳以上	24	45.8	33.3	29.2	20.8	16.7	8.3	4.2	4.2
男性	20歳代	6	100.0	16.7	16.7	-	-	-	-	16.7
	30歳代	9	55.6	55.6	22.2	-	11.1	11.1	-	11.1
	40歳代	11	54.5	36.4	-	18.2	27.3	18.2	-	-
	50歳代	8	62.5	25.0	37.5	25.0	-	12.5	-	-
	60歳代	24	83.3	37.5	8.3	4.2	4.2	4.2	-	-
	70歳以上	14	64.3	42.9	-	7.1	14.3	7.1	-	-

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。
ただし、対象者数(n)が10未満の項目については網掛けを除外している。

年齢別にみると、女性の20歳代では「相談しても無駄だと思った」、30歳代では「自分にも悪いところがあると思っ」が、件数としては少ないものの、割合が5割を超えている。

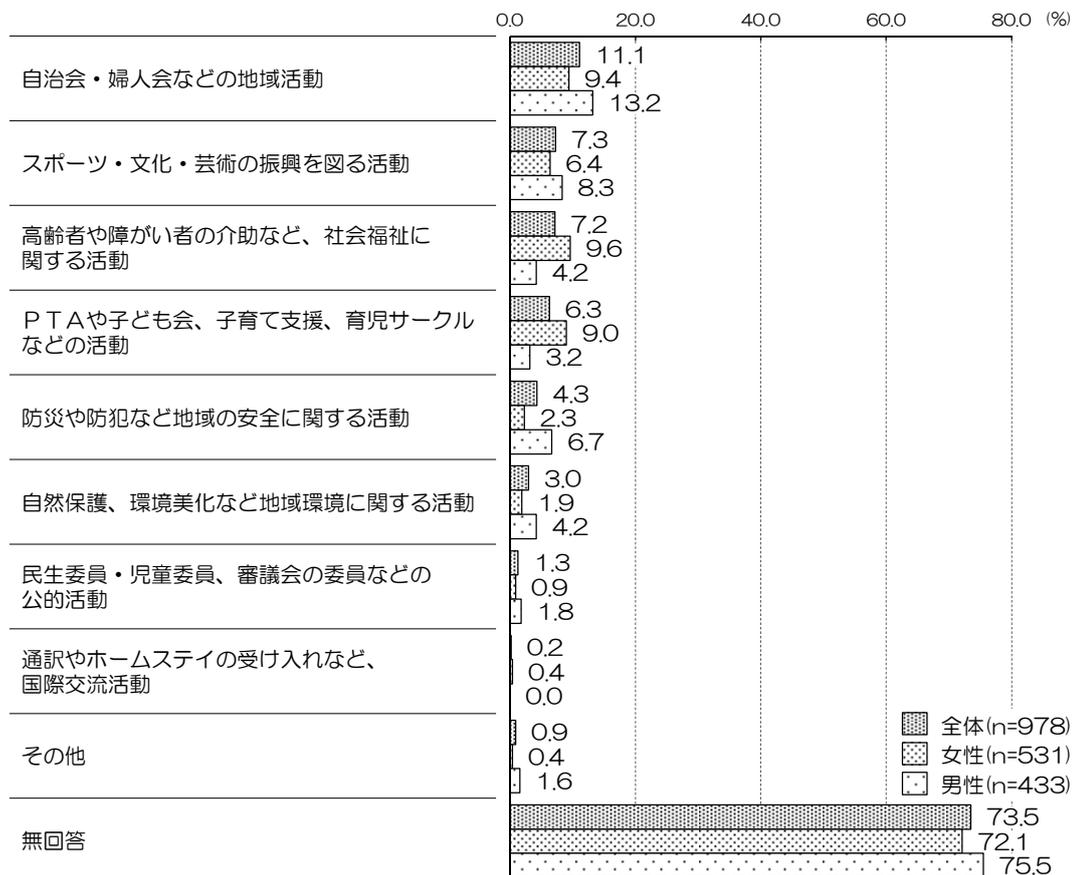
男性はいずれの年齢層でも、「相談するほどのことではないと思っ」が5割を超えており、特に20歳代と60歳代で割合が高くなっている。

5. 社会的活動について

(1) 参加している・参加したい社会活動

問27. あなたは社会的な活動をしていますか。また、今後してみたいと思いますか。(それぞれ〇はいくつでも)

図 性別 参加している社会活動

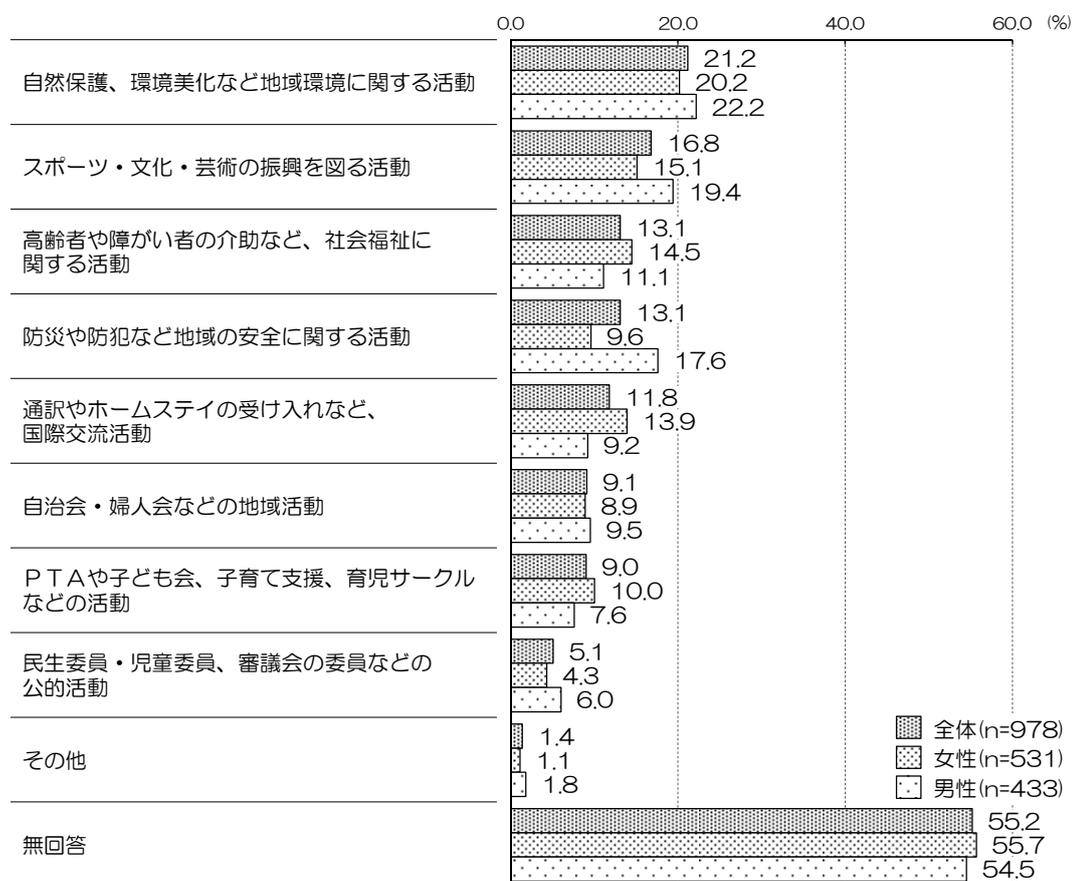


参加している社会活動は、「自治会・婦人会などの地域活動」が 11.1% で最も高くなっている。そのほかの項目はいずれも 1 割未満となっている。

性別にみると、女性は男性よりも「高齢者や障がい者の介助など、社会福祉に関する活動」「P T A や子ども会、子育て支援、育児サークルなどの活動」の割合が高く 1 割近くとなっている。

男性は女性よりも「自治会・婦人会などの地域活動」や「防災や防犯など地域の安全に関する活動」などの割合が高くなっている。

図 性別 参加したい社会活動



今後参加したい社会活動は、「自然保護、環境美化など地域環境に関する活動」が 21.2%で最も高く、次いで「スポーツ・文化・芸術の振興を図る活動」が 16.8%、「高齢者や障がい者の介助など、社会福祉に関する活動」と「防災や防犯など地域の安全に関する活動」がともに 13.1%となっている。

性別にみると、「防災や防犯など地域の安全に関する活動」は女性 9.6%・男性 17.6%と、男性の方が 8.0 ポイント高くなっている。

表 性・年齢別 参加している社会活動

	対象者数 (n)	自治会・婦人会などの地域活動	スポーツ・文化・芸術の振興を図る活動	高齢者や障がい者の介助など、社会福祉に関する活動	高齢者や障がい者の介助など、社会福祉に関する活動	子育て支援、育児サークルなどの活動	P T A や子ども会、子育て支援、育児サークルなどの活動	防災や防犯など地域の安全に関する活動	自然保護、環境美化など地域環境に関する活動	公的活動	民生委員・児童委員、審議会の委員などの活動	通訳やホームステイの受け入れなど、国際交流活動	その他	無回答
全体	978	11.1	7.3	7.2	6.3	4.3	3.0	1.3	0.2	0.9	73.5			
女性	20歳代	34	-	5.9	5.9	2.9	-	-	-	2.9	-	-	82.4	
	30歳代	67	6.0	-	10.4	19.4	1.5	-	-	-	-	-	70.1	
	40歳代	112	6.3	4.5	10.7	18.8	1.8	0.9	0.9	-	-	-	68.8	
	50歳代	87	11.5	9.2	9.2	4.6	1.1	1.1	2.3	-	1.1	-	67.8	
	60歳代	125	9.6	8.0	11.2	5.6	2.4	1.6	0.8	-	-	-	76.8	
	70歳以上	104	16.3	8.7	7.7	1.9	4.8	5.8	1.0	1.0	1.0	-	71.2	
男性	20歳代	33	3.0	3.0	-	6.1	-	-	-	-	-	3.0	84.8	
	30歳代	31	19.4	3.2	3.2	3.2	6.5	-	-	-	-	-	74.2	
	40歳代	73	11.0	9.6	2.7	2.7	4.1	1.4	-	-	-	-	75.3	
	50歳代	71	9.9	5.6	4.2	2.8	5.6	4.2	1.4	-	-	-	81.7	
	60歳代	125	12.8	14.4	5.6	3.2	8.8	5.6	4.0	-	2.4	-	74.4	
	70歳以上	100	19.0	5.0	5.0	3.0	9.0	7.0	2.0	-	3.0	-	70.0	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは 5 ポイント以上高い項目を示す。

参加している社会活動を年齢別にみると、女性の 30・40 歳代では「P T A や子ども会、子育て支援、育児サークルなどの活動」が 2 割弱となっている。

表 性・年齢別 参加したい社会活動

	対象者数 (n)	自然保護、環境美化など地域環境に関する活動	スポーツ・文化・芸術の振興を図る活動	高齢者や障がい者の介助など、社会福祉に関する活動	高齢者や障がい者の介助など、社会福祉に関する活動	安全に関する活動	防災や防犯など地域の安全に関する活動	通訳やホームステイの受け入れなど、国際交流活動	自治会・婦人会などの地域活動	P T A や子ども会、子育て支援、育児サークルなどの活動	民生委員・児童委員、審議会の委員などの公的活動	その他	無回答
全体	978	21.2	16.8	13.1	13.1	11.8	9.1	9.0	5.1	1.4	55.2		
女性	20歳代	34	32.4	23.5	14.7	20.6	35.3	14.7	38.2	8.8	5.9	29.4	
	30歳代	67	20.9	20.9	13.4	14.9	26.9	7.5	22.4	6.0	-	43.3	
	40歳代	112	20.5	16.1	19.6	11.6	20.5	10.7	10.7	6.3	1.8	53.6	
	50歳代	87	26.4	23.0	21.8	12.6	14.9	9.2	5.7	4.6	2.3	46.0	
	60歳代	125	21.6	11.2	12.8	4.0	4.0	8.8	4.8	3.2	-	56.0	
	70歳以上	104	8.7	5.8	4.8	4.8	2.9	5.8	1.9	1.0	-	82.7	
男性	20歳代	33	36.4	30.3	12.1	24.2	12.1	12.1	15.2	6.1	-	42.4	
	30歳代	31	22.6	35.5	9.7	16.1	19.4	16.1	29.0	3.2	3.2	35.5	
	40歳代	73	19.2	20.5	8.2	17.8	9.6	12.3	5.5	2.7	1.4	52.1	
	50歳代	71	25.4	23.9	18.3	23.9	21.1	11.3	5.6	12.7	4.2	45.1	
	60歳代	125	27.2	18.4	11.2	21.6	5.6	8.0	6.4	7.2	1.6	52.8	
	70歳以上	100	11.0	8.0	8.0	6.0	1.0	5.0	3.0	3.0	1.0	75.0	

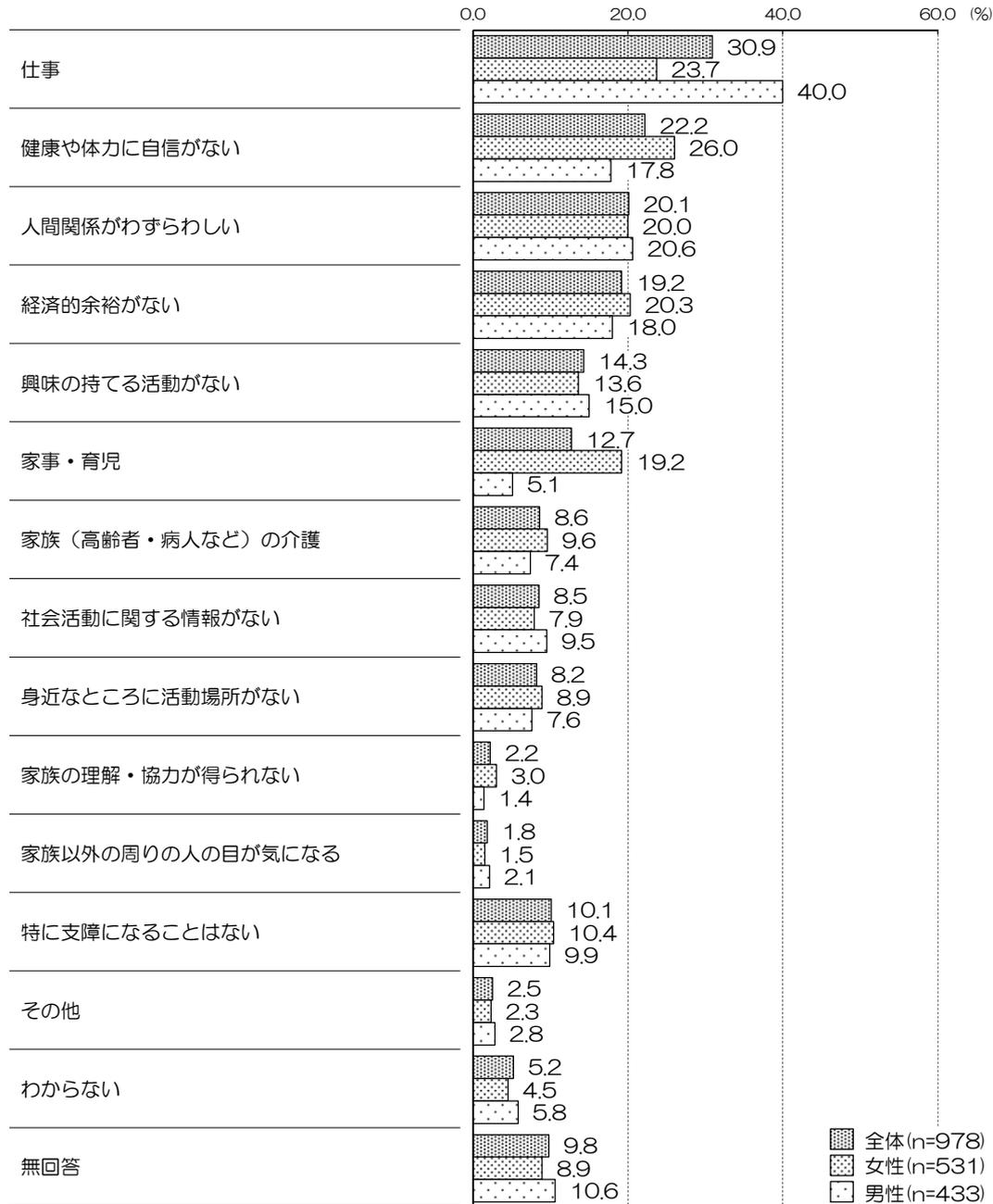
注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より 10 ポイント以上高い項目、薄い網掛けは 5 ポイント以上高い項目を示す。

参加したい社会活動を年齢別にみると、女性の 20 歳・30 歳代は「通訳やホームステイの受け入れなど、国際交流活動」「P T A や子ども会、子育て支援、育児サークルなどの活動」の割合が他の年代よりも高くなっている。男性の 30 歳代でも「P T A や子ども会、子育て支援、育児サークルなどの活動」は約 3 割と高くなっている。また、男性の 20・30 歳代では「スポーツ・文化・芸術の振興を図る活動」が 3 割を超えている。

(2) 社会的な活動に参加するうえでの支障

問28. あなたが社会的な活動に参加するうえで、支障になることはありますか。(〇はいくつでも)

図 性別 社会的な活動に参加するうえでの支障



社会的な活動に参加するうえで支障となることをたずねたところ、「仕事」が 30.9%で最も高く、これに「健康や体力に自信がない」(22.2%)、「人間関係がわずらわしい」(20.1%)、「経済的余裕がない」(19.2%)が2割前後で続いている。

性別にみると、「仕事」の割合は女性 23.7%・男性 40.0%と、男性で特に割合が高くなっている。女性は「家事・育児」「健康や体力に自信がない」の割合が男性より約 10 ポイント高く、「健康や体力に自信がない」は女性では最も割合の高い項目となっている。

表 性・年齢別 社会的な活動に参加するうえでの支障

	対象者数 (n)	仕事	健康や体力に自信がない	人間関係がわずらわしい	経済的余裕がない	興味の持てる活動がない	家事・育児	家族(高齢者・病人など)の介護	社会活動に関する情報がない	
全体	978	30.9	22.2	20.1	19.2	14.3	12.7	8.6	8.5	
女性	20歳代	34	38.2	11.8	20.6	32.4	23.5	23.5	2.9	17.6
	30歳代	67	40.3	4.5	23.9	25.4	13.4	56.7	3.0	14.9
	40歳代	112	40.2	18.8	19.6	24.1	10.7	36.6	5.4	6.3
	50歳代	87	28.7	20.7	28.7	28.7	24.1	12.6	17.2	11.5
	60歳代	125	8.8	38.4	20.8	16.8	13.6	3.2	16.0	5.6
	70歳以上	104	3.8	40.4	9.6	6.7	4.8	-	6.7	1.9
男性	20歳代	33	45.5	9.1	27.3	42.4	21.2	6.1	3.0	12.1
	30歳代	31	74.2	9.7	22.6	19.4	19.4	9.7	3.2	12.9
	40歳代	73	65.8	5.5	27.4	15.1	16.4	12.3	5.5	6.8
	50歳代	71	53.5	19.7	21.1	23.9	15.5	1.4	9.9	12.7
	60歳代	125	33.6	20.0	19.2	14.4	14.4	4.8	9.6	10.4
	70歳以上	100	7.0	28.0	14.0	12.0	11.0	1.0	7.0	6.0

	対象者数 (n)	身近なところに活動場所がない	家族の理解・協力が得られない	家族以外の周りの人の目が気になる	特に支障になることはない	その他	わからない	無回答	
全体	978	8.2	2.2	1.8	10.1	2.5	5.2	9.8	
女性	20歳代	34	20.6	5.9	5.9	5.9	-	5.9	5.9
	30歳代	67	7.5	1.5	1.5	9.0	1.5	1.5	1.5
	40歳代	112	10.7	2.7	-	8.9	1.8	5.4	-
	50歳代	87	9.2	6.9	2.3	10.3	-	3.4	2.3
	60歳代	125	8.8	2.4	0.8	14.4	4.0	4.0	9.6
	70歳以上	104	3.8	1.0	1.9	9.6	3.8	6.7	28.8
男性	20歳代	33	15.2	3.0	3.0	6.1	3.0	12.1	3.0
	30歳代	31	3.2	3.2	3.2	-	-	12.9	-
	40歳代	73	8.2	2.7	2.7	6.8	1.4	4.1	4.1
	50歳代	71	9.9	1.4	-	9.9	1.4	2.8	7.0
	60歳代	125	8.8	0.8	3.2	15.2	4.0	4.0	8.8
	70歳以上	100	3.0	-	1.0	10.0	4.0	7.0	26.0

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

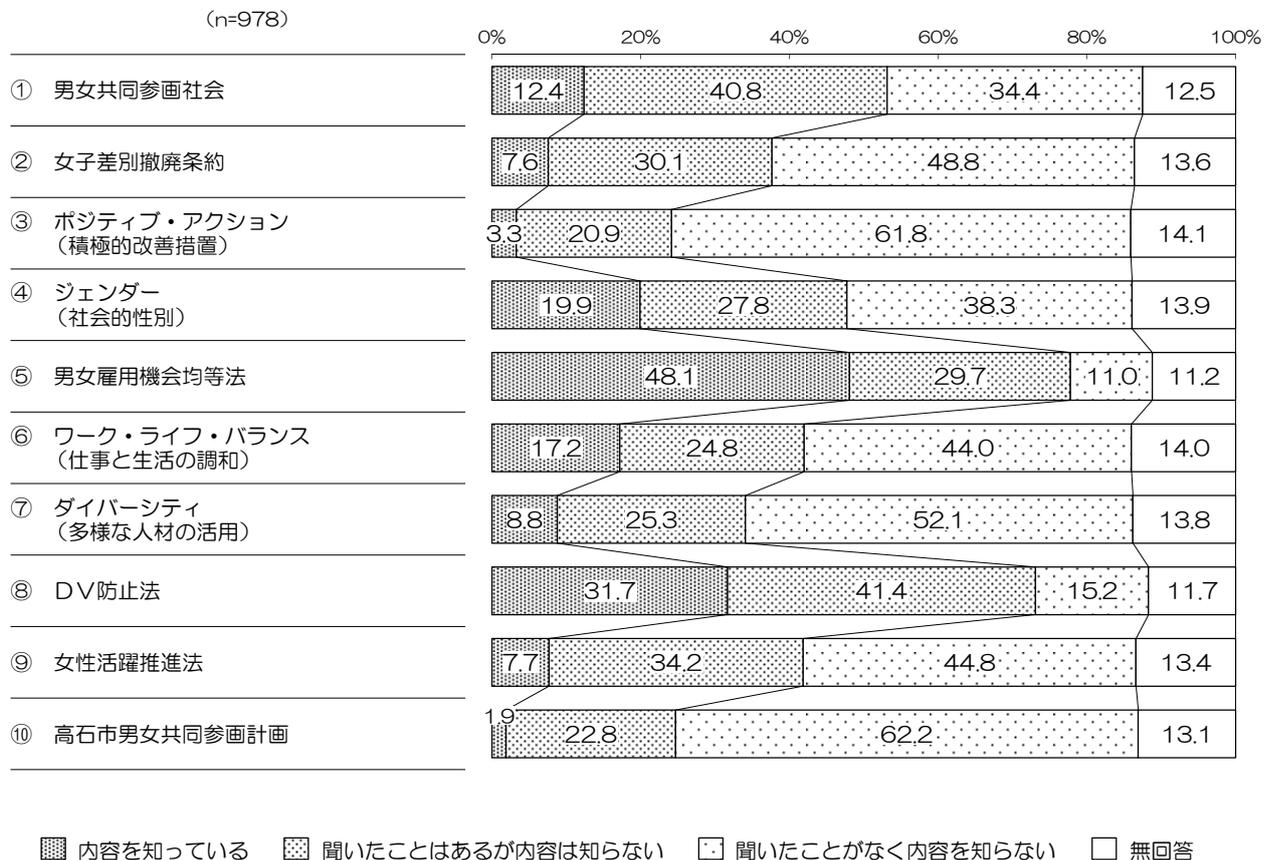
年齢別にみると、女性の20～40歳代は「家事・育児」が他の年齢層よりも高く、30歳代では56.7%を占め最も割合の高い項目となっている。男性で割合の高い「仕事」は30～50歳代で特に高くなっている。60歳以上の年齢層の女性と70歳以上の年齢層の男性では「健康や体力に自信がない」の割合が最も高くなっている。

6. 男女共同参画社会について

(1) 男女共同参画に関する言葉の認知度

問29. 次にあげる項目のうちで、あなたがお存じのものはありますか。(各項目に○は1つ)

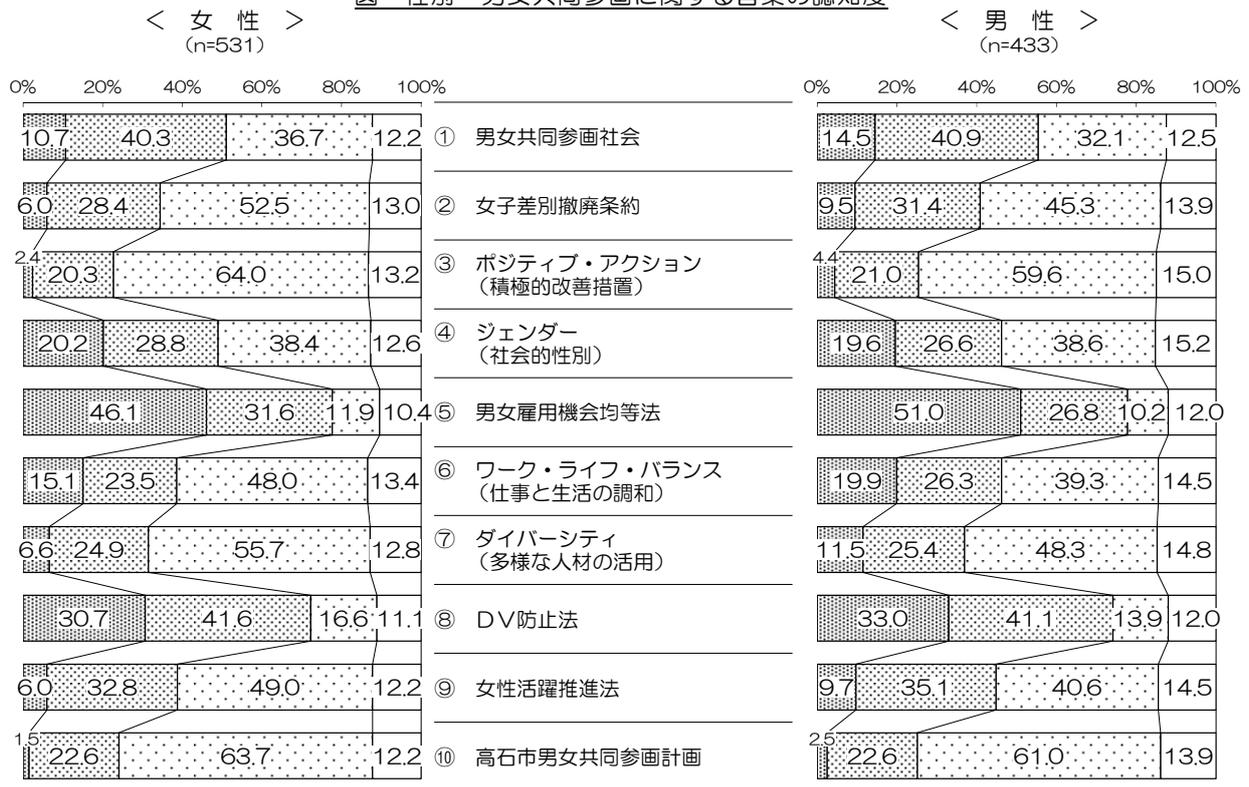
図 男女共同参画に関する言葉の認知度



男女共同参画に関する言葉の認知度については、「⑤ 男女雇用機会均等法」「⑧ DV防止法」は『聞いたことがある』（「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の合計）が7割を超えている。また、「① 男女共同参画社会」「④ ジェンダー（社会的性別）」の『聞いたことがある』の割合は約5割となっている。

一方、「③ ポジティブ・アクション（積極的改善措置）」と「⑩ 高石市男女共同参画計画」については『聞いたことがある』は3割未満、「内容を知っている」は5ポイント未満と低くなっている。

図 性別 男女共同参画に関する言葉の認知度



■ 内容を知っている ■ 聞いたことはあるが内容は知らない ■ 聞いたことがなく内容を知らない □ 無回答

性別にみると、「④ ジェンダー (社会的性別)」以外の各項目は、男性の方が女性よりも『聞いたことがある』の割合が高く、また「内容を知っている」の割合も男性の方が高くなっている。

表 性・年齢別 男女共同参画に関する言葉の認知度

(「内容を知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」の合計)

	対象者数 (n)	① 男女共同参画社会	② 女子差別撤廃条約	③ ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	④ ジェンダー (社会的性別)	⑤ 男女雇用機会均等法	⑥ ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	⑦ ダイバーシティ (多様な人材の活用)	⑧ DV防止法	⑨ 女性活躍推進法	⑩ 高石市男女共同参画計画	
全体	978	53.2	37.7	24.2	47.7	77.8	42.0	34.1	73.1	41.9	24.7	
女性	20歳代	34	70.6	41.1	20.5	70.6	82.3	47.1	35.3	79.4	41.2	17.6
	30歳代	67	52.2	47.7	25.4	71.6	82.1	56.8	52.3	68.7	43.3	25.4
	40歳代	112	49.1	29.5	24.1	58.0	85.7	43.7	36.6	80.4	43.7	25.9
	50歳代	87	56.3	37.9	21.8	60.9	88.5	44.8	37.9	82.7	37.9	19.5
	60歳代	125	50.4	32.0	28.0	36.8	78.4	33.6	21.6	76.8	36.8	27.2
	70歳以上	104	41.3	28.8	15.4	23.0	54.8	19.2	18.3	49.0	32.7	24.0
	男性	20歳代	33	72.8	60.6	27.3	72.7	81.8	48.5	45.5	66.6	45.4
30歳代		31	64.6	45.2	22.6	58.1	87.1	54.8	42.0	83.9	48.4	19.4
40歳代		73	56.1	41.1	17.8	46.5	87.6	54.8	38.3	83.6	41.1	17.8
50歳代		71	54.9	40.9	36.7	57.8	88.8	59.2	54.9	83.1	57.8	31.0
60歳代		125	53.6	44.0	31.2	45.6	77.6	44.8	32.0	76.8	48.0	28.0
70歳以上		100	49.0	29.0	16.0	26.0	59.0	29.0	25.0	57.0	33.0	25.0

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

『聞いたことがある』の割合を年齢別にみると、総じて60歳以上の年齢層は、60歳未満の年齢層と比べて各用語の認知度が低くなっている。

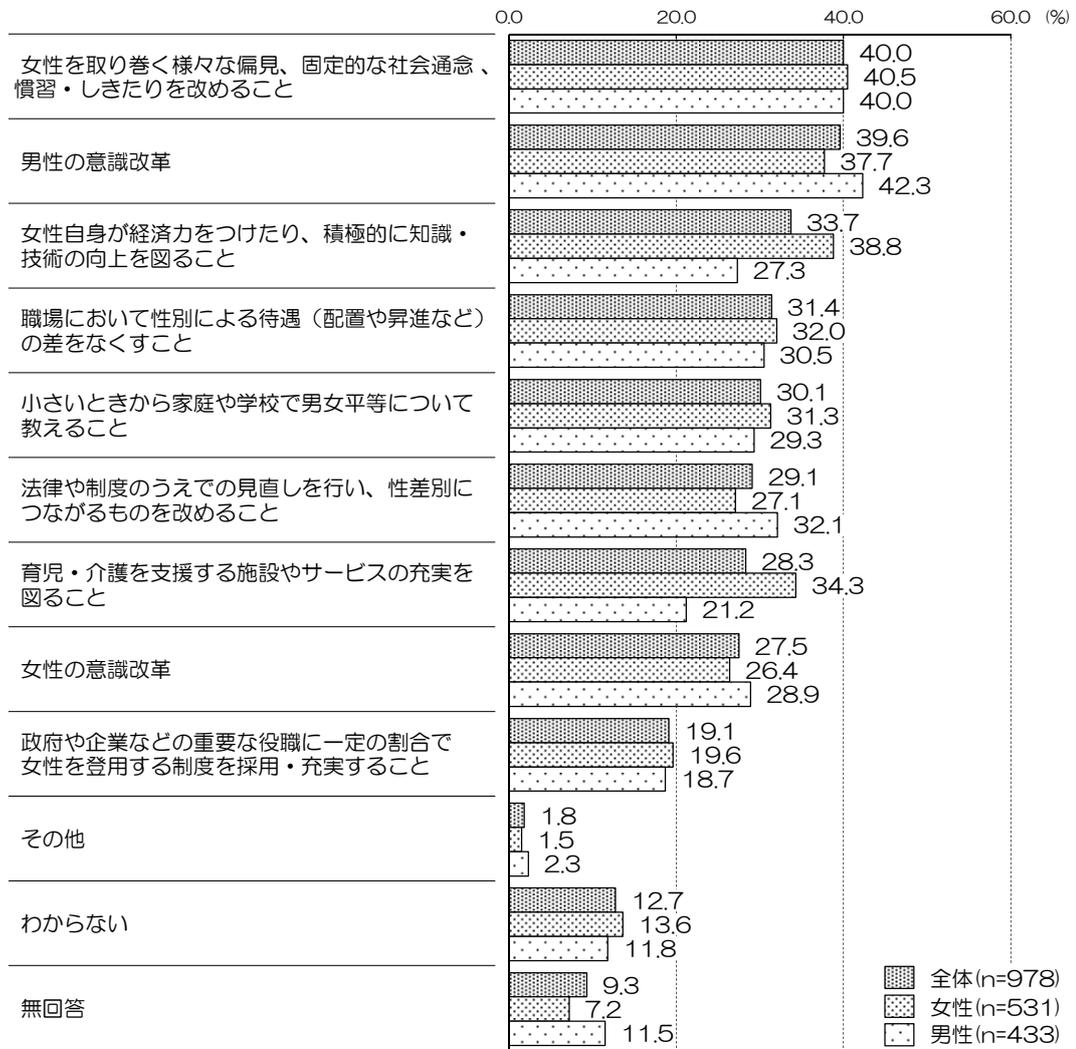
20歳代は男女ともに「① 男女共同参画社会」と「④ ジェンダー (社会的性別)」が7割を超えて高くなっている。「④ ジェンダー (社会的性別)」は20~50歳代の女性と、20・30・50歳代の男性では『聞いたことがある』が5割を超えているが、70歳以上の男女では2割台にとどまり、年齢による認知度の違いが特に大きくなっている。

50歳代の男性は、すべての用語で全体よりも『聞いたことがある』の割合が高くなっている。

(2) 男女共同参画社会を実現するために必要な取組

問30. 男女共同参画の社会を実現するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は5つまで)

図 性別 男女共同参画社会を実現するために必要な取組



男女共同参画社会を実現するために必要な取組は、「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が40.0%で最も高く、これに「男性の意識改革」(39.6%)が僅差で続いており、以下、「女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術の向上を図ること」(33.7%)、「職場において性別による待遇（配置や昇進など）の差をなくすこと」(31.4%)、「小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること」(30.1%)などの順となっている。

性別にみると、女性は男性よりも「女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術の向上を図ること」と「育児・介護を支援する施設やサービスの充実を図ること」の割合が10ポイント以上高くなっている。

男性は、「男性の意識改革」と「法律や制度のうえでの見直しを行い、性差別につながるものを改めること」が女性よりも約5ポイント高く、「男性の意識改革」が最も割合の高い項目となっている。

表 性・年齢別 男女共同参画社会を実現するために必要な取組

	対象者数 (n)	女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること	男性の意識改革	女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術の向上を図ること	職場において性別による待遇（配置や昇進など）の差をなくすこと	小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること	法律や制度のうえでの見直しを行い、性差別につながるものを改めること	育児・介護を支援する施設やサービスの充実を図ること	女性の意識改革	政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること	その他	わからない	無回答	
全体	978	40.0	39.6	33.7	31.4	30.1	29.1	28.3	27.5	19.1	1.8	12.7	9.3	
女性	20歳代	34	29.4	50.0	35.3	44.1	35.3	23.5	38.2	32.4	17.6	2.9	5.9	-
	30歳代	67	47.8	44.8	49.3	37.3	32.8	26.9	37.3	26.9	14.9	1.5	16.4	3.0
	40歳代	112	38.4	31.3	38.4	26.8	33.9	30.4	38.4	21.4	16.1	1.8	17.9	1.8
	50歳代	87	51.7	37.9	35.6	33.3	39.1	33.3	34.5	18.4	23.0	1.1	10.3	2.3
	60歳代	125	45.6	44.8	42.4	34.4	29.6	28.0	35.2	37.6	26.4	1.6	10.4	6.4
	70歳以上	104	25.0	27.9	30.8	26.0	21.2	18.3	25.0	23.1	15.4	1.0	16.3	23.1
	男性	20歳代	33	51.5	33.3	33.3	45.5	39.4	30.3	27.3	27.3	27.3	3.0	6.1
30歳代	31	25.8	45.2	22.6	29.0	19.4	25.8	16.1	29.0	9.7	12.9	16.1	6.5	
40歳代	73	41.1	63.0	26.0	27.4	30.1	34.2	19.2	42.5	15.1	4.1	15.1	4.1	
50歳代	71	46.5	47.9	29.6	28.2	22.5	33.8	21.1	35.2	15.5	1.4	12.7	8.5	
60歳代	125	43.2	38.4	28.8	36.0	27.2	36.8	27.2	24.8	27.2	-	9.6	11.2	
70歳以上	100	31.0	30.0	24.0	23.0	36.0	26.0	15.0	20.0	13.0	1.0	12.0	24.0	

注) 濃い網掛けに白抜き文字は全体より10ポイント以上高い項目、薄い網掛けは5ポイント以上高い項目を示す。

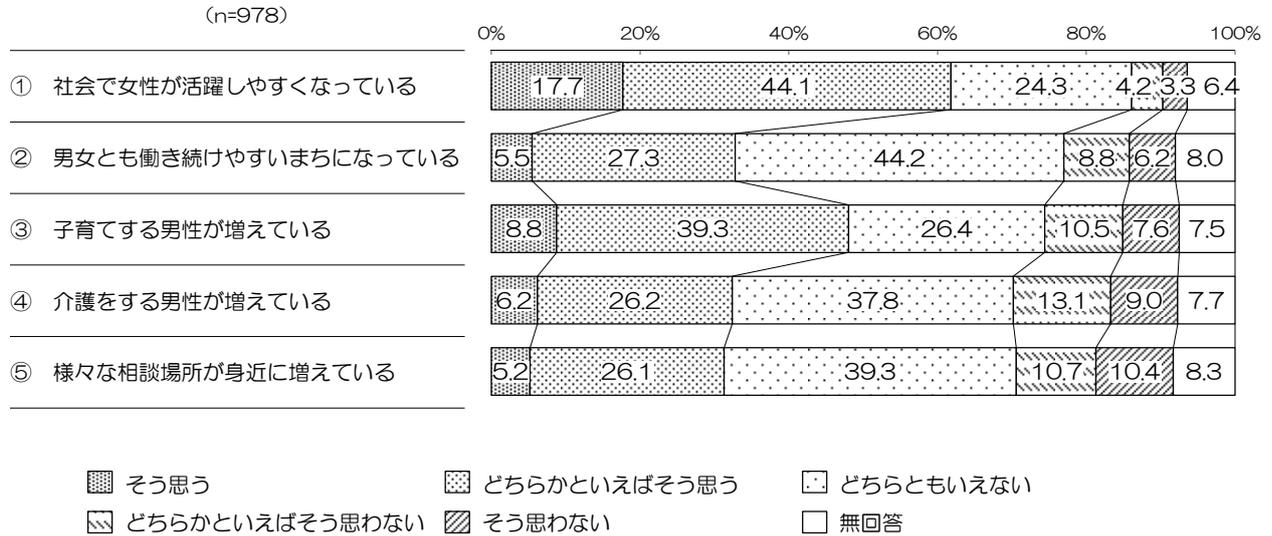
年齢別にみると、女性の20歳代は「男性の意識改革」(50.0%)と、「職場において性別による待遇（配置や昇進など）の差をなくすこと」(44.1%)が4割を超えて高くなっている。女性の30歳代は「女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術の向上を図ること」が49.3%で最も高くなっている。女性の50歳代では「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」が5割を超えて高くなっている。

男性では、20歳代は「女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること」(51.5%)と、「職場において性別による待遇(配置や昇進など)の差をなくすこと」(45.5%)の割合が高くなっている。男性の40歳代は「男性の意識改革」が63.0%で最も高く、次いで「女性の意識改革」が42.5%となっている。

(3) 男女共同参画の進展

問31. あなたご自身の経験から、この10年間で、次のことがらについてどのようにお感じですか。
(各項目に○は1つ)

図 男女共同参画の進展



男女共同参画に関するこの10年間の社会の変化についてたずねたところ、「① 社会で女性が活躍しやすくなっている」には約6割、「③ 子育てする男性が増えている」には約5割が『そう思う』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）と回答している。一方、「② 男女とも働き続けやすいまちになっている」「④ 介護をする男性が増えている」「⑤ 様々な相談場所が身近に増えている」への『そう思う』は約3割にとどまり、「どちらともいえない」が約4割を占めている。

図 性別 男女共同参画の進展

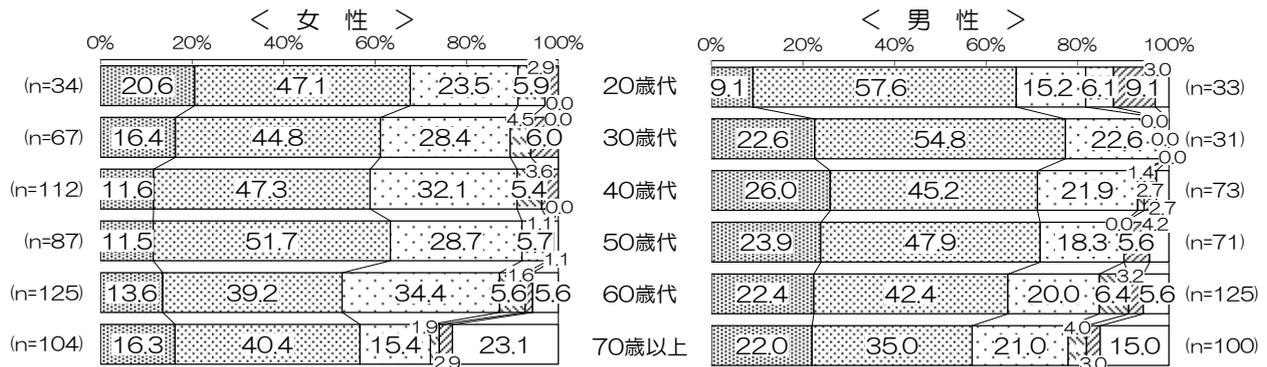


性別にみると、「① 社会で女性が活躍しやすくなっている」は、男性は『そう思う』が66.3%となっているが、女性では『そう思う』は58.5%にとどまっている。また、「② 男女とも働き続けやすいまちになっている」「④ 介護をする男性が増えている」でも女性の『そう思う』の割合は男性よりも5ポイント以上低くなっている。

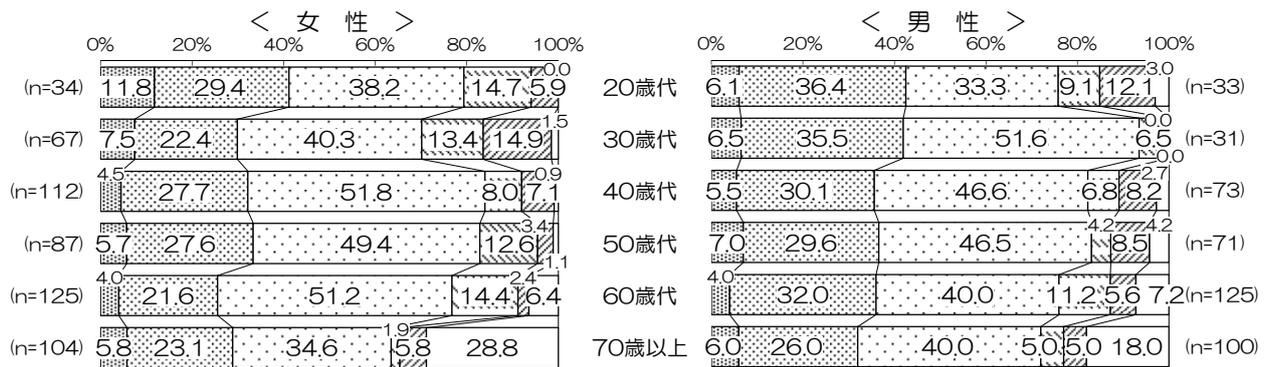
対して、「③ 子育てする男性が増えている」と「⑤ 様々な相談場所が身近に増えている」は女性の方が男性よりも『そう思う』の割合が高くなっている。

図 性・年齢別 男女共同参画の進展

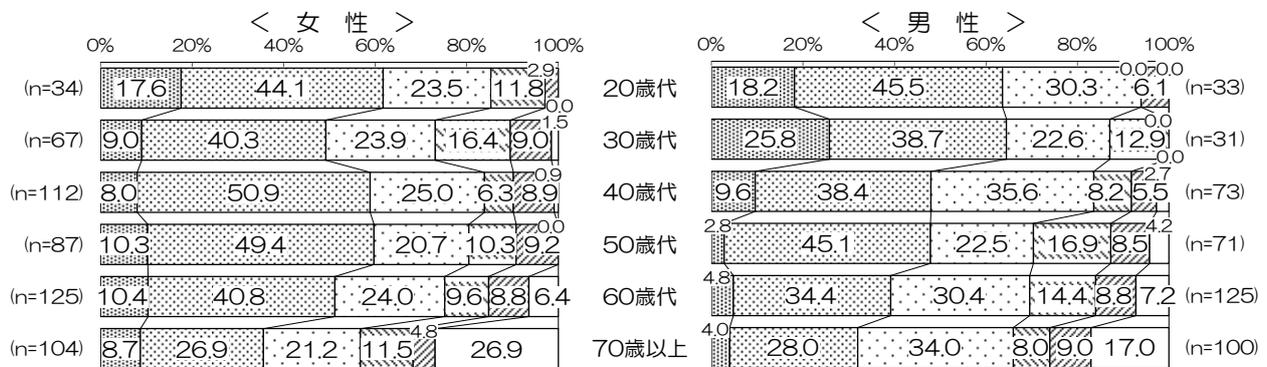
① 社会で女性が活躍しやすくなっている



② 男女とも働き続けやすいまちになっている

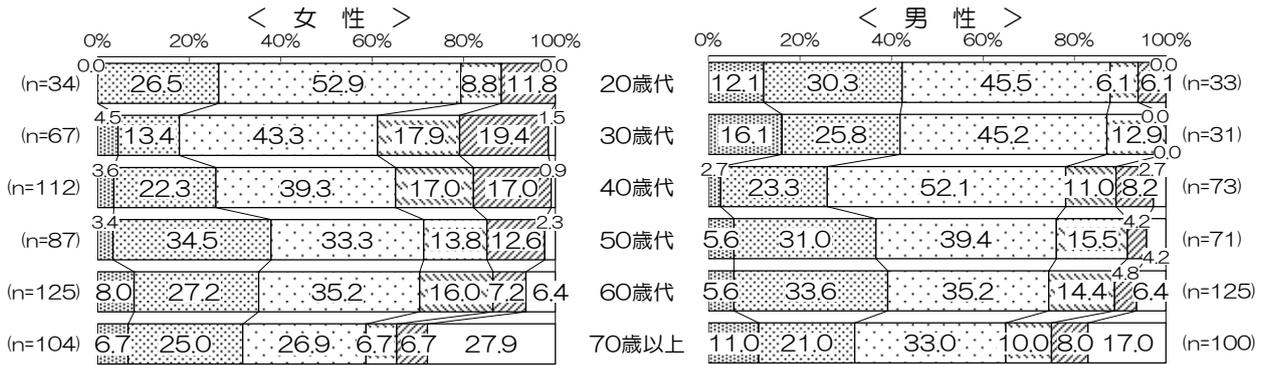


③ 子育てする男性が増えている

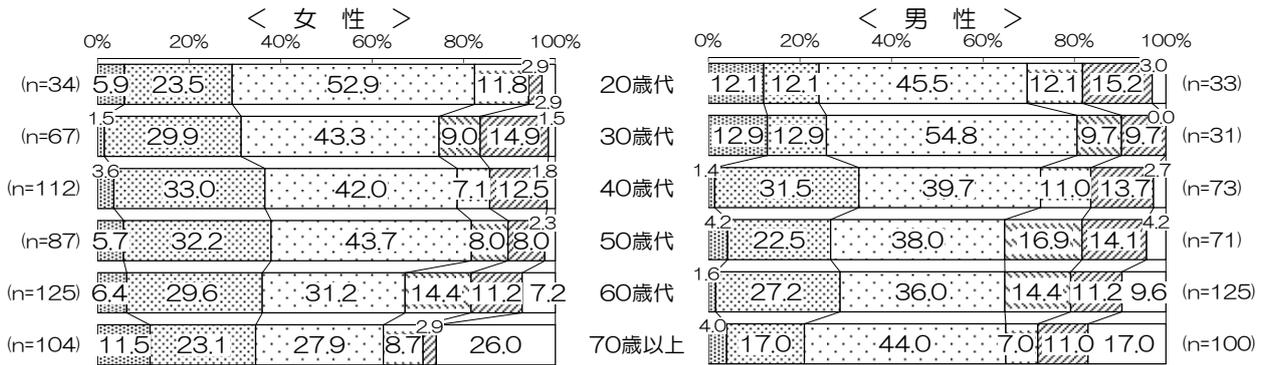


そう思う
 どちらかといえばそう思う
 どちらともいえない
 どちらかといえばそう思わない
 そう思わない
 無回答

④ 介護をする男性が増えている



⑤ 様々な相談場所が身近に増えている



そう思う どちらかといえばそう思う どちらともいえない
 どちらかといえばそう思わない そう思わない 無回答

① 社会で女性が活躍しやすくなっている

いずれの年齢層でも男女とも『そう思う』が5割を超えており、特に男性の30～50歳代では『そう思う』が7割を超えている。

② 男女とも働き続けやすいまちになっている

女性の20歳代と男性の20・30歳代では『そう思う』が4割を超えているが、女性の30歳代は『そう思わない』(28.3%)が比較的高くなっている。

③ 子育てする男性が増えている

男性では、年齢が低い層ほど『そう思う』の割合が高くなる傾向がみられ、20・30歳代は『そう思う』が6割を超えている。

④ 介護をする男性が増えている

女性の30歳代は『そう思わない』が37.3%と高く、『そう思う』は17.9%と低くなっている。また、女性の40歳代でも『そう思わない』は3割を超えている。

⑤ 様々な相談場所が身近に増えている

女性の60歳代と、男性の20歳代、40～60歳代では、『そう思わない』が2割を超えている。

7. 自由意見

本市の男女共同参画施策についての意見、要望を求めたところ、87人から回答があった。以下に意見内容を分類したものと主な意見を抜粋したものを掲載している。

◆ 男女の役割分担について (9件)

- ・男女平等とかは、男らしさや女らしさも含めた「自分らしさ」を他者に認めてもらうことが大切なんじゃないかなと思います。性別をなくすことはムリだし、一口に男女平等といってもやはり意識はしてしまうし、差別はあります。男でも女でもそれぞれの利点はあるし、そこを活かしていったらいいですね。(20代女性)
- ・もともと体のづくりも違うから働き方も違うし、家庭での役割も違うと思うので、あえて意識的にしなくても、思いやりを持って協力する形でいいのではと思います。(40代女性)

◆ 個人の尊重について (9件)

- ・男とか女とかで区別するのではなく、個人個人に光を当てて気持ちの良い共同参画の推進をするべき。(60代女性)
- ・男女平等のとらえ方が「全て半分半分に分ける」とか「どの様な場面においても同じ条件にする」と思い過ぎているのではないか？私は「できる方がする」という事だと思う。「得意な方が得意な事をする」ことが平等ではないかと思っています。(40代男性)

◆ 意識づくりについて (2件)

- ・年齢的に行動範囲が狭くなり、パート先と家の行き来で一日が終わるのが現実です。社会に目をむける事が少なくなりました。若い時からの意識付け、義務付け、慣習等が必要だと感じます。(50代女性)
- ・市主催の講師を招いての講演会、勉強会で知識向上を高めていく必要があると思います。(70代以上女性)

◆ 男性に関する取組について (3件)

- ・女性ばかりを重視するのではなく、逆に男性への差別的なものをなくしてほしい。優遇されている面もあると思います。(40代男性)

◆ 働きやすい環境づくりについて (8件)

- ・ひと昔前、結婚を理由に退職させられている社会にいた人が社会復帰するための手段が個人にまかせられているが、スキル(例えばスマホ・PCの利用を必要とする)が必要な場合、母子家庭などは支援されているのに(看護師資格 etc)一般の主婦は、家庭の費用の持ち出しになるため、家族から理解されにくい。地域ボランティアについてもなにかしらの費用が発生すると家庭にいてほしいと思われる。一度家庭に入った主婦が社会復帰するための社会システムが少なすぎるように思う。(20代男性)
- ・国の法や自治体の範囲(財源)の制約もあるでしょうが、高齢者と子供が大切にされると、働き盛りの人の安心を生み生産性を高めるパワーが己から生じ、男女が協力しあう社会が生まれるのではないのでしょうか。(70代以上女性)
- ・住みよい町ですが若さが無い。かといって老人ばかりの町かという、やはり若い夫婦に子供達というの、ふえつつある様に思う。特に羽衣、東羽衣には大きな店がなく、若い男女が働く場が少ない。職場で知り合い結婚へと発展して行ける様な企画、町づくりを希望。(70代以上女性)

◆ 子育て支援の充実について

(12件)

- ・待機児童ゼロに向けて、子供たちの未来を支えるような政策をよろしくお願いします。(20代女性)
- ・正社員は、子どもが熱を出しても休めないし、残業もあります。病児保育をしてくれる病院もなく、子供が小さい時は本当に困りました。女性が正社員で働くには学童保育も不十分と感じます。(40代女性)
- ・保育所・幼稚園の整備の充実を希望します。母親にとって、安心して子供をあずけられるところがあって仕事が成り立ちます。なので、公立幼稚園の廃園などはとても心が痛いです。(30代女性)
- ・育児、介護の施設の充実を図って欲しい。子育てしやすい保育園、幼稚園にして欲しい。預かってもらえる時間を長くして欲しい。仕事をしている女性の負担にならない行事にして欲しい(仕事を休まなくてよいように)。(40代男性)

◆ 子どもの教育について

(2件)

- ・共働きの場合、その日その日の子供の学校での学習内容や理解度をみる事はなかなかできません。一つをつまずきがどんどん勉強嫌いにしてしまいます。退職した教師などが授業中でもサポートする仕組みはいかがでしょう。(50代女性)
- ・母子家庭の現状は本当に苦しいものです。一生懸命働いても十分な生活もできずに習い事の一つもさせてあげられせん。働く時間をのぼすと子供をずっと学童に預けっぱなしになり、でも生活していくためにはそうせざるをえず。子供の病気等で仕事を休まなければいけないとなると給与は減り…。子供を産み育てるにあたり、男性よりも女性のみがその責任、重みを背負っている様に思います。(30代女性)

◆ 地域社会について

(5件)

- ・高齢者と子供達の接点をつくってほしい。(育児と介護の負担を減らす)女性の生きやすさは、地域のコミュニティの活用だと思う。(30代女性)
- ・アパートやマンション等自治会がない所が多いので、もっとつくってほしい。子供会のない所はある所へ入れるようにしてほしい。そういう場で男女平等の勉強をすれば良いと思う。一般家庭にはまだまだ情報が入ってこなさすぎるので、もっと情報を発信してほしい。(30代女性)

◆ まちづくりについて

(7件)

- ・高駅の中をもっとバリアフリー化をお願い致します。(60代男性)
- ・インフラ整備も他の市より良いと思うし、一番心配なのは、南海トラフ地震です。防災に強い街にして欲しいです。(50代)

◆ 広報について

(6件)

- ・市の広報などでのせてもらっているのですが、あまり印象に残っていないと思います。紙面やホームページで興味の持てるようなPR活動をされたらどうでしょうか。アプラホールなどもっと活用して、映画会や音楽会の時に市の方が5分でも話されても、もっと興味もっていただけたらと思います。どうしてもかたい話になると聞きにくいので、楽しく広く世代にわかってもらえるPRが大事だと思います。(60代女性)
- ・男女共同参画施策をしている事すら市民は知らない人が多数いると思う。もっと内容などわかりやすく広報にのせるなどした方が良いのでは？(40代女性)

◆ 施策の推進について

(11 件)

- ・ 10 年後、あるいは 20 年後にどういう市であるべきかをデザインした上で、施策を検討していただければと思います(このアンケートはあくまで現状の情報であり、将来の人口推移と併せて考えるべきとも思います)。男女共同参画を掲げ、実現することはあくまで将来の「手段」の一つです。(30 代男性)
- ・ 様々に活動の場を増やそうとしても、結局どれもできないで終わりそうなので、どれか 1 つに(少なめに) 1 つずつしていくのもありだと思います。まず、教育現場とか、まず、社会活動の時間を男性の働ける休日にするとか。(40 代女性)
- ・ 日本は管理職につく女性がとても少ない。人材育成を行い、高石市の管理職には女性を多く登用し、女性目線・母親目線の政策など実施できれば、市民へのアピールにもなる。そうなれば若い世代の人口流出も防げるのでは?期待しています!! (30 代男性)
- ・ 是非ポーズだけでなく、このアンケートを活かしてください。高石市の市の職員の中で、まず満足できるモデルになっていってください。そして広めてください。(40 代女性)
- ・ 本市におかれましては、市が小さいことから市民の監視がゆるいと思います。だからといって不適切、不公正に施策をすすめることなく、市民の税金が財源であることを認識し、市民本意の施策実行をお願いします。(30 代男性)

◆ その他について

(17 件)

あなたについておたずねします

問 1. あなたの性別は。(○は1つ)

1. 女性
2. 男性

問 2. あなたの年齢は。(○は1つ)

1. 20～24歳
2. 25～29歳
3. 30～34歳
4. 35～39歳
5. 40～44歳
6. 45～49歳
7. 50～54歳
8. 55～59歳
9. 60～64歳
10. 65～69歳
11. 70～74歳
12. 75歳以上

問 3. あなたには、配偶者(事実婚のパートナーも含む)がいますか。(○は1つ)

1. いる
2. いない
3. 離別・死別

問 4. あなたとあなたの配偶者・パートナーの職業をお答えください。配偶者・パートナーのいない方は、ご自身の欄だけ記入してください。

① ご自身の職業 (○は1つ)	② 配偶者・パートナーの職業 (○は1つ)
1. 勤め人 (正社員・職員)	1. 勤め人 (正社員・職員)
2. 勤め人 (臨時・パートアルバイト等非正社員・職員)	2. 勤め人 (臨時・パートアルバイト等非正社員・職員)
3. 自営業主・自営業	3. 自営業主・自営業
4. 家族従業員	4. 家族従業員
5. 家事専業 (専業主婦・主夫)	5. 家事専業 (専業主婦・主夫)
6. 無職 (家事専業をのぞく)	6. 無職 (家事専業をのぞく)
7. その他 (具体的に)	7. その他 (具体的に)

問 5. あなたは同居する子どもがいますか。(○は1つ)

1. いる
2. いない

問 5-1. 同居するあなたの一番下のお子さん。 (○は1つ)

1. 3歳未満
2. 3歳以上就学前
3. 小学生
4. 中学生
5. 高校生
6. 大学生以上の学生
7. 社会人

問 6. あなたが一緒に住んでいる家族構成は。(○は1つ)

1. 一人暮らし
2. 夫婦のみ (事実婚を含む)
3. 夫婦と子ども (2世代)
4. ひとり親と子ども (2世代)
5. 祖父母と親と子ども (3世代)
6. その他 (具体的に)

男女平等に関する意識調査へのご協力をお願い

市民のみなさまには、日頃から市政にご協力いただきましてありがとうございます。

本市では、男女が社会の対等な構成員として、互いに尊重し合い、自分らしい生き方ができる社会(男女共同参画社会)の実現に向け、様々な取り組みを行っているところです。

このたび、「第2次高石市男女共同参画計画」を策定するうえで、広く市民のみなさまのご意見を伺い、貴重な資料とするためアンケート調査を行うことになりました。

この調査を実施するにあたり、20歳以上の男女市民の中から、2,000名の方々を無作為で選ばせていただきました。なお、調査票は無記名でご回答いただき、結果は統計的に処理し、調査目的以外に使うことは決してありませんので、みなさまのプライバシーが侵害されることは一切ございません。

お忙しいところ恐縮ではございますが、よりよい社会の実現のため、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

平成28年7月

高石市長 阪口伸六

ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、封筒の宛名ご本人が記入してください。
2. 記入は、黒のボールペン、または濃い鉛筆でお願いします。
3. 回答は、質問ごとに番号に○をつけてください。
4. 記入いただいた調査票は、**7月20日(水)まで**に、同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストに投函してください。(切手は不要です。)

●この調査に関するお問合わせは、高石市総務部人権推進課までご連絡ください。

TEL 072-265-1001 (内線2301)
FAX 072-263-6116

男女平等についておたずねします

問7. 現在の社会において、男女はどの程度平等であると思いますか。

	(分野ごとに○は1つ)					
	男性 遇性 され ている	ど ど 男性 遇性 され ている	平等 である	女性 遇性 され ている	女性 遇性 され ている	わ か ら な い
① 家庭では	1	2	3	4	5	6
② 地域活動・社会活動では	1	2	3	4	5	6
③ 社会通念・慣習・しきたりでは	1	2	3	4	5	6
④ 学校教育では	1	2	3	4	5	6
⑤ 職場では	1	2	3	4	5	6
⑥ 政治・経済界では	1	2	3	4	5	6
⑦ 法律・制度では	1	2	3	4	5	6
⑧ 社会全体では	1	2	3	4	5	6

問8. 「男は仕事、女は家庭」と性によって役割を決める考え方を、どう思いますか。(○は1つ)

1. 同感する
2. どちらからかといえば同感する
3. どちらからかといえば同感しない
4. 同感しない

問8で1. 2. と答えた方におたずねします

問8-1. 同感する理由は。(○はいくつでも)

- 日本の伝統的な家族の在り方だと思うから
- 自分の両親も役割分担をしていたから
- 夫が外で働いた方が、多くの収入を得られると思うから
- 妻が家庭を守った方が、子どもの成長などにとってよいと思うから
- 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは大変だと思うから
- その他 (具体的に)

問8で3. 4. と答えた方におたずねします

問8-2. 同感しない理由は。(○はいくつでも)

- 男女平等に反すると思うから
- 自分の両親も外で働いていたから
- 夫も妻も働いた方が、多くの収入が得られると思うから
- 妻が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとってよいと思うから
- 家事・育児・介護と両立しながら、妻が働き続けることは可能だと思うから
- 固定的な夫と妻の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
- その他 (具体的に)

子育てや暮らしについておたずねします

問9. あなたが、自分の子どもに受けさせたい (受けさせたかった) 教育の程度を女の子、男の子それぞれについてお答えください。

子どもがいない方、男女どちらからかしかいない方も、両方いると仮定してお答えください。

	(女の子・男の子それぞれ○は1つ)	
	女の子に	男の子に
① 中学校	1	1
② 高等学校	2	2
③ 専門・専修学校	3	3
④ 短期大学・高等専門学校	4	4
⑤ 大学	5	5
⑥ 大学院	6	6

問10. あなたは、自分の子どもに、次のことをどの程度、身につけてほしいですか。

	(女の子・男の子それぞれ 各項目に○は1つ)		女の子に		男の子に	
	必ず 身に つけ る	け て ほ し い	必ず 身に つけ る	け て ほ し い	必ず 身に つけ る	け て ほ し い
① 自立できる経済力	1	2	3	4	1	2
② 家事・育児の能力	1	2	3	4	1	2
③ 家族や周囲の人と円満に暮らす力	1	2	3	4	1	2
④ 個性・特技を伸ばすこと	1	2	3	4	1	2
⑤ 自立心	1	2	3	4	1	2
⑥ 責任感	1	2	3	4	1	2

問11. 学校で男女平等をすすめるために、どのようなことが必要だと思いますか。(○はいくつでも)

- 男女平等の意識を育てる授業をする
- 性別によってかたよることなく、個性や希望を重視した進路指導をする
- 自分の心と体を大切に思うよう自尊感情を育む
- 男女が平等に家庭の責任を果たすことの大切さを教える
- テレビやインターネットなどからの情報を読み解いて使いこなす力をつける教育をすすめる
- 性同一性障がいなど性的少数者に対する配慮をする
- 校長や教頭に女性を増やしていく
- 教職員に、男女平等教育に関する研修を充実する
- 保護者に男女共同参画の啓蒙をする
- その他 (具体的に)
- 特になし

問12. あなたが介護の必要な状態になった場合、主に誰に世話をしてもらいたいですか。(○は1つ)

1. 配偶者(夫・妻)
2. 娘
3. 息子
4. 息子の配偶者
5. 娘の配偶者
6. その他親族(具体的に)
7. 介護職員(ヘルパー等)
8. その他(具体的に)
9. わからない

問13. 家族に介護を必要とする人がおられる場合、あるいは、もし家族が介護を必要とする状態となった場合は、主に誰が世話をしていますか(することになると思っていますか)。(○は1つ)

1. 自分
2. 配偶者(夫・妻)
3. 娘
4. 息子
5. 息子の配偶者
6. 娘の配偶者
7. その他親族(具体的に)
8. 介護職員(ヘルパー等)
9. その他(具体的に)
10. わからない

問14. 家庭におけることがらについて、主に男女のどちらがするのがよいと思えますか。また、現実には誰がしていますか。

	(理想)		(現実)					
	主に女性の役割	主に男性の役割	主に自分がしている	配偶者がしている	自分と配偶者が同程度	主に女性がしている	主に男性がしている	家族みんなですべて
① 生活費を得ること	1	2	3	4	5	6		
② 家計の管理	1	2	3	4	5	6		
③ 食事づくり	1	2	3	4	5	6		
④ 食事のあとかたづけ	1	2	3	4	5	6		
⑤ 食料品・日用品の買物	1	2	3	4	5	6		
⑥ ごみだし	1	2	3	4	5	6		
⑦ 掃除	1	2	3	4	5	6		
⑧ 洗濯	1	2	3	4	5	6		

以下は、高校生以下の子どもと同居している方におたずねします

⑨ 子どもたちの日常の世話	1	2	3	4	5	6
⑩ 子どものしつけや家庭学習	1	2	3	4	5	6
⑪ PTAなどへの出席	1	2	3	4	5	6

問15. あなたは、普段、1日のうちで家事・育児・介護等にどのくらい時間を使っていますか。

平日、休日それぞれお答えください。(それぞれ○は1つ)

平日	使っている時間数	休日
1	① ほとんどない	※仕事をしている人は仕事が終わりの日、仕事をしていない人は日曜・祝日
2	② 30分未満	1
3	③ 30分～1時間未満	2
4	④ 1時間～2時間未満	3
5	⑤ 2時間～3時間未満	4
6	⑥ 3時間～4時間未満	5
7	⑦ 4時間～5時間未満	6
8	⑧ 5時間以上	7
		8

問16. 災害時の避難所において、みんなが快適に通ごすために取り組むとよいと思うことは、どんなことですか。(○はいくつでも)

1. 避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者障がい者など様々な立場の人の意見を反映する
2. 男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置
3. 性別に配慮した備蓄品(下着・生理用品など)の備え
4. 備蓄品(下着・生理用品など)の配布時に配慮した担当者の配置
5. 性別に配慮した交流の場の設置
6. 男女をはじめ多様なニーズに配慮した相談体制
7. 女性や子どもなどへの暴力を防止するための防犯対策
8. その他(具体的に)
9. 特になし
10. わからない

生き方や仕事についておたずねします

問17. 女性と仕事について、どのようにお考えですか。(男性の方もお答えください)(○は1つ)

1. 結婚や出産にかかわらず、仕事を続ける方がよい
2. 結婚するまで仕事をもち、結婚後は家事に専念する方がよい
3. 子どもができてから仕事をもち、子どもができた後には専念する方がよい
4. 子育ての時期だけ一時辞め、その後はフルタイムで仕事を続ける方がよい
5. 子育ての時期だけ一時辞め、その後はパートタイムで仕事を続ける方がよい
6. 仕事には就かない方がよい
7. その他(具体的に)
8. わからない

「働いていない女性の方」におたずねします

問18. あなたは、今後働きたいと思いますか。(○は1つ)

1. 働きたい 2. 働きたくない 3. どちらともいえない

問18-1. 現在、仕事をしていない理由は何ですか。(○はいくつでも)

1. 保育施設に入所できなかったため
2. 延長保育や一時預かり、休日保育などの保育サービスが身近にないため
3. 仕事内容、勤務場所、勤務時間等について条件に合う働き口が見つからないため
4. 家事について、夫、パートナ一等家族の協力が得られないため
5. 育児について、夫、パートナ一等家族の協力が得られないため
6. 看護・介護について、施設やサービスが得られなかったため
7. 看護・介護について、施設やサービスを利用できなかったため
8. 働くことについて夫、パートナ一等家族の同意が得られないため
9. 働くことで家族に迷惑がかかると感じるため
10. 仕事と家庭の両方をうまくやっていく自信がないため
11. 仕事に必要な知識や能力が備わっているか不安を感じるため
12. 職場での人間関係をうまくやっているか不安を感じるため
13. その他 (具体的に)

「働いていない方」は、問22からお答えください

働いている方全員におたずねします

問19. あなたは、普段、仕事(在宅就労を含む)にどのくらい時間を使っていますか。※通勤時間を含めた時間でお答えください。(○は1つ)

1. 2時間未満
2. 2～4時間未満
3. 4～6時間未満
4. 6～8時間未満
5. 8～10時間未満
6. 10～12時間未満
7. 12時間以上

問20. あなたが働くうえで、の悩みや不満はどのようなですか。(○はいくつでも)

1. 労働時間が長い
2. 賃金・諸手当が少ない
3. 休暇・休日が少ない
4. 昇進・昇格が期待できない
5. 能力が正當に評価されていない
6. 性別による格差がある
7. 人間関係がむずかしい
8. 責任ある仕事を任せられない
9. 仕事内容がつまらない
10. 教育訓練を受けられる機会がない
11. 雇用形態(正雇・非正規等)が希望通りではない
12. 責任が重い
13. 仕事量が多すぎる
14. 解雇の不安がある
15. その他 (具体的に)
16. 特に悩みや不満はない

問21. あなたの今の職場では、性別によって差があると思いますか。

(各項目に○は1つ)	男性の方が優遇されている		女性の方が優遇されている		平等である	わからない
	1	2	3	4		
① 募集・採用	1	2	3	4		
② 賃金	1	2	3	4		
③ 仕事の内容	1	2	3	4		
④ 昇進・昇格	1	2	3	4		
⑤ 管理職への登用	1	2	3	4		
⑥ 能力評価(業績評価・人事考課など)	1	2	3	4		
⑦ 研修の機会や内容	1	2	3	4		
⑧ 働き続けやすい雰囲気	1	2	3	4		
⑨ 育児・介護休暇など休暇の取りやすさ	1	2	3	4		

全員におたずねします

問22. あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の何を優先させたいですか。希望と現実それぞれをお答えください。

(それぞれ○は1つ)	希望	現実
	① 「仕事」を優先したい(している)	1
② 「家庭生活」を優先したい(している)	2	2
③ 「地域活動・個人の生活」を優先したい(している)	3	3
④ 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい(している)	4	4
⑤ 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先したい(している)	5	5
⑥ 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先したい(している)	6	6
⑦ 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先したい(している)	7	7

「仕事」:フルタイム、パート、アルバイトなどは問わない
 「地域活動」:自活会活動、ボランティア活動など
 「家庭生活」:家族と過ごす、家事、育児、介護、介護・看護など
 「個人の生活」:学習、趣味・娯楽、スポーツなど

問23. 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動などに積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(○は3つまで)

1. 男女の役割分担についての社会通念、慣習、しきたりを改めること
2. 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加することについて、社会的評価を高めること
3. 夫婦、パートナーの間で家事などの分担をより十分に話し合うこと
4. 労働時間の短縮などをすすめ、仕事以外の時間をより多く持つようになること
5. 小さいときから男性に家事や育児に関する教育をすること
6. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための、仲間(ネットワーク)作りをすすめること
7. 家庭や地域活動と仕事の両立などの問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること
8. その他 (具体的に)
9. 特に必要ない

女性の権利と男女間の暴力についておたずねします

問24. あなたが、女性の権利が侵害されていると思うことはどれですか。(〇はいくつでも)

1. 夫や恋人からの暴力 (DV: ドメスティック・バイオレンス)
2. 職場や教育現場におけるセクシュアル・ハラスメント (性的いやがらせ)
3. ストーカー、痴漢行為など
4. 買売春、援助交際
5. 女性のヌード写真等を掲載した雑誌、新聞、ビデオ、DVD、ゲームなど
6. 内容に關係なく女性の体の一部や媚びたポーズ・視線を使用した広告など
7. 男女の固定的な役割分担意識 [男は仕事、女は家庭] という考え方の押しつけ
8. 職場での男女の待遇の格差
9. その他 (具体的に)
10. 特にない

問25. あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。

	もどると思ふ	暴力に合った	場合	場合	暴力にあたる	暴力にあたる
① 平手で打つ	1	2	3			
② 足でける	1	2	3			
③ 身体を傷つける可能性のある物でなぐる	1	2	3			
④ なぐるふりをして、おどす	1	2	3			
⑤ 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3			
⑥ 大声でどなる	1	2	3			
⑦ 他の異性との会話を許さない	1	2	3			
⑧ 何を言っても長期間無視し続ける	1	2	3			
⑨ 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	1	2	3			
⑩ 「誰のおかげで生活できるんだ」とか、「かいしようなし」と言う	1	2	3			
⑪ 家計に必要な生活費を渡さない	1	2	3			
⑫ 外出を制限する	1	2	3			
⑬ 家族や友人との関わりを持たせない	1	2	3			
⑭ いやがっているのに性的な行為を強要する	1	2	3			
⑮ 避妊に協力しない	1	2	3			

問26. あなたはこれまでに、配偶者 (事実婚や別居中を含む) や恋人から、次のようなことをされたことがありますか。

	(各項目に〇は1つ)			配偶者から			恋人から		
	何度もあった	1・2度あった	まったくない	何度もあった	1・2度あった	まったくない	何度もあった	1・2度あった	まったくない
① なぐる、ける、物を投げつける、突き飛ばすなど	1	2	3	1	2	3	1	2	3
② 何を言っても無視する、なぐるふりなどをしておどす、暴言をはくなど	1	2	3	1	2	3	1	2	3
③ 望まないのに性的な行為を強要する、無理やりポルノ画像などを見せるなど	1	2	3	1	2	3	1	2	3
④ 自由にお金を使わせない必要な生活費を渡さない、借金を強要するなど	1	2	3	1	2	3	1	2	3
⑤ 携帯電話の履歴やメールを強引にチェックする、アドレスを消す、友達や身内との付き合いを制限するなど	1	2	3	1	2	3	1	2	3

問26で「何度もあった」または「1・2度あった」と答えた方におたずねします

問26-1. あなたは、これまでに問26であげたような行為について、誰かにも明けたり、相談しましたか。(〇はいくつでも)

1. 警察
2. 家族・親戚
3. 友人・知人
4. 医師
5. 民間の機関 (弁護士会や支援グループなど)
6. 配偶者暴力相談支援センターなどの相談窓口
7. 公的機関の女性相談や人権相談などの相談窓口
8. その他 (具体的に)
9. どこにも相談しなかった

問26-1で「9. どこにも相談しなかった」と答えた方におたずねします

問26-2. どこにも相談しなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

1. どこに (誰に) 相談したらよいかわからなかった
2. 恥ずかしくて誰にも言えなかった
3. 相談しても無駄だと思った
4. 相談したことがわかると、さらに暴力をふるわれる
5. 自分さえ我慢すればよいと思った
6. 自分にも悪いところがあると思った
7. 相談するほどのことではないと思った
8. その他 (具体的に)

別紙に相談窓口のご案内があります。

社会的活動についておたずねします

問27. あなたは社会的な活動をしていますか。また、今後してみたいと思いますか。

(それぞれ〇はいくつでも)		現在している	今後してみたい
①	高齢者や障がい者の介助など、社会福祉に関する活動	1	1
②	自治会・婦人会などの地域活動	2	2
③	P T Aや子ども会、子育て支援、育児サークルなどの活動	3	3
④	スポーツ・文化・芸術の振興を図る活動	4	4
⑤	自然保護、環境美化など地域環境に関する活動	5	5
⑥	防災や防犯など地域の安全に関する活動	6	6
⑦	通訳やホームステイの受け入れなど、国際交流活動	7	7
⑧	民生委員・児童委員、審議会の委員などの公的活動	8	8
⑨	その他 (具体的に)	9	9

問28. あなたが社会的な活動に参加するうえで、支障になることはありませんか。(〇はいくつでも)

1. 仕事
2. 家事・育児
3. 家族 (高齢者・病人など) の介護
4. 健康や体力に自信がない
5. 社会活動に関する情報がない
6. 人間関係がわずらわしい
7. 経済的余裕がない
8. 身近なところに活動場所がない
9. 興味の持てる活動がない
10. 家族の理解・協力が得られない
11. 家族以外の周りの人の目が気になる
12. 特に支障になることはない
13. その他 (具体的に)
14. わからない

男女共同参画社会についておたずねします

問29. 次にあげる項目のうちで、あなたがご存じのものはありますか。

(各項目に〇は1つ)		知っている内容を知つて	はあるが知らない内容	聞いて知らない内容	聞いて知らない内容
①	男女共同参画社会	1	2	3	3
②	女子差別撤廃条約	1	2	3	3
③	ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	1	2	3	3
④	ジェンダー (社会的性別)	1	2	3	3
⑤	男女雇用機会均等法	1	2	3	3
⑥	ワーク・ライフ・バランス (仕事と生活の調和)	1	2	3	3
⑦	ダイバーシティ (多様な人材の活用)	1	2	3	3
⑧	D V防止法	1	2	3	3
⑨	女性活躍推進法	1	2	3	3
⑩	高石市男女共同参画計画	1	2	3	3

問30. 男女共同参画の社会を実現するためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は5つまで)

1. 法律や制度のうえでの見直しを行い、性別による差を改めること
2. 女性を取り巻く様々な偏見、固定的な社会通念、慣習・しきたりを改めること
3. 女性自身が経済力をつけたり、積極的に知識・技術の向上を図ること
4. 女性の意識改革
5. 男性の意識改革
6. 小さいときから家庭や学校で男女平等について教えること
7. 育児・介護を支援する施設やサービスの充実を図ること
8. 職場において性別による待遇 (配置や昇進など) の差をなくすること
9. 政府や企業などの重要な役割に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実すること
10. その他 (具体的に)
11. わからない

問31. あなたご自身の経験から、この10年間で、次のことがらについてどのようにお感じですか。

	(各項目に〇は1つ)				
	そう思う	どちらかという	どちらともいえない	どちらかという	そう思わない
① 社会で女性が活躍しやすくなっている	1	2	3	4	5
② 男女とも働き続けやすいまちなになっている	1	2	3	4	5
③ 子育てする男性が増えている	1	2	3	4	5
④ 介護をする男性が増えている	1	2	3	4	5
⑤ 様々な相談場所が身近に増えている	1	2	3	4	5

高石市が今後、男女共同参画施策をすすめるうえで、ご意見ご希望などがありましたら、ご自由にお書きください。

※ 記入もれがないかもう一度ご確認のうえ、7月20日(水)までに、同封の返信用封筒に入れて郵便ポストに投函してください。(切手は不要です)

ご協力ありがとうございました。

配偶者暴力相談支援センター

(配偶者や恋人などからのなぐる・けるといった身体的な暴力のほか、精神的な暴力も含め、相談・各種情報提供などを行います。)

大阪府女性相談センター	06-6949-6022 06-6946-7890 [FAX] 06-6940-0075	9:00 ~ 20:00 (祝は休み)
大阪府女性相談センター (夜間・祝日DV電話相談)	06-6946-7890 [FAX] 06-6940-0075	上記以外の時間 (夜間・祝日)
大阪府女性相談センター (外国人専用電話)	06-6949-6181 [大阪府外国人情報コーナー/オゾン利用]	9:00 ~ 17:30 (土・日・祝は休み)
岸和田子ども家庭センター (DV専用)	072-441-7794	9:00 ~ 17:45 (土・日・祝は休み)

大阪府総合労働事務所

職場におけるセクシュアル・ハラスメント相談	06-6946-2601	9:00 ~ 17:45 (土・日・祝は休み) ※第1、第2、第3、第5木曜は20:00まで
-----------------------	--------------	--

すこやか教育相談(大阪府教育センター)

学校におけるセクシュアル・ハラスメント相談	06-6607-7361	9:30 ~ 17:30 (土・日・祝は休み)
-----------------------	--------------	----------------------------

大阪府警察本部

ウーマンライン (性犯罪被害相談)	06-6941-0110	9:00 ~ 20:00 (土・日・祝および上記以外の時間兼は留守番電話で対応)
ストーカー110番	06-6937-2110	24時間

性暴力支援センター・大阪 SACHICO (さちこ)

被害直後からの総合的支援	072-330-0799	24時間
--------------	--------------	------

法務省

女性の人権ホットライン	0570-070-810	8:30 ~ 17:15 (土・日・祝は休み)
-------------	--------------	----------------------------

ドーンセンター(大阪府立男女共同参画・青少年センター)

女性の悩み電話相談	06-6937-7800	【火～金】17:00～20:00 【土・日】10:00～16:00 (月・祝は休み)
-----------	--------------	--

高石市役所 人権推進課

人権相談・女性相談 (予約受付)	072-265-1001	9:00～17:30 (土・日・祝は休み)
---------------------	--------------	--------------------------

※いずれも相談は無料です。

男女平等に関する意識調査 報告書

編集・発行 高石市 総務部 人権推進課

〒592-8585

大阪府高石市加茂 4 丁目 1 番 1 号

TEL 072-265-1001 (代表)

発行年月 2017 年 (平成 29 年) 3 月